



社会医療法人同愛会年誌
博愛便2025

HAKUAI information





社会医療法人同愛会年誌

博愛便2025

HAKUAI information



社会医療法人同愛会年誌 『博愛便2025』発刊にあたり

Ishibe Yuichi
社会医療法人同愛会理事長 石部 裕一

同愛会年報『博愛便2025』の発刊にあたり、日頃より賜っておりますご支援とご指導に、心より御礼申し上げます。

本年も『博愛便2025』では、博愛病院にとどまらず、同愛会全体の年報として、さまざまな情報をお届けいたします。同愛会では、執行部による年次目標に基づき、各部署がバランス・スコアカードを活用して年間活動計画を策定し、PDCAサイクルを通じて着実な運営を進めております。関係機関の皆様におかれましては、私どもの活動実績をご高覧のうえ、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年度の同愛会の大きな話題は博愛病院に新しく廣岡保明病院長をお迎えしたことです。先生は外科医で3月までは鳥取県立中央病院院長を務めておられました。新しい感覚で博愛病院を盛り上げて頂けることを期待しています。

全国レベルでの最近の大きな話題として、全国の病院経営が非常に厳しい状況になっていることです。令和7年3月12日、6つの病院団体と日本医師会は合同で緊急記者会見を開き「合同声明」を発表しました。要約すると「我が国の医療機関の経営状況は、著しく逼迫しており賃金上昇と物価高騰、さらには日進月歩する医療の技術革新への対応ができない。このままでは人手不足に拍車がかかり、患者さんに適切な医療を提供できなくなるだけでなく、ある日突然、病院をはじめとした医療機関が地域からなくなってしまう。」というショッキングなものでした。その裏付けとして発表された全国の1816病院から回答を得られた緊急調査の結果を見ると、

- 2023年度、2024年度ともに医業費用が医業収益を上回っている。
- 2024年度は2023年度と比較し医業費用の増加が医業収益の増加より大きい。

- 医業利益率・経常利益率ともにマイナスであり、2023年度より2024年度の方が悪化している。

そして、コロナ前の2018年と比較すると、2023年の経費は、給与費よりもその他経費の増加が大きいこと。それも診療報酬では償還されない委託費、水道光熱費などの経費が増えており、控除対象外消費税は約50%増加しています。

このように病院経営が厳しくなっても、医療機関は、患者さんから頂く診療報酬は公定価格で一円たりとも上げることはできず、消費税も頂けないという構造的な課題が浮き彫りになったと言われています。

このような状況は博愛病院でもほぼ同様な経緯を辿っており、同愛会として2023年度と2024年度はいずれも△2億円を超える損益を計上しました。また、老健やわらぎでは利用者の減少、ふくよね博愛クリニックでは受診患者減、グループホーム博愛ではスタッフの不足により入所者を増やせないことが経営圧迫に拍車をかけています。一方、在宅医療センターとこども在宅・発達支援クリニックでは多くの患者さんに支えられ順調な経営を維持しています。

このような厳しい経営状況を踏まえて、今年度は経営改善WGの立ち上げ、同愛会組織の存続をかけ、不退職の覚悟で経営改善に努めてまいります。どうか皆様方には同愛会へのご支援をこそよりお願いいたします。

本年報が地域の医療機関の皆様と同愛会との架け橋になることを願い、『博愛便2025』発刊のご挨拶とさせていただきます。

2025年初夏

Profile

1967年 鳥取大学医学部医学科卒業
1968年 鳥取大学医学部附属病院研修医
1969年 天理よろづ相談所病院麻酔科医員
1971年 鳥取県立中央病院麻酔科医員
1974年 学校法人近畿大学医学部附属病院麻酔科講師
京都大学胸部疾患研究所臨床肺生理部門医員併任
1979年 近畿大学医学部麻酔科学講座講師
近畿大学医学部附属病院集中治療室室長兼務
京都大学胸部疾患研究所非常勤講師併任
1986年 米国ペンシルベニア大学医学部麻酔科客員研究員
1989年 厚生労働技官医療職国立大阪南病院麻酔科医長
近畿大学医学部非常勤講師併任
1991年 文部教官教育職鳥取大学医学部麻酔学講座助教授
1997年 鳥取大学医学部麻酔・蘇生学(現・麻酔・集中治療医学)講座教授
鳥取大学医学部集中治療部長兼務
2001年 鳥取大学医学部附属病院副院長
2003年 鳥取大学医学部附属病院院長
2004年 国立大学法人へ移行
鳥取大学理事・鳥取大学副学長・鳥取大学医学部教授兼務

2007年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院院長
2013年 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院顧問・名誉院長
医療法人真誠会理事・院長代理
2015年 医療法人同愛会理事長・博愛病院院長
2016年 博愛病院院長退任
2020年 社会医療法人同愛会理事長
2022年 社会医療法人同愛会理事長・博愛病院院長
2025年 社会医療法人同愛会博愛病院院長退任

主な所属学会と取得資格

日本麻酔科学会(元会員・認定指導医)
日本集中治療医学会(専門医・功労会員)
日本蘇生学会(功労会員)
日本老年麻酔学会(名誉会員)
American Society of Anesthesiologists Society of Critical Care Medicine (Member)
厚生労働省 麻酔科標榜医
日本医師会 認定産業医



『博愛便 2025』 発刊にあたってのご挨拶

Hirooka Yasuaki

社会医療法人同愛会 博愛病院院長 廣岡 保明

平素は博愛病院にご支援、ご指導を賜り、心より御礼申し上げます。このたび、同愛会年報『博愛便2025』を発刊する運びとなりましたので、ご挨拶申し上げます。

私事、令和7年4月1日付けで同愛会 博愛病院院長を拝命いたしました。前院長（現理事長）の方針を踏襲し、良き伝統を継承しつつ変革が必要なものはさらに高みを目指していきたいと思っておりますが、一番重要なことは、大正10年に市民の寄付によって創立された当院ですので、今後も市民のため、市民に寄り添っていく病院であり続ける事であると思っております。

さて現在、鳥取県西部医療圏の各病院が急性期を担当していますが、今後は各病院の役割分担をより明確にしていく必要があると考えます。博愛病院は急性期だけではなく、予防、回復期、慢性期、在宅とすべてが揃っておりますが、他の病院との違い・特徴をより明確にする意味でも、予防、高齢者、後方支援、在宅等が重要なキーワードになってくると思われます。そのため、救急医療や急性期医療は引き続き担保しながら、予防医療、高齢者医療、在宅医療等に、より注力していく必要があると思っております。

具体的には、高齢者の肺炎（誤嚥性肺炎含）や骨折などの救急は、今後も増加していくことが予想される上、一旦入院されると元通りの状態で退院することが困難である事を多々経験いたしますが、そのような状況に対し、入院早期からリハビリ、栄養改善を集中的に行うことは当院の大きな役割の1つであると思っております。さらに、このような高齢者救急医療をさらに実施しやすい環境を整備するための病床再編成なども今後の検討課題と考えております。また、厚労省は入院医療から在宅医療に移行するという方向性をだし

ておりますが、例えば、高齢者で独居の方、種々の疾患で自立が簡単にはいかない方、急性期治療後にケアが必要な方、さらにはend stageの方に対しても、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ）を積極的に進めていきたいと思えますし、進めていけるのは当院の特徴（役割）の一つであると思えます。そのような方々に少しでも生活しやすい環境を整えていきたいと、担当職員は毎日患者さんのご自宅への訪問を続けております。

一方、国内の多くの病院と同じように、当院も経営改善が喫緊の課題です。先進的な施設などの方策を参考に、構造的な変更の検討とともに、収益向上策や経費削減策を模索し職員一丸となって取り組んでおります。それによって皆様方にご迷惑をおかけしないようにしているつもりですが、何か問題になるような事がございましたらご遠慮なくご連絡いただければ幸いです。

最後になりますが、患者さんに対してのみならず職員同士の挨拶に始まる接遇は素晴らしく、当院の誇れる点の1つですので、是非一度お越しいただけましたら幸甚でございます。

この『博愛便2025』が皆様と博愛病院との間を少しでも埋めることができることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

2025年初夏

Profile

1983年 鳥取大学医学部医学科卒業
1988年 鳥取大学大学院医学研究科修了
1988年 鳥根県益田赤十字病院外科勤務
1989年 鳥取大学医学部附属病院医員（第1外科）
1989年 岡山県落合病院外科勤務
1989年 鳥取大学医学部附属病院医員（第1外科）
1990年 鳥取県立中央病院外科勤務
1991年 鳥取大学医学部附属病院医員（第1外科）
1992年 鳥取大学医学部附属病院助手（第1外科）
1996年 米国ピッツバーグ大学移植外科留学（臨床研修）
1996年 鳥取大学医学部附属病院助手（第1外科）
2000年 鳥取大学医学部附属病院講師（第1外科）
2003年 京都大学医学部移植外科留学（臨床研修）
2003年 鳥取大学医学部附属病院講師（第1外科）
2007年 鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座教授
2019年 鳥取県立中央病院外科勤務（副院長）
2020年 鳥取県立中央病院院長
2025年 社会医療法人同愛会博愛病院院長就任

主な所属学会と取得資格

日本外科学会（専門医、指導医）
日本乳癌学会（名誉専門医）
日本肝胆膵外科学会（名誉指導医）
日本臨床細胞学会（専門医、名誉会員）
日本臨床外科学会
日本超音波医学会
鳥取県細胞学会（会長）
検診マンモグラフィー読影認定医師
鳥取大学名誉教授

目 次

巻頭言	2
目 次	4
理念・運営方針	5
沿 革	7
組織図	8
令和6年度の主な出来事	10
病院概要	12

博愛病院

診療科・専門外来

内科(消化器内科)	14
内科(循環器内科)	17
内科(呼吸器内科)	18
内科(アレルギー疾患内科)	20
内科(糖尿病・内分泌内科)	21
内科(脳神経内科)	22
内科(総合診療内科)	24
外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)	25
外科(アミノインデックス外来)	28
外科(腎臓外科(臓器移植))	29
整形外科(人工関節専門外来・骨粗鬆症専門外来・ペインクリニック)	30
産婦人科	32
麻酔科	34
放射線科	35
眼 科	36
臨床検査科	37
非常勤医師による専門外来	38
救急診療体制	39

看護部

看護部	40
外来看護	41
2階病棟(地域包括ケア病床)	41
3階A病棟(療養病床)	42
3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)	42
4階A病棟(一般病床・地域包括ケア病床)	43
4階B病棟(一般病床)	43

中央診療部

手術室	44
透析室	44
内視鏡室	45
化学療法室	45
ドック健診センター	46

診療技術部

薬剤部	47
臨床検査部	48
診療放射線部	49
リハビリテーション部	50
臨床工学室	51
栄養管理室	52

在宅医療センター

在宅医療センター	53
訪問診療部	53
訪問看護ステーション博愛	54
訪問リハビリテーション博愛	54
サービスプラン博愛	55
ヘルパーステーション博愛	55

医療安全管理部

医療安全対策室	56
感染対策室	56

患者支援部

入退院支援室・医療相談室・地域連携室・患者相談室	57
--------------------------	----

その他

事務部・医師支援室・情報システム管理室	58
---------------------	----

チーム医療

感染対策チーム(ICT)	59
褥瘡対策チーム(スキンケアチーム)	59
抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	59
整形外科チーム	59
緩和ケアチーム	60
心不全チーム	60
がんのリハビリテーションチーム	60
呼吸ケアサポートチーム(RST)	60
糖尿病チーム	61
栄養サポートチーム(NST)	61
モニターアラームコントロールチーム(MACT)	61

思い・願い・祈り(織部灯籠〜キリシタン灯籠〜の出現)・	62
-----------------------------	----

ふくよね博愛クリニック

ふくよね博愛クリニック	63
-------------	----

博愛こども発達・在宅支援クリニック

博愛こども発達・在宅支援クリニック	67
-------------------	----

介護老人保健施設やわらぎ

介護老人保健施設やわらぎ	73
--------------	----

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛	79
----------------	----

令和7年度部署別活動目標シート

令和7年度部署別活動目標シート	81
-----------------	----

活動目標	82
医療の質に関する指標	92
医療の質可視化プロジェクト	96
教育・研究実績	98
満足度調査(患者・開業医・職員)	105
広報物紹介	109
財務概況	110
予約について[外来診療・放射線科検査]	111

外来診療担当医師一覧表

同愛会 理念

ミッション (Mission)

あなたの健康、みんなの幸せ

ビジョン (Vision)

こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

バリュー (Value)

博愛精神：博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。

地域貢献：医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。

患者第一：顧客の求めに気持ちよく応え顧客第一の医療を実践します。

価値共創：地域と共にSDGsに取り組む新たな価値を創造します。

人材育成：誇り高き人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

令和6年9月1日改定

博愛病院 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い地域に貢献します。

運営方針

- 1 急性期から慢性期まで、患者さんの価値観に配慮した医療を提供します。
- 2 新しい医療知識と技能を修得し、根拠に基づいた医療を実践します。
- 3 博愛病院職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添う接遇を行います。
- 4 医療と介護の懸け橋となり、地域包括ケアシステムの円滑な運用に貢献します。
- 5 地域の期待と信頼に応えるため、断らない救急医療を目指します。
- 6 健康診断や人間ドックを推進し、病気の予防と早期発見に努めます。
- 7 これらの方針を実現するため、健全な病院経営を行います。

令和6年9月1日改定

ふくよね博愛クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

運営方針

- 1 いつでも気軽に受診でき、信頼されるかかりつけ医を目指します。
- 2 博愛病院との連携を図って、質の高い医療提供を継続します。
- 3 在宅医療を充実させるとともに、患者や家族が望む場所での過ごし方を支援します。
- 4 健康診断や予防接種を推進し、病気の早期発見と予防に努めます。
- 5 ふくよね博愛クリニック職員としての誇りを持ち、患者さんの心に寄り添います。
- 6 サテライトクリニックとして、博愛病院の診療機能向上に貢献します。
- 7 これらの方針を実現するため、健全なクリニック経営を行います。

令和4年4月1日制定

博愛こども発達・在宅支援クリニック 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で、すべての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

運営方針

- 1 どんな子どもと一緒に育つことのできる地域をつくれます。
- 2 難病の子ども、障がいを持った子どもの在宅生活を支援します。
- 3 難病の子ども、障がいを持った子どもが将来自立して生活できるように支援します。
- 4 難病の子ども、障がいを持った子どもの保護者、きょうだいを支援します。
- 5 難病の子ども、障がいを持った子どもの最期の過ごし方を支援します。
- 6 難病の子ども、障がいを持った子どもを支援する人材を育成します。

平成31年4月1日制定

介護老人保健施設やわらぎ 理念・役割

理念

介護老人保健施設やわらぎは、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

役割

- 1 包括的ケアサービス施設
利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。
- 2 リハビリテーション施設
体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。
- 3 在宅復帰施設
脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。
- 4 在宅生活支援施設
自立した在宅生活が維持できるよう、介護予防に努め、入所や通所リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他のサービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。
- 5 地域に根ざした施設
家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

平成30年6月1日改定

医療支援型グループホーム博愛 理念・運営方針

理念

私たちは博愛の心で、障がいの有無に関わらず誰もが地域で安心安全に暮らせる共生社会の実現に貢献します。

運営方針

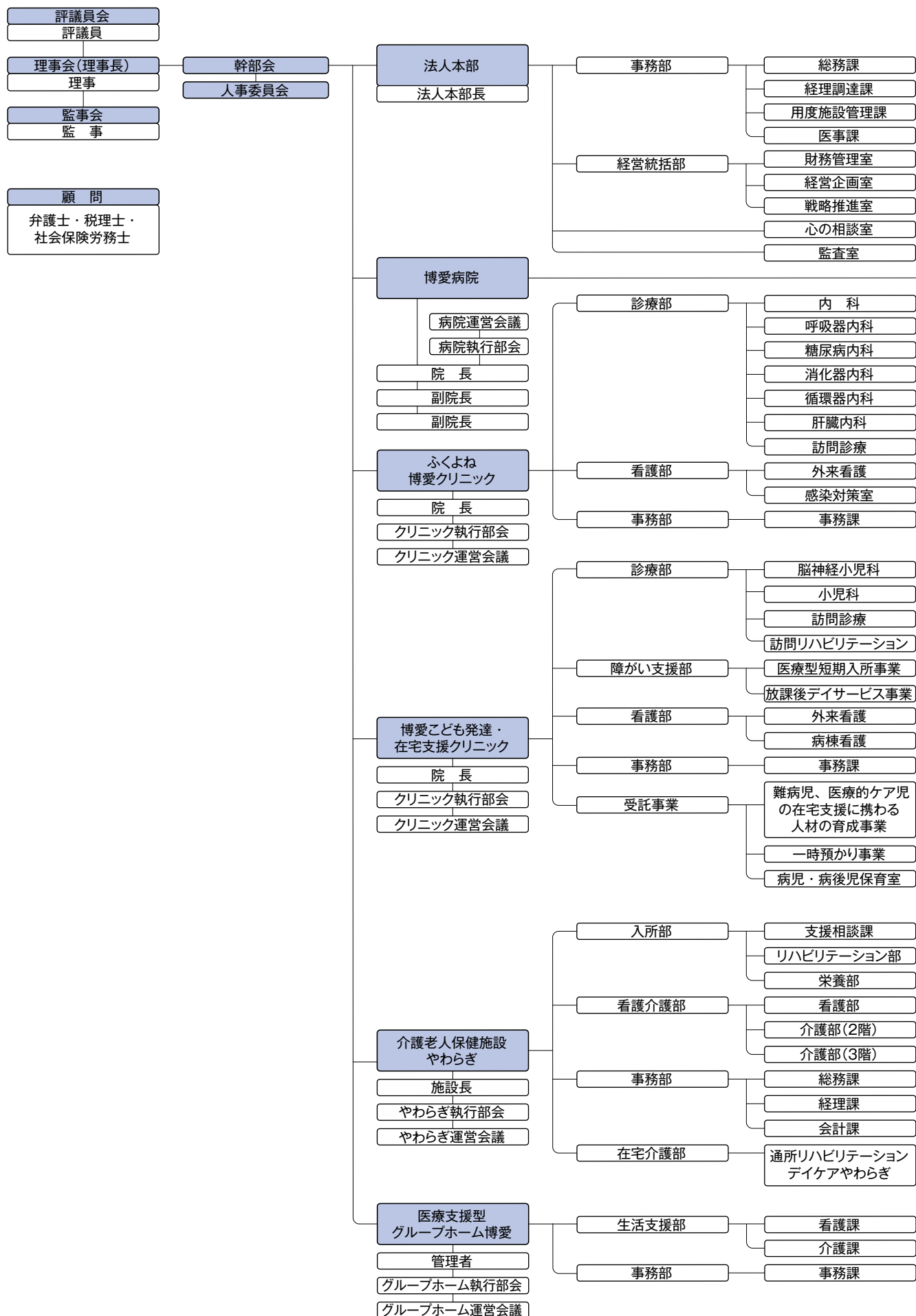
- 1 利用者の意思及び人格を尊重し、利用者第一のサービスを提供します。
- 2 終の棲家として、利用者が安心して健やかに過ごせる暮らしを支援します。
- 3 ご家族や地域との結び付きを重視し、すべての関係機関との連携に努めます。
- 4 医療的ケアが必要な重度障がい者の地域生活を支える責務を果たします。
- 5 医療的ケアが必要な重度障がい者を支援できる医療・介護の人材を育成します。

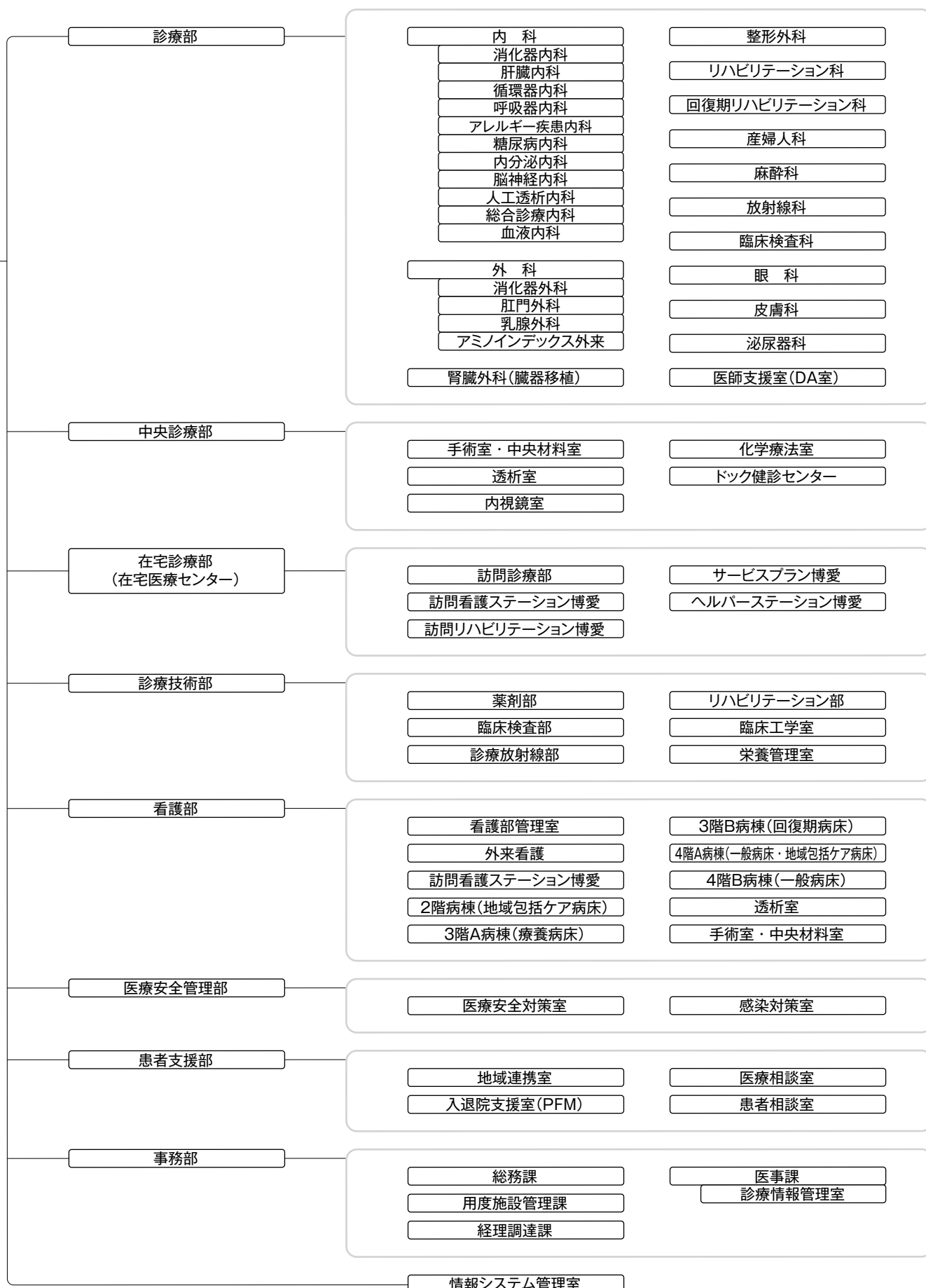
令和5年7月1日制定

沿 革

年 月	事 項
大正 9年	株式会社博愛病院創立の趣旨決定
大正10年 7月12日	博愛病院創立総会開催
大正10年10月 3日	株式会社博愛病院として登記(創立記念日とする)西伯郡米子町東倉吉町40番地
大正11年 6月20日	加茂町に博愛病院開院(総病床数130床)西伯郡米子町加茂町1丁目1番地
大正11年	看護婦養成所設立
昭和28年	第10病棟・第11病棟建築増床(総病床数242床)
昭和38年 6月 1日	株式会社から医療法人へ移行
昭和39年 9月	6床増床(総病床数248床)
昭和45年 3月	隔離病棟閉鎖・病床再編(総病床数195床)
昭和50年10月	加茂町から両三柳へ新築移転(総病床数180床)
昭和61年 1月	人工透析を導入し治療開始(4床)
昭和62年 7月	救急指定病院となる
平成 元年 7月	東館完成52床増床(総病床数232床)
平成 5年 5月	小児専門病棟30床増床(総病床数262床)
平成 6年 5月	介護老人保健施設やわらぎ開設
平成10年 2月	10床増床(総病床数272床)
平成11年12月	社会福祉法人博愛会設立に協賛、「博愛苑」開設支援
平成14年12月	本館増改修移転(総病床数247床)
平成19年 4月	訪問看護ステーション博愛と訪問看護センター合併し、博愛病院内に「訪問看護ステーション博愛」を設置
平成20年 8月	1階小児科病棟を閉鎖し、本館4階へ移転
平成21年 4月	回復期リハビリテーション病棟開設 病床再編:一般病床(急性期)217床、回復期リハビリテーション病床30床(総病床数247床)
平成21年 4月	院内保育所(はくあい保育園かるがも)開設
平成23年 7月	がん診療連携拠点病院に準じる病院に指定
平成25年 7月	特定医療法人財団へ法人格変更
平成25年 9月	病床数削減再編:一般病床(急性期)131床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成26年 6月	病床再編:一般病床(急性期)115床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床、地域包括ケア病床16床(総病床数199床)
平成27年 6月	病児保育所(病児保育かるがも)開設
平成27年11月	病床再編:一般病床(急性期)80床、地域包括ケア病床51床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成29年 5月	在宅医療センター竣工
平成30年 1月	病床再編:一般病床(急性期)72床、地域包括ケア病床59床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)
平成31年 4月	博愛こども発達・在宅支援クリニック開設
令和 2年 2月	社会医療法人へ法人格変更
令和 2年 4月	日立記念病院を承継し、やすぎ博愛クリニックとして業務開始
令和 4年 4月	ふくよね博愛クリニック開設
令和 5年10月	医療支援型グループホーム博愛開設
令和 5年11月	病床再編:一般病床(急性期)64床、地域包括ケア病床67床、回復期リハビリテーション病床30床、療養病床(医療型)38床(総病床数199床)

組織図 (社会医療法人同愛会)





(令和 7 年 5 月1日現在)

令和6年度 同愛会 主な出来事

年	月	日	事 項
令和6年	4月	1日	令和6年度 部署別活動目標シート(BSC)運用開始 ※令和6年3月28日理事会承認
	4月	1日	Facebook開設(博愛病院・ふくよね博愛クリニック)
	4月	1日	辞令式、新採用者オリエンテーション(2日まで)
	4月	4日	ふくよね博愛クリニック第3回健康教室開催
	4月	5日	省エネ対策チーム始動
	4月	8日～	かるがもパトロール実施(4/15まで)
	5月	7日～	看護の日ポスター展示(5/24まで)
	5月	10日	看護の日イベント
	5月	17日～	第1回Web医療安全対策研修会(6/7まで)
	5月	20日～	開業医満足度調査(6/17まで)
	5月	28日	勤怠管理システム(Dr.Joy)導入運用開始
	5月	31日	BSCスプリングレビュー開催
	6月	1日	介護職員・看護職員等処遇改善手当規程変更
	6月	20日	理事会・評議員会
	6月	24日	おしかけ出前講座実施(河崎公民館)
	6月	27日	防災避難訓練実施
	6月	27日	ふくよね博愛クリニック第4回健康教室開催
	7月	1日	正面玄関出入口回転自動ドアを撤去
	7月	8日～	かるがもパトロール実施(7/17まで)
	7月	18日	おしかけ出前講座実施(福米西公民館)
	7月	19日	病院機能評価模擬審査受審
	7月	24日	中国四国厚生局適時調査
	7月	24日	同愛会年誌 博愛便発刊
	7月	25日	西部医師会との連絡協議会開催
	8月	1日	第2駐車場開設(旧加茂公民館跡地)
	8月	9日	人権・倫理研修会(Web 8/26～10/27)
	8月	16日	貯水槽移設
	8月	19日	土地減(透析駐車場付近)
	8月	19日～	新人事考課制度に関するアンケート調査実施(9/30まで)
	8月	27日～	第1回Web感染対策研修会(9/15まで)
	8月	28日	山陰初の最新乳房撮影装置・運用開始
	9月	1日	同愛会理念・博愛病院理念の一部改定
	9月	11日	博愛かるがもカフェ開催(在宅医療センター)
	9月	16日	ナースステーションからスタッフステーションへ名称変更
	9月	24日～	かるがもパトロール実施(9/30まで)
	9月	26日	ふくよね博愛クリニック第5回健康教室開催

年	月	日	事 項
	10月	1日	ふくよね博愛クリニックの診療体制変更(土曜日診療の中止、木曜日午後診療の開始)
	10月	1日	内部通報制度窓口変更
	10月	1日～	第6回職員満足度調査実施(10/31まで)
	10月	1日	インフルエンザ予防接種受付開始(11/1～実施)
	10月	7日	同愛会永年勤続者表彰
	10月	15日	おしかけ出前講座実施(福生東公民館)
	10月	17日	日本医療機能評価機構病院機能評価訪問審査(10/18まで)
	10月	17日	おしかけ出前講座実施(はまだんカフェ)
	10月	20日	電気設備点検(法定点検)に基づき、全館計画停電実施
	10月	24日	防災避難訓練(水害関連 避難訓練・水防備品設置訓練)
	10月	24日	航空機事故対策総合訓練参加
	10月	25日～	新型コロナワクチン接種(11/11まで)
	11月	1日～	職員向けストレスチェック実施(12/14まで)
	11月	5日～	患者満足度アンケート実施(入院・透析:11/5～12/25、外来:11/11～11/15)
	11月	6日	防犯訓練実施
	11月	11日～	医学・看護関連書 展示会開催(11/14まで)
	11月	27日	BSCオータムレビュー開催
	11月	28日	理事会・評議員会
	11月	29日	院内履修報告会
	12月	2日	火災通報装置更新
	12月	6日	自家発電機更新
	12月	11日	博愛病院横大沢川沿い道路開通
令和7年	1月	6日	小児リハビリテーションを博愛こども発達・在宅支援クリニックへ移行
	1月	6日	新年互礼会
	1月	14日～	メンタルヘルスケア研修(2/16まで)
	1月	20日	おしかけ出前講座(加茂地区保健推進委員)
	1月	22日～	Web個人情報研修会(2/16まで)
	2月	12日	各部署BSCヒアリング(3/21まで)
	2月	17日	おしかけ出前講座(米子瓦斯株式会社)
	2月	17日	働き方改革研修会(3/16まで)
	2月	17日	第2回Web医療安全対策研修会(3/15まで)
	2月	20日	虐待防止研修(WEB2/28～3/31)
	2月	25日	第2回Web感染対策研修会(3/17まで)
	3月	10日	コードブルー対応訓練
	3月	10日	とりりんりん運用開始
	3月	27日	理事会・評議員会

病院概要

法人名称	社会医療法人同愛会 理事長 石部裕一
病院名称	博愛病院 院長 廣岡保明
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地 TEL(0859)29-1100代 FAX(0859)29-6322
創立	大正10年10月
病床数	199床 急性期一般入院料4(DPC) 64床／地域包括ケア病棟入院料1 51床 地域包括ケア入院医療管理料1 16床／回復期リハビリテーション病棟入院料3 30床 療養病棟入院基本料1 38床
診療科	内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、呼吸器内科、アレルギー疾患内科、糖尿病内科、内分泌内科、脳神経内科、人工透析内科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、腎臓外科(臓器移植)、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、麻酔科(多喜小夜)、放射線科、臨床検査科、眼科、皮膚科、泌尿器科、血液内科【計25科】
専門外来センター	人工関節専門外来、骨粗鬆症専門外来、糖尿病専門外来、乳腺専門外来 ドック健診センター、在宅医療センター(訪問診療部、訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛)
その他事業	居宅療養管理指導事業 博愛居宅療養管理指導センター、障害福祉サービス事業重度障がい児者医療型ショートステイ、重度後遺障害者短期入院協力事業
関連施設	ふくよね博愛クリニック、博愛こども発達・在宅支援クリニック、介護老人保健施設やわらぎ、医療支援型グループホーム博愛病児保育かるがも、院内保育所はくあい保育園かるがも、やすぎ博愛クリニック
敷地内禁煙	実施あり

職員数(職種別)

医師	36	言語聴覚士	9
薬剤師	11	臨床工学士	5
看護師	205	管理栄養士	4
保健師	2	MSW	3
診療放射線技師	10	介護支援専門員	4
臨床検査技師	13	介護福祉士	20
理学療法士	31	看護助手	11
作業療法士	20	事務員、他	72

総数(嘱託、パート、出向含む) 456

施設指定

がん検診精密検査医療機関
①胃がん ②大腸がん ③肝臓がん
④肺がん ⑤乳がん ⑥子宮がん
(鳥取県健康対策協議会)
(鳥取県成人健診管理指導協議会)
鳥取県心臓疾患精密検査医療機関
鳥取県肝疾患専門医療機関
鳥取県肝炎ウイルス医療機関検診協力医療機関
骨粗鬆症精密検査医療機関(鳥取県保健事業団)
保険医療機関
救急指定病院
労働災害保険指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関指定病院
母体保護法指定病院
児童福祉法指定助産施設
生活保護法指定病院
結核指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
協力型臨床研修指定病院
育成医療・更生医療指定病院
(整形外科・眼科・じん臓・じん移植)
精神通院医療指定病院
鳥取県がん診療連携拠点病院に準じる病院指定施設
発熱患者の「診察・検査医療機関」
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
第一種協定指定医療機関、第二種協定指定医療機関
鳥取県指定小児慢性特定疾病医療機関

施設認定

日本外科学会専門医制度修練施設
日本乳癌学会認定施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設
日本消化器がん検診学会大腸CT検査技術施設
日本肝臓学会認定施設
日本膵臓学会認定指導施設
日本神経学会認定准教育施設
日本認知症学会教育施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
日本がん治療認定医機構研修施設
がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
マンモグラフィ検診施設画像認定(デジタル)
日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
(MRI安全管理に関する事項)
外国人患者の受け入れに係る準拠点病院
公益財団法人日本医療機能評価機構
病院機能評価認定
日本人間ドック学会
人間ドック健診施設機能評価認定
人間ドック健診専門医制度暫定研修施設

基本診療料の施設基準

情報通信機器を用いた診療に係る基準
機能強化加算
医療DX推進体制整備加算
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)
療養病棟入院基本料(入院料1)
救急医療管理加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
看護職員夜間配置加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
療養病棟療養環境加算1
医療安全対策加算1

感染対策向上加算1
 患者サポート体制充実加算
 後発医薬品使用体制加算1
 病棟薬剤業務実施加算1
 データ提出加算
 入退院支援加算
 認知症ケア加算
 せん妄・ハイリスク患者ケア加算
 協力対象施設入所者入院加算
 回復期リハビリテーション病棟入院料3
 地域包括ケア病棟入院料1及び地域包括ケア入院医療管理料1

入院時食事療養費の基準

入院時食事療養（Ⅰ）及び入院時生活療養（Ⅰ）

特掲診療料の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算
 がん疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料Ⅰ
 がん患者指導管理料Ⅱ
 がん患者指導管理料Ⅲ
 移植後患者指導管理料（臓器移植後）
 小児運動器疾患指導管理料
 婦人科特定疾患治療管理料
 二次性骨折予防継続管理料1
 二次性骨折予防継続管理料3
 下肢創傷処置管理料
 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
 外来腫瘍化学療法診療料1
 ニコチン依存症管理料
 がん治療連携計画策定料
 肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 地域連携診療計画加算
 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
 医療機器安全管理料1
 別添1の「第14の2」の1の(1)に規定する在宅療養支援病院
 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
 在宅がん医療総合診療料
 在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
 遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
 BRCA1/2遺伝子検査
 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
 HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
 検体検査管理加算(Ⅰ)
 検体検査管理加算(Ⅳ)
 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 神経学的検査
 コンタクトレンズ検査料1
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 乳房MRI撮影加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
 がん患者リハビリテーション料
 人工腎臓
 導入期加算1
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
 椎間板内酵素注入療法

食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、

腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 輸血管理料Ⅱ
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料(Ⅰ)
 保険医療機関間の連携による病理診断
 看護職員処遇改善評価料51
 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
 入院ベースアップ評価料51

日本医療機能評価機構認定

一般病院1
 (100床以上) (主たる機能)

リハビリテーション病院
 (副機能)



2019年 3月 公益財団法人 日本医療機能評価機構認定
 認定番号JC2308 バージョン 3rdG:Ver.3.0
 2021年 3月 期中の確認完了
 2025年 2月 更新

日本人間ドック・予防医療学会 健診施設機能評価認定



2023年 8月 日本人間ドック・予防医療学会
 健診施設機能評価認定
 優良健診施設指定
 2028年 4月 更新予定

(令和7年6月1日現在)

消化器内科

【概 要】

当院の消化器内科は、日本消化器病学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本膵臓学会認定指導施設に認定されており、複数の認定医、専門医、指導医などの資格をもった医師が、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患に関して救急疾患、慢性疾患、悪性腫瘍などの疾患に対して質の高い診断・治療を行っています。消化器外科、放射線科と合同カンファレンスを行い、最良の消化器疾患の診療を行えるように努めています。今回、消化器内科医師の入れ替えがあり、若い医師の教育にも力点を置きつつ積極的な診療を行っています。また、内視鏡室には、消化器内視鏡学会が認定する「消化器内視鏡技師」の資格を持つ看護師が4名配置されており、消化器内科のカンファレンスにも参加し、チーム医療に取り組んでいます。

対象疾患

- ◆食道疾患（逆流性食道炎、食道がん、静脈瘤など）
- ◆胃・十二指腸疾患（潰瘍、がん、胃炎、ヘリコバクター・ピロリ感染症、機能的ディスペプシアなど）
- ◆腸疾患（大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性腸炎、感染性腸炎、過敏性腸症候群、便秘症など）
- ◆肝疾患（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、脂肪肝など）
- ◆胆道疾患（胆石症、胆道がんなど）
- ◆膵臓疾患（急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、嚢胞性膵疾患など）

【実 績】

上部消化管	令和4年度	令和5年度	令和6年度
上部消化管内視鏡検査(EGD)	4,511	4,770	4,760
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	19	24	24
下部消化管	令和4年度	令和5年度	令和6年度
下部消化管内視鏡検査(CS)	979	960	1,015
ポリヘクトミー	232	293	293
内視鏡的粘膜切除術(EMR)	278	265	224
カプセル内視鏡	7	4	1
CT colonography	27	39	37
肝・胆・膵	令和4年度	令和5年度	令和6年度
肝生検	0	0	2
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	57	57	44
内視鏡的十二指腸乳頭切開術(EST)	29	26	27
内視鏡的胆道結石除去術	34	29	35
内視鏡的胆道ドレナージ	7	10	10

【医師紹介】



消化器内科主任部長 ^{Matsumoto Eiji} 松本 栄二 (岡山大学 平成5年卒)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本肝臓学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

肝疾患を中心に診療を行っております。肝機能異常の診断、B型肝炎、C型肝炎など標準的な薬物治療、肝硬変のマネジメントなどの外来診療を行い、腹部エコー、CT、MRIなどの診断機器を用いて肝がんの早期発見、早期治療に努めております。また、ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓術など肝がん治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

非アルコール性脂肪性肝障害など肝疾患は増加傾向です。
肝疾患の診断や治療、その他、お困りでしたら
当院に紹介していただけたら幸いです。



消化器内科副医長 ^{Fujii Yuki} 藤井 雄基 (鳥取大学 平成31年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本消化器病学会
- ◆日本消化器内視鏡学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

上部・下部消化管領域(消化管腫瘍・炎症性腸疾患・機能性消化管障害)や胆膵領域(胆道結石・悪性腫瘍など)を中心に診療を行っております。内視鏡による診断・治療に取り組んでおり、胃における早期胃がんの内視鏡的治療(ESD・EMR)は、症例に応じて実施しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんに満足いただけるよう苦痛の少ない内視鏡診療を心がけております。内視鏡検査・治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。



消化器内科副医長 ^{Hanada Takumi} 花田 匠 (鳥取大学 令和2年卒)

外来診療／水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本消化器病学会
- ◆日本消化器内視鏡学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

消化器疾患全般の診断・治療を中心に上部・下部内視鏡検査、総胆管結石・胆道腫瘍に対する内視鏡治療を行っています。
患者さん一人ひとりに寄り添った診療を心がけ、安心して検査治療を受けられるよう努めています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域の先生方と連携し、専門的な検査・治療を通じて患者さんの診療に貢献してまいります。



Hamamoto Tetsuro
消化器内科部長 濱本 哲郎 (鳥取大学 昭和57年卒) (嘱託)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医、指導医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、名誉支部会員)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医、中国四国支部幹事)
- ◆日本肝臓学会(指導医)
- ◆日本消化管学会(胃腸科認定医、胃腸科専門医)
- ◆日本カプセル内視鏡学会(認定医、指導医)
- ◆日本人間ドック・予防医療学会(認定医、社員(全国評議員))
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆鳥取県健康対策協議会・大腸がん対策専門委員会委員長
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了

FIELD/専門分野

上部・下部消化管および胆膵領域の疾患の診断・薬物治療のほか、消化管腫瘍の内視鏡的切除、胆管結石除去や腫瘍による閉塞性黄疸の減黄等の内視鏡的治療等を行っています。また、CTコロングラフィーや大腸カプセル内視鏡などをいち早く導入して、大腸内視鏡検査に抵抗感が強い症例にも対応しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

医師、看護師、コメディカルが一丸となって、患者さんの気持ちに寄り添いながら最善の医療を提供するように心がけています。



Hori Tatsuaki
消化器内科部長 堀 立明 (鳥取大学 昭和55年卒) (嘱託)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本透析医学会
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆日本医師会認定健康スポーツ医
- ◆嚥下機能評価研修修了

FIELD/専門分野

B型肝炎、C型肝炎の専門的な検査、治療を行っています。NASHやアルコール性肝臓病に対する栄養管理、合併症の予防と治療、肝細胞がんのサーベイランスおよび診断と治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

肝臓疾患に限らず、消化器疾患が疑われる場合など、ご遠慮なくご紹介下さい。



Kishimoto Yukihiro
消化器内科部長 岸本 幸廣 (鳥取大学 昭和48年卒) (嘱託)

外来診療／月曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医、指導医、上部消化管内視鏡スクリーニング認定医、大腸内視鏡スクリーニング認定医)
- ◆日本肝臓学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器がん検診学会(認定医)
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆鳥取県健康対策協議会西部 胃がん・大腸がん検診読影会委員

FIELD/専門分野

HBV、HCVなどのウイルス性肝疾患、脂肪性肝疾患(NAFLD)などの肝疾患を中心として診療、研究してきました。現在はそれに加えて、上部下部消化管疾患、胆膵疾患も診察しています。消化器疾患の総合医を目指して診療しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

約50年間の臨床経験を活かし、消化器疾患全般にわたって、皆様に貢献できるように努力しています。また、患者さんへは丁寧な説明と、診療を心がけていきます。

循環器内科

【概要】

循環器疾患は高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、心不全、不整脈、心臓弁膜症など高齢化、生活習慣により発症する疾患が多く、現在増加してきています。特に心不全はあらゆる循環器疾患の終末像であり、生命予後、QOL を改善することが必要で患者さん個人個人に対するそれぞれの加療が必要です。基本的な検査である血液検査、胸部レントゲン、心電図、心エコーの検査で個々の患者さんに応じて治療法を考えていきます。心不全の原因となる心筋梗塞、弁膜症、高血圧症などは喫煙や塩分の摂りすぎといった生活習慣の悪化によって発症します。心不全患者は医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリテーション（理学療法士、作業療法士）等、多職種での「チーム医療」が必要となります。博愛病院では心不全チームを作り、心不全患者の包括治療を実践しています。週1回の心不全回診、月1度の症例検討会を通じ、個々の患者さんに応じた治療を行っています。

対象疾患

- ◆高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
- ◆心不全
- ◆不整脈
- ◆心臓弁膜症などの循環器疾患及び関連疾患である高コレステロール血症
- ◆慢性腎臓病

【医師紹介】



循環器内科主任部長 Tanaka Yasunori 田中 保則（鳥取大学 昭和63年卒）

外来診療／月曜日・火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本循環器学会
- ◆日本透析医学会

FIELD/専門分野

高血圧症、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、慢性心不全、不整脈、心臓弁膜症等の循環器内科疾患だけでなく関連疾患である高コレステロール血症、慢性閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、慢性腎臓病など幅広い疾患の診療を行っています。特に慢性心不全は高齢化に伴い増え続けている疾患で病院全体として取り組んでいます。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

心臓リハビリテーションを実施しており、心不全患者さんには多職種によるチーム医療を行っています。



循環器内科部長 Igawa Go 井川 剛（鳥取大学 平成12年卒）

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本循環器学会（循環器専門医）
- ◆日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医）

FIELD/専門分野

循環器疾患全般の診断、治療、管理を中心に、循環器疾患の発症や増悪に関与する生活習慣病等の治療、また心臓リハビリテーションを行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

循環器疾患を疑う症状の原因精査や診断、治療、等々ございましたらご紹介下さい。

呼吸器内科

【概 要】

Covid-19単独での入院症例はほとんどなくなりましたが、呼吸器疾患以外の合併症を有する症例の症状悪化が散発しています。専用確保病床はなくなりましたが、該当診療科と協力体制を維持しつつ、外来・入院での診療を継続しています。

対象疾患

- ◆感染性呼吸器疾患（肺炎、非結核性肺抗酸菌症など）
- ◆気道閉塞性疾患
（慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎など）
- ◆アレルギー性肺疾患（気管支喘息、過敏性肺臓炎など）
- ◆間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、膠原病肺など）
- ◆腫瘍性肺疾患（肺がん、転移性肺がんなど）
- ◆胸膜疾患（気胸、膿胸など）
- ◆呼吸不全（急性呼吸不全、慢性呼吸不全）
- ◆その他（気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など）

【実 績】

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者延数(人)		7,411	7,064	6,993
入院患者延数(人) ※退院含む		11,394	11,462	10,549
HOT 延数(件)		191	194	164
CPAP 延数(件)		903	990	1,114
HMV 延数(件)		32	43	57
終夜睡眠ポリグラフィー延数(件)	簡易	15	20	22
	精密	7	34	22
気管支鏡検査延数(件) ※気管支ファイバーを使用した処置を含む		5	10	11

【医師紹介】



呼吸器内科主任部長 Yamamoto Hiroyuki **山本 司生**（鳥取大学 平成8年卒）
外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会
- ◆日本感染症学会
- ◆日本環境感染学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了
- ◆日本内科学会 日本呼吸器学会

FIELD/専門分野

呼吸器疾患一般に対応しますが、特に感染症や、睡眠時無呼吸症候群の診断、治療には、力を入れています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

私自身が睡眠時無呼吸症候群患者であり、2024年11月から、CPAP治療を継続していますので、特に睡眠時無呼吸症候群の症例に対しては、同じ患者ならではの検査時の配慮や、CPAP治療離脱の回避や、CPAP使用率の維持のコツなど、細かい部分にも配慮して、検査、治療を行ってまいります。対象と思われる症例がございましたら、ご紹介下さい。



呼吸器内科部長 ^{Nishii Shizuka} 西井 静香 (鳥取大学 平成19年卒)

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(総合内科専門医)
- ◆日本呼吸器学会(専門医)
- ◆日本肺癌学会
- ◆日本臨床腫瘍学会
- ◆日本呼吸器内視鏡学会
- ◆日本呼吸療法医学会
- ◆日本結核病学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インфекションコントロールドクター(ICD)

FIELD/専門分野

呼吸器疾患全般に幅広く対応できるよう努めてまいります。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

高齢者の多い地域ですので訪問診療にも対応してまいります。また専門性の高度となる悪性疾患等の治療については大学病院等と連携しながら、最適な診療を行えるよう心がけていきます。



呼吸器内科部長 ^{Shigeshiro Keiji} 重白 啓司 (鳥取大学 昭和54年卒) (嘱託)
総合診療内科部長

外来診療／水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本呼吸器学会

FIELD/専門分野

呼吸器疾患の診療を行っています。特に入院や在宅の長期療養患者さんの治療を中心として、丁寧に寄り添う診療を心がけています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長引く咳、息苦しさなどは、患者さんが気にかけていても治療に結びついていないケースがあります。気軽にご相談ご紹介いただきますよう、お願いいたします。

非常勤 外来担当 外来診療／火曜日
鳥取大学呼吸器内科講師 山口 耕介

アレルギー疾患内科

【概要】

厚生労働省の調査によると、現在、国民の3人に1人が何らかのアレルギー疾患にかかっているとされています。そもそもアレルギーとは、体の外から入ってきた物質に対して、体の外に追い出そうとして体が過剰に反応してしまう状態のことを言います。この反応は、身体が侵入してきた物質を「危険」と誤認識してしまうために起こります。アレルギー疾患には、ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性結膜炎があります。これらの疾患（病気）は、内科だけではなく、皮膚科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科と複数の診療科の受診が必要となります。今回、山陰で初めて、「アレルギー疾患内科」という科を立ち上げました。アレルギー疾患にかかってしまった患者さんに、アレルギーについての情報を提供し、内服薬・外用薬にて症状が少しでも軽減できるように治療を行っていきたいと考えています。内科以外の専門科の治療が必要な場合には、こちらから紹介もさせていただきます。気軽にご相談下さい。

対象疾患

- ◆ぜんそく、食物アレルギー、アナフィラキシー
- ◆その他、内服薬・外用薬にて治療ができるアトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎等のアレルギー疾患

【特色・方針】

担当医は、長年、この地域において、アレルギー専門医として診察をしています。また、喘息専門医も修得し、さらにアレルギー疾患でお困りの患者さん方に情報提供、治療をさせていただければと思っています。アレルギー疾患の対応の基本は、体に合わないものを近づけないのが一番です。そのためには、原因となると考えられる体に合わないものを同定する検査を行います。しかし、原因が分からない場合や、避けられない場合には治療が必要になります。アレルギーを起こしにくい体質に戻すために、ぜんそくであれば、吸入ステロイド薬、そして、近年注目されている抗体製剤治療やアレルギー免疫療法を導入しています。

【医師紹介】



アレルギー疾患内科部長 Tomita Katsuyuki 富田 桂公（鳥取大学 昭和62年卒）（嘱託）
外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会（総合内科専門医）
- ◆日本呼吸器学会（呼吸器専門医・指導医）
- ◆日本アレルギー学会（アレルギー専門医・指導医）
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆インフェクションコントロールドクター（ICD）

FIELD/専門分野

アレルギーを起こしにくい体質に戻すために、ぜんそくであれば、吸入ステロイド薬、そして、近年注目されている抗体製剤治療やアレルギー免疫療法を導入しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

アレルギー疾患にかかってしまった患者さんに、アレルギーについての情報を提供し、内服薬・外用薬にて症状が少しでも軽減できるように治療を行っていきたいと考えています。お気軽にご相談下さい。

糖尿病・内分泌内科

【概 要】

糖尿病・内分泌疾患の外来診療、ならびに糖尿病治療調節・教育入院、急性慢性合併症治療を含めた入院診療を担当します。また、手術やその他の疾患にて他科入院中の糖尿病合併症例のフォローを行います。

糖尿病の診療にあたっては、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師など多職種からなる専門チームを組み、生活習慣の改善指導、支援や治療を行います。糖尿病診療については、インスリン療法や週1回のインクレチン製剤を含めた注射療法の外来での導入も積極的に行っております。

対象疾患

◆糖尿病

◆脂質異常症

◆肥満症

◆メタボリックシンドローム

◆内分泌疾患

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者延数(人)	5,889	6,512	6,577
入院患者延数(人)	3,723	3,275	3,002
在宅自己注射指導管理料件数	1,182	1,221	1,369
生活習慣病指導管理料件数	—	—	3,001

【医師紹介】



糖尿病・内分泌内科主任部長 Fujioka Yohei 藤岡 洋平(鳥取大学 平成19年卒)

外来診療／月曜日・水曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、指導医)
- ◆日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医
- ◆日本糖尿病協会 療養指導医
- ◆日本糖尿病合併症学会
- ◆アジア糖尿病学会
- ◆日本肥満学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会

FIELD/専門分野

糖尿病、高血圧、脂質異常症などの代謝疾患の治療を中心に行っています。特に糖尿病は専門分野であり、入院・外来でのインスリンやインクレチン製剤などの注射療法も含めて、治療調節を行います。また代謝疾患に加えて、甲状腺疾患や副腎疾患などの内分泌内科としての診断、治療を行っております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

コメディカルとも連携し、質の高い治療を目指してまいります。糖尿病診療は年々進化しており、最新の知見に基づいた治療を行います。また、地域連携パスを積極的に利用し、病診連携をより活発に行いたいと考えております。



糖尿病・内分泌内科部長 Takeuchi Tatsuo 竹内 龍男(鳥取大学 昭和57年卒)(嘱託)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本糖尿病学会(専門医、研修指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会(TNT研修終了)

FIELD/専門分野

糖尿病の診断、治療方針の決定、薬物療法開始の判断、内服薬の調整やインスリン、GLP-1受容体作動薬など注射薬の導入指導、急性合併症や慢性合併症への対応、他科連携、術前後の血糖コントロールなど、各症例の診療全般に関与します。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

多職種で連携しながら、個人のライフスタイルをふまえて誠実な診療を行います。治療困難例では糖尿病手帳を用いた併診などもご利用いただければと存じます。

脳神経内科

【概 要】

脳神経内科では脳、脊髄、末梢神経、筋疾患の診断及び内科的治療を行っています。

入院診療では、代表的救急疾患である脳血管障害(脳卒中)の救急診療、回復期リハビリテーション、在宅へむけての地域包括診療を中心に行っています。

外来では、頭痛、めまい、しびれ、認知症の診断・治療、慢性期脳血管障害の再発予防治療、神経難病を主体に診療を行っています。神経難病を主体とした神経疾患の訪問診療にも力を入れています。

特殊診療として、以下を行っています。

- 1) 摂食嚥下機能障害に対する嚥下機能評価と対応
- 2) 神経難病のレスパイト入院・訪問診療
- 3) 脳深部刺激(DBS)の調整・管理
- 4) ボツリヌス治療

当院は日本神経学会准教育施設、また日本認知症学会教育施設です。

対象疾患

- ◆脳血管障害
- ◆パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患(神経難病)
- ◆アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症などの認知症
- ◆多発性硬化症・重症筋無力症などの神経免疫疾患
- ◆髄膜炎・脳炎などの神経感染症
- ◆てんかん
- ◆末梢神経障害
- ◆筋疾患
- ◆頭痛
- ◆めまいなど

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者延数(人)	6,743	6,774	6,781
入院患者延数(人)	7,291	8,455	9,516
嚥下造影検査(件)	30	36	27
嚥下内視鏡検査(件)	23	15	9
神経難病レスパイト入院(件)	10	8	18
DBS管理・調整(人)	10	9	8
ボツリヌス治療(件)	43	39	34

【医師紹介】



副院長
脳神経内科主任部長

Adachi Akiko
足立 晶子(山口大学 昭和60年卒)

外来診療／月曜日・水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会(専門医、指導医)
- ◆日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)
- ◆日本認知症学会(専門医、指導医)
- ◆日本リハビリテーション医学会(臨床認定医)
- ◆日本摂食嚥下リハビリテーション学会(認定士)
- ◆日本臨床倫理学会(臨床倫理認定士)
- ◆日本脳卒中学会
- ◆日本神経治療学会
- ◆鳥取大学医学部附属病院連携診療教授
- ◆認知症サポート医

FIELD/専門分野

外来では脳神経内科一般の診療を行い、嚥下障害の診療にも力を入れてきました。入院診療では2009年回復期リハビリテーション病棟開設時より病棟の専任医として主に脳血管障害のリハビリテーション、社会復帰に携わっています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

高齢化が進む中、患者さんやご家族の話しに耳を傾け、気持ちに寄り添った診療を行うように努めています。地域で少しでもお役に立てることがあれば、お気軽にご相談下さい。



脳神経内科部長
在宅診療部部長

Yasui Kenichi

安井 建一（鳥取大学 平成8年卒）

外来診療／木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本神経学会（専門医、指導医、代議員）
- ◆日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、JMECCインストラクター、中国支部評議員）
- ◆日本救急医学会（ICLSディレクター）
- ◆日本神経治療学会
- ◆日本神経感染症学会
- ◆日本認知症学会
- ◆日本頭痛学会
- ◆日本臨床倫理学会（臨床倫理認定士）
- ◆鳥取大学医学部非常勤講師（臨床神経学）
- ◆嚥下機能評価研修修了
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆鳥取大学医学部臨床教授
- ◆認知症サポート医

FIELD/専門分野

脳血管障害を始めとした神経救急疾患の診療を主体として行っています。専門分野は、ALS、パーキンソン病、多系統萎縮症などの神経難病診療です。外来診療だけでなく、訪問診療、レスパイトや療養入院などにも対応しています。DBS、ITB、ボツリヌス毒素治療など神経疾患の特殊治療も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

神経疾患を中心として、救急診療、入院治療、在宅診療と地域で出来る神経内科診療を幅広く行っていきたいと考えています。

非常勤 外来担当 外来診療／火曜日

鳥取大学脳神経内科 田中 七海

総合診療内科

【概 要】

総合診療とは、専門診療の対義語です。患者さんを全人的、多角的に捉え、特定の臓器・疾患に限定しない診療形態です。内科関連疾患を対象とする場合には総合診療内科と呼びます。当院では毎日紹介状のない初診の患者さんを中心に診療を行っています。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科や地域の医療機関へ紹介します。

従来、電話での救急患者さんの入院依頼は、対応までに時間を要しておりましたが、総合診療内科外来を経由することで、より迅速な対応が可能となっています。

対象疾患

- ◆内科を初めて受診する患者で紹介状をお持ちでない方
- ◆内科以外に通院中で、内科受診が必要と思われる患者
- ◆内科に通院中で、予約外に受診を希望する患者
- ◆検診で精密検査を勧められた患者
- ◆救急外来を受診した後に外来予約を取った患者
- ◆各種ワクチン接種

※対象疾患のうち、明らかに専門外来を受診したほうがよい患者を除く

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
初診紹介件数(件)	58	59	34
初診患者数(人)	438	148	111
再来患者数(人)	1,835	1,620	1,450

【医師紹介】



総合診療内科部長
呼吸器内科部長

Shigeshiro Keiji
重白 啓司

……………呼吸器内科(P19)参照
外来診療／水曜日・金曜日

非常勤 外来担当 外来診療／第1・3・5木曜日
鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

外科(消化器外科・肛門外科・乳腺外科)

【概 要】

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会の専門医、指導医による一般外科手術、消化器外科手術、消化器がんの手術や術後の抗癌剤治療を行っています。胆石症や胃がん、大腸がん、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアの腹腔鏡下手術も行い、小さな傷で患者さんの早期の回復を心がけています。一时常勤医が2名となり急患対応が困難な時期もありましたが、令和6年度より常勤医3名体制となり、腹腔鏡下手術や緊急手術にもより積極的に対応できるようになりました。その他、痔や直腸脱など直腸肛門疾患、消化器がん末期患者さんの在宅診療など、幅広い医療を提供しています。また乳腺外科は、日本乳癌学会認定の専門医(指導医)による乳腺疾患の専門外来です。乳がん検診で精査が必要な方、乳房にしこりを触れるなどの症状がある方の診療を行っています。乳がんと診断された方に対して、乳癌学会専門医の指導のもと、外科医師と協力して手術や術後の化学療法などを行っています。

対象疾患

- ◆消化器がん
(胃がん、大腸がんなど)
- ◆虫垂炎
◆鼠径ヘルニア
- ◆外傷
◆乳がん(しこり、検診で要精査)
- ◆胆石症
- ◆直腸肛門疾患(痔、直腸脱など)
- ◆乳房の良性疾患(良性腫瘍、乳腺炎など)

【実 績】

疾 患	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	症 例	開腹/腹腔鏡	症 例	開腹/腹腔鏡	症 例	開腹/腹腔鏡
胃がん	6		4	3/1	8	4/4
胃全摘	2	2/0	1	1/0	0	
胃切除	2	1/1	1	0/1	5	1/4
その他	2		2	2/0	3	3/0
結腸がん	23	20/3	21	19/2	24	14/10
直腸がん	6	1/5	4	4/0	2	0/2
胆嚢がん			0		2	0/2
胆石、胆嚢ポリープ、胆嚢炎	34	1/33	30	3/27	45	0/45
総胆管結石	0		1	1/0	0	
直腸脱	2		4		2	1/1
痔核	26		26		21	
ヘルニア	35	13/22	33	20/13	32	11/21
脾臓疾患	0		0		2	2/0
肝臓疾患	2		1	1/0	0	

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
緊急手術	42	12	37



副院長
外科主任部長 近藤 亮 (鳥取大学 平成元年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、専門医、指導医)
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会TNT研修修了
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本乳癌学会
- ◆日本乳癌検診学会

FIELD/専門分野

頻度の多い外科疾患である胃がん、大腸がん、胆嚢結石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアのほか、乳腺疾患、周術期抗がん剤治療、緩和医療、訪問診療など、手術から術後のフォローアップ、がん終末期の症状コントロールに至るまで広く対応しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

常に最新のガイドラインを参照し、最新の標準治療を提供するとともに、患者さん一人ひとりのニーズに沿った診療を心がけています。



外科部長 竹本 大樹 (鳥取大学 平成9年卒)

外来診療／月曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医、指導医、消化器がん外科治療認定)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本内視鏡外科学会
- ◆日本大腸肛門病学会
- ◆日本救急医学会
- ◆日本がん治療認定医機構(認定医)
- ◆インフェクションコントロールドクター
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師

FIELD/専門分野

日本外科学会専門医及び指導医、日本消化器外科学会専門医および指導医として、消化器がんの手術を主に、一般外科、乳腺外科、腹部救急の分野で、日々診療にあたっています。また必要に応じて化学療法などの薬物療法を外来治療室の看護師、薬剤師と協力・情報交換しながら行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

消化器外科、一般・救急外科及び乳腺外科の分野で、地域の方々に寄り添い、質の高い医療が提供できるように診療に取り組んでいます。症例があればいつでもご相談下さい。



外科部長 安宅 正幸 (鳥取大学 平成12年卒)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、専門医)
- ◆日本消化器外科学会(消化器がん外科治療認定医、専門医、指導医)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本内視鏡外科学会
- ◆日本胃癌学会
- ◆日本大腸肛門病学会
- ◆日本乳癌学会
- ◆日本癌治療学会
- ◆日本臨床栄養代謝学会
- ◆厚生労働省緩和ケア研修修了
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師

FIELD/専門分野

胃がん・大腸がん・乳がんといった悪性腫瘍のほか、胆嚢結石症・鼠径ヘルニアなどの一般外科や急性虫垂炎・急性胆嚢炎などの腹部救急に携わっています。安心・安全・低侵襲な手術を心掛けるほか、術後フォロー、薬物療法、緩和ケア、訪問診療といった分野にも幅広く力を入れております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

平素より大変お世話になります。専門分野によらず、お力になれることがあればと思いますのでお気軽にご連絡下さい。

【実績】

疾患	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存	症例	全摘/温存
乳がん	51	33/18	43	25/18	36	20/16
乳腺腫瘍	3		3	0/3	0	
乳腺その他	1		0		0	

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
デジタルマンモグラフィ(3D)	5,124(2,922)	5,217(2,600)	5,219(2,367)
乳腺エコー(ABUS)	2,689(751)	2,784(751)	2,862(731)

【医師紹介】



院長
乳腺外科部長 廣岡 保明 (鳥取大学 昭和58年卒)

外来診療／月曜日・水曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医・指導医)
- ◆日本乳癌学会(名誉専門医)
- ◆日本肝胆膵外科学会(名誉指導医)
- ◆日本臨床細胞学会(専門医・名誉会員)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本超音波医学会
- ◆鳥取県細胞学会(会長)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆鳥取大学名誉教授

FIELD/専門分野

鳥取大学医学部付属病院で40年間培った乳腺疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患の診療の経験をもとに、乳がんや乳腺良性疾患の診断を行うと同時に、外科の医師への指導にも注力しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

鳥取大学病院第一外科(消化器・乳腺外科)、鳥取県立中央病院外科での勤務後、2025年4月より博愛病院で『すべては患者さんのため』をモットーに診療、管理業務を行っております。



外科部長 角 賢一 (山口大学 昭和58年卒) (嘱託)

外来診療／火曜日・水曜日(新患のみ)・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医・専門医・指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医・指導医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本乳癌学会(専門医・指導医)
- ◆日本臨床外科学会
- ◆日本医師会認定産業医
- ◆介護支援専門員
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆乳房超音波読影認定医師

FIELD/専門分野

乳腺疾患:乳癌学会の専門医、マンモグラフィ読影医、乳房超音波読影医として、乳がん検診で精査が必要な方の精密検査を担当しています。また、乳がんの方の手術や化学療法も担当しています。
肛門疾患:内痔核に対するジオン注射や手術、直腸脱に対する経肛門的手術を施行しています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

乳腺疾患や消化器疾患(肛門)の診断から治療までの診療に携わっています。
在宅診療にもかわり、患者さんやご家族のニーズに応えるように取り組んでいます。いつでもご紹介下さい。

アミノインデックス外来

【概要】

これまで、血中のアミノ酸濃度は各疾患によって変化することが知られていましたが、それを臨床応用する試みは行われていませんでした。現在、長年の研究結果から、血中アミノ酸濃度の変化から、がん、糖尿病、脳卒中・心筋梗塞の三大疾患に加え、認知症のリスクを評価できるようになりました。日本人の死亡原因は、がん、心疾患、脳血管疾患の順に高率で、糖尿病はこの三疾患の主な原因の一つです。血中アミノ酸濃度の測定により、がん、糖尿病、脳心疾患、認知症のリスクを知り、疾患の予防、早期発見、早期治療にお役立て下さい。がんの危険性に関しては、ランクAは通常の1/3、ランクBは通常の1.6倍、ランクCは通常の10倍のリスクを表します。令和5年4月より、当院の人間ドック受診者には、オプション検査としてアミノインデックス検査を追加させていただいており、結果は健診レポートに記載させて頂き、追加の検査が必要な方には、当院のアミノインデックス外来を受診いただき、精密検査を行わせていただいております。

対象疾患

◆がん

男性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
女性 胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん

◆糖尿病

◆脳卒中・心筋梗塞

◆認知症

【実績】

2018年4月～2025年3月までの7年間に、当院のアミノインデックス外来、ならびにドック健診センターで検査を受けた方は234例であり、その判定結果は表1の示すように各癌腫のランクCの出現頻度は約10%でありました。この中で、がん発見例は大腸がん2例、甲状腺がん1例、前立腺がん2例、小腸がん1例、肺がん1例の7例であり、がん疑い病変は膵嚢胞性腫瘍6例、肺がん疑5例、膵胆管合流異常2例、甲状腺腫2例、膵腫瘍1例、小脳腫瘍1例、副腎腫瘍1例、胆嚢腫瘍1例、食道SMT1例、子宮頸部腫瘍1例、慢性膵炎1例の22例でありました。これらの症例の多くは、南部町での2400例の結果同様、ランクCが複数のがん腫に付いた症例であり、ランクCの数が多くなるほどがん発見率が高くなる傾向にありました(表2)。

表1 AICS判定結果

	n	ランクA	ランクB	ランクC
胃がん	234	158	47	29(12%)
肺がん	234	153	46	35(15%)
大腸がん	234	161	51	22(9%)
膵臓がん	234	180	39	15(6%)
前立腺がん	127	71	31	25(20%)
乳がん	107	69	28	10(9%)
子宮・卵巣がん	107	79	19	9(8%)
計	1,277	871	261	145(11%)

表2 ランクCの数とがん・がん疑発見率

ランクCの数	n	がん・がん疑発見数	がん・がん疑発見率
0個	151例	10例	10/151(7%)
1個	45例	8例	8/45(18%)
2個	22例	7例	7/22(32%)
3個以上	16例	4例	4/16(25%)
計	234例	29例	29/234(12%)

【医師紹介】



ドック健診センター長
外科部長
外来診療／水曜日

Kimura Osamu

木村 修(鳥取大学 昭和52年卒)(嘱託)
ドック健診センター／月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(認定医、認定登録医)
- ◆日本消化器外科学会(認定医、認定登録医、指導医、消化器がん外科治療認定医)
- ◆日本大腸肛門病学会(専門医、指導医)
- ◆日本人間ドック・予防医療学会(認定医、人間ドック健診情報管理指導士、暫定指導医)
- ◆鳥取県西部医師会個別胃がん検診読影会委員
- ◆難病指定医
- ◆医師卒後臨床研修指導医
- ◆中四国ストーマリハビリテーション研究会幹事
- ◆日本オストミー協会顧問医
- ◆鳥取大学医学部臨床教授

FIELD/専門分野

これまでの多くの消化器疾患の外科治療、ならびにアミノインデックス検査の経験から、消化器疾患術後の方の経過観察、アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ならびにドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

アミノインデックス検査を用いたがん、糖尿病、脳・心疾患、認知症のリスク判定、ドック健診センターにおける生活習慣病予防、がんの早期発見に努めております。令和5年4月より、ドック健診センターの人間ドック健診におきましてもアミノインデックス検査をオプションとして開始いたしました。

腎臓外科(臓器移植)

【概 要】

移植患者、生体ドナーの定期外来と入院を中心に診療しています。米子市内はもとより、山陰両県や遠方からも受診されています。腎移植・脾腎同時移植患者の免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん健診を主とし、感染症、合併症、腎生検と拒絶反応治療は緊急入院で対応します。

外来では、一般血液・尿検査、感染マーカーの定期検査、免疫抑制剤の血中濃度測定と処方に加え、移植腎エコー、CT、MRAによる移植腎・脾の形態と血流評価、心機能評価、骨密度測定などをします。移植後糖尿病患者に対する内服・インスリン療法、骨粗鬆症の診断と治療、高齢患者の認知症と服薬対応、精神的支援も守備範囲です。入院患者では該当疾患の治療に加え、腎臓リハと栄養指導、さらに外来リハに継続して、長期生着と身体活動改善を目指しています。

維持透析患者では、透析条件の設定、定期検査・処方、自己血管や人工血管を用いたシャント手術、シャントトラブル対応、長期留置カテの留置といったVA管理、腹膜透析カテの挿入手術、腹膜透析導入も行います。

対象疾患

- ◆移植後免疫抑制療法(3剤併用または4剤併用による維持療法)
- ◆急性拒絶反応(腎生検診断、抗体療法、血漿交換など)
- ◆慢性拒絶反応
- ◆ウイルス感染症(CMV感染、BKV感染、帯状疱疹、ヘルペス感染、COVID-19感染、インフルエンザ感染など)
- ◆真菌感染症(カンジダ症、ニューモシスチス肺炎など)
- ◆細菌感染症(肺炎、腎盂腎炎、蜂窩織炎、胃腸炎など)
- ◆PTLD(抗がん剤治療)
- ◆移植後糖尿病(食事療法、運動療法、内服療法、インスリン注射)
- ◆ステロイド骨粗鬆症(骨密度検査、内服療法、注射など)
- ◆透析再導入(シャント作成、免疫抑制調整)
- ◆シャントトラブル(外科的シャント再建、グラフトシャント作成など)

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者延数(人)	1,304	1,446	1,523	外科的血栓内膜摘除術	1	3	6
入院患者延数(人)	375	1,029	968	感染グラフト摘出術	—	1	1
手術(件)	8	23	21	腹膜透析カテ抜去術	—	1	—
内シャント造設術	1	4	1	腹膜透析カテ挿入術	—	1	1
人工血管シャント術	5	10	3	長期留置カテ挿入	—	—	3
シャント瘤切除再建	1	3	—	長期カテ血栓除去	—	—	1

令和6年度は、外来延患者は1,523人。口内炎1例、カンジダ症2例、帯状疱疹1例、COVID-19感染6例、脳梗塞3例、心筋梗塞1例、尿閉2例。入院延患者は968人。FSGS再発1例、IgA腎症再発1例、腎盂腎炎3例、肺炎7例、腎生検4例、拒絶反応治療5例。手術件数21件。内シャント造設1例、人工血管シャント作成・置換3例、外科的血栓内膜摘除術6例、感染グラフト摘出1例、腹膜透析カテ挿入1例、長期留置カテ挿3例、長期留置カテ血栓除去1例を行いました。

【医師紹介】



Sugitani Atsushi

腎臓外科部長 杉谷 篤(九州大学 昭和58年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本外科学会(専門医、指導医)
- ◆日本消化器外科学会(専門医、指導医、消化器癌外科治療認定医)
- ◆日本肝胆脾外科学会(名誉指導医)
- ◆日本移植学会(移植認定医)
- ◆日本臨床移植学会(副理事長、腎移植専門医)
- ◆日本小児腎不全学会(理事)
- ◆日本臨床倫理学会(理事、臨床倫理認定士)
- ◆日本透析医学会(透析専門医)
- ◆日本腎臓学会
- ◆日本サイネフロロジー学会(代議員)
- ◆日本腎臓リハビリテーション学会(腎リハ指導士)
- ◆移植腎病理研究会(幹事)
- ◆医師卒後研修指導医
- ◆外国医師臨床修練指導医
- ◆鳥取県難病指定医(専門医)

FIELD/専門分野

一般・消化器外科、移植外科(腎移植、脾移植)、血管外科、維持透析の診療を中心にしています。腎移植・脾移植患者と生体ドナーの定期外来で、免疫抑制療法と拒絶反応の診断、がん健診を主とし、感染症や合併症の治療、腎生検と拒絶反応治療、血漿交換療法、抗体療法は緊急入院で行います。また、透析患者のシャント造設、グラフト再建・置換、長期留置カテ挿入、腹膜透析導入もしています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

この地域の移植患者、移植希望者、腎不全患者、透析患者さんのための診療と有益な情報提供を心掛けています。移植後の透析再導入、血液透析のシャントトラブル、腹膜透析導入など、気軽に声をかけて下さい。

整形外科(人工関節専門外来・骨粗鬆症専門外来・ペインクリニック)

【概 要】

昨今の人口高齢化を反映し、当科を受診される方も腰痛・膝痛など加齢による「変性疾患」が原因である場合が多く見受けられます。また、「骨粗鬆症」を基盤にした種々の病態のほか、骨粗鬆症関連骨折といわれる四肢・脊椎の骨折が増加する傾向にあります。一般整形外科診療としては、乳児・小児の先天性疾患や発育期の骨関節疾患、青壮年期の脊椎・関節疾患および外傷や骨折などの保存的・観血的治療を行っています。人工関節専門外来と骨粗鬆症専門外来では、それぞれの専門性を生かした治療を目指しています。患者さんのQOLを維持するために、痛みへの治療も行っています。毎週水曜日は鳥取大学脊椎専門医による診療を行っています。令和7年度より主任部長が交代しましたが、引き続き整形外科全般にわたり診療を行います。高齢者の大腿骨近位部骨折に関しては、今年度より当院でも骨折リエゾンサービスを開始しますので、病診連携をよろしくお願いいたします。

対象疾患

- ◆骨粗鬆症関連骨折(大腿骨近位部・橈骨遠位端・脊椎圧迫骨折・上腕骨近位部など)
- ◆変形性関節症(股・膝・足など)
- ◆変形性腰椎症
- ◆腰椎椎間板ヘルニア
- ◆変形性頸椎症
- ◆脊椎骨粗鬆症
- ◆関節リウマチ
- ◆閉経後骨粗鬆症
- ◆老年性骨粗鬆症
- ◆ステロイド骨粗鬆症
- ◆慢性腎臓病(CKD)・糖尿病など生活習慣病関連の骨粗鬆症
- ◆その他代謝性骨疾患
- ◆腰痛・下肢痛(坐骨神経痛、大腿神経痛)を引き起こす疾患(腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎変性すべり症)
- ◆スポーツ外傷・スポーツ障害

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人工関節手術(膝・股・肩)数(件)	16	30	26
大腿骨近位部骨折手術(人工骨頭挿入術)数(件)	22	25	19
大腿骨近位部骨折手術(骨折観血的手術)数(件)	27	68	26
骨密度測定数(件)	1,413	1,632	1,718

【医師紹介】



整形外科主任部長
リハビリテーション科部長

Kishi Takahiro

岸 隆広(鳥取大学 平成4年卒)

外来診療／火曜日・金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本整形外科学会専門医、認定スポーツ医
- ◆日本スポーツ協会公認スポーツドクター
- ◆日本膝関節学会
- ◆日本関節病学会
- ◆日本人工関節学会
- ◆日本スポーツ整形外科学会
- ◆日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ医

FIELD/専門分野

整形外科全般の診療を行っています。高齢者の骨折や骨折予防のための骨粗鬆症の治療、膝関節の疾患の治療(人工関節置換術を含む)、スポーツ選手の外傷、障害の診療も行います。高齢者の大腿骨近位部骨折はできるだけ早く手術ができるよう心がけています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

整形外科医として運動器の外傷や障害の診療を受け持ち、地域の医療ニーズに貢献できるよう考えております。遠慮なくご相談下さい。



整形外科部長 ^{Nezu Akina} 根津 明菜 (久留米大学 平成21年卒)

外来診療／月曜日・水曜日(午前)

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医)

FIELD/専門分野

打撲、捻挫、骨折などの外傷、腰痛、神経痛、関節痛など整形外科一般疾患の診療を行っています。骨粗鬆症による脆弱性骨折の場合は、骨粗鬆症の治療も行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

運動器疾患に関して、地域医療に貢献できるよう診療に努めます。よろしくお願いいたします。



整形外科部長 ^{Nakamura Tatsuhiko} 中村 達彦 (鳥取大学 昭和61年卒) (嘱託)

外来診療／火曜日・木曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本整形外科学会(認定運動器リハビリテーション医、認定リウマチ医)
- ◆日本専門医機構認定整形外科専門医
- ◆日本骨代謝学会
- ◆日本骨粗鬆症学会
- ◆日本骨折治療学会
- ◆日本医療マネジメント学会

FIELD/専門分野

乳児から超高齢者まで整形外科疾患全般に広く診療しています。股関節開排制限のある乳児に対してはレントゲン検査の他、超音波検査を行い脱臼の有無を調べ、その結果に沿った治療を進めてまいります。骨粗鬆症に対してはDXA装置を用いた骨密度測定結果と血液検査による骨代謝マーカー測定結果を参考にして最適な治療法を選択しています。関節リウマチに対しては必要に応じて生物学的製剤を使用し寛解を目指します。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんに笑顔で感謝されるような医療を心がけています。骨粗鬆症治療の病診連携を引き続き行ってまいります。他にお困りの症例があれば遠慮なくご紹介下さい。

整形外科部長 ^{Miki Jun} 三木 純 (山口大学 昭和55年卒) (嘱託)

外来診療／月曜日(午後)・火曜日(午後)・木曜日・金曜日(午後)

所属学会・専門医情報

◆日本整形外科学会(専門医、認定運動器リハビリテーション医)

FIELD/専門分野

整形外科全般の外来診療を行っています。痛みを抱えて生活することは心身に大きなストレスを与えます。痛みの原因を調べて、患者さんに分かりやすく説明し、納得いただいた上で治療方針を決定するように心がけています。糖尿病患者の骨粗鬆症など他疾患との関連も確認しながら診療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

長年続く腰や下肢の痛みなどでお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談、ご紹介下さい。

非常勤 外来担当

医療法人元町病院病院長 奥野 誠(外来診療／第1・3・5金曜日)

野島病院整形外科医師 岸本 英彰(外来診療／月曜日)

非常勤 手術・外来担当

鳥取大学整形外科助教 三原 徳満(外来診療／水曜日)

産婦人科

【概 要】

当院の産婦人科は良性の婦人科疾患の精査と治療、がん検診の精密検査と治療、また最近では思春期・更年期など女性特有の症状に対するいわゆる女性医療にも、最新、最善の治療を受けていただけるよう日々努力しています。婦人科良性腫瘍では、腹腔鏡、子宮鏡を用いた低侵襲での縮小手術を心がけており、昨年度より内視鏡下手術の入院期間短縮に取り組みながら、さらに安心安全な治療になるようクリパスの見直しを行いました。また悪性腫瘍に対しては迅速で的確な診断に努め、治療を主に鳥取大学病院へ繋いでいます。産科診療については、分娩を取り扱ってはおりませんが、妊娠初期の診察、健診は行っており、適時に分娩医療機関に連携しています。

対象疾患

- ◆ 良性疾患—子宮(子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮腺筋症、子宮内膜症) 卵巣(卵巣のう腫、チョコレート嚢胞など) 卵管(卵管留水症、卵管膿瘍、子宮外妊娠) 外陰(外陰腫瘍、バルトリン腺膿瘍など)
- ◆ 悪性疾患—子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの診断や検診と予防接種(子宮頸がんワクチン)
- ◆ 骨盤臓器脱—子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤
- ◆ 生殖・内分泌異常—不妊症の検査と治療(人工授精まで)、思春期の月経異常、月経困難症、月経前症候群、更年期障害

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総手術数(件)	162	156	140
子宮全摘術(開腹)	13	24	12
腹腔鏡下手術	33	38	28
子宮鏡下手術	43	38	38
子宮脱手術(膣式)	22	16	32
子宮頸部円錐切除術	36	26	19

【医師紹介】



産婦人科主任部長 Katagiri Chieko 片桐 千恵子(鳥取大学 平成元年卒)
 外来診療/月曜日(午前)・第1・3・5(午後)・火曜日(午後)・木曜日(午前)・金曜日(午後:予約制)

所属学会・専門医情報

- ◆ 日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆ 日本女性医学学会(女性ヘルスケア専門医)
- ◆ 日本生殖医学会
- ◆ 日本産科婦人科内視鏡学会
- ◆ 日本女性心身医学会(認定更年期指導士)
- ◆ 臨床研修指導医研修修了
- ◆ 母体保護法指定医
- ◆ 日本スポーツ協会公認スポーツドクター

FIELD/専門分野

一般婦人科疾患、不妊症検査と治療、女性内分泌変化による思春期、更年期の諸症状、女性アスリートの健康支援、性に関するトラブルと疾患(性被害、性感染症、性教育など)

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

思春期や更年期など女性特有の症状について、予約制のみの外来も設けています。お役に立てることがあればご相談下さい。



産婦人科部長 ^{Ishihara Koichi} 石原 幸一 (鳥取大学 昭和56年卒) (嘱託)

外来診療／第2・4月曜日(午後)・水曜日(午後)・金曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本産婦人科手術学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆日本臨床細胞学会
- ◆母体保護法指定医
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆厚生労働省緩和医療研修修了

FIELD/専門分野

子宮や卵巣腫瘍、子宮腺筋症・卵巣チョコレート嚢胞等の子宮内膜症、子宮膀胱脱などの婦人科疾患を主に診療しており、子宮鏡や腹腔鏡下手術も含めた最善の治療を提供できるように心がけております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

患者さんの要望に応えられるよう十分な手術枠を設定しております。お気軽にご紹介下さいませ。



産婦人科部長 ^{Shimogai Ruri} 下雅意 るり (鳥取大学 平成13年卒) (嘱託)

外来診療／火曜日(午前)・水曜日(午前)・木曜日(午後)

所属学会・専門医情報

- ◆日本産科婦人科学会(専門医)
- ◆日本臨床細胞学会(専門医)
- ◆日本女性医学学会
- ◆日本婦人科腫瘍学会
- ◆臨床研修指導医研修修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- ◆緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了

FIELD/専門分野

婦人科腫瘍を専門としており、特にがん検診やHPVワクチンの啓発、早期受診の勧奨などがん予防に取り組んでいます。その他に、子宮筋腫や卵巣腫瘍といった良性疾患では、それぞれのライフスタイルを考慮し、適切な治療についてご本人と相談し決めています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

年齢に関わらず全ての女性の健康をサポートするのが産婦人科医です。月経痛や月経不順、更年期症状、その他の不安に思われることは人それぞれです。まずはお話だけでもOKです!「とりえず婦人科で聞いてみよう」といった感じで、お気軽にご相談ください。

麻酔科

【概 要】

当院麻酔科は常勤専門医1名、非常勤専門医1名、大学麻酔科からの応援により、主に全身麻酔で行われる手術を担当しています。人口の高齢化、手術技術の向上、低侵襲手術の増加により、手術適応年齢も高齢化しており、麻酔管理の困難な症例が増えていますが、全例を麻酔科専門医が管理しており、安全な周術期を提供しています。昨年度、今年度と外科系医師の増員があり、手術件数が増加しています。

対象疾患

◆手術室で行われる各科手術

◆造影室、レントゲン室で行われる手術、処置

【実 績】

麻酔別手術件数	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全身麻酔	556	518	543
脊硬麻	22	23	16
静脈麻酔	1	0	0
局所麻酔	203	251	382
計	782	792	941

【医師紹介】



麻酔科部長 Taki Sayo 多喜 小夜(鳥取大学 平成3年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本麻酔科学会(専門医、指導医)
- ◆日本産科麻酔学会
- ◆日本障害者歯科学会
- ◆日本臨床麻酔学会
- ◆厚生労働省麻酔科標榜医

FIELD/専門分野

各科手術の麻酔管理(全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔など)を行っています。術前診察から患者さんにかかわり、術前の全身状態を踏まえたうえで麻酔計画を立て、安全な周術期管理を心がけています。また、鳥取県立総合療育センターにおける障がい児(者)の全身麻酔下歯科治療の麻酔管理を出張で行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

術前診察では患者さんと良好な信頼関係が築けるよう、丁寧な診察と説明を心がけています。速やかな手術対応と安全で快適な周術期の提供に努めています。

非常勤 手術援助

鳥取大学麻酔科医師

廣澤 壽一

放射線科

【概 要】

各診療科や医院、病院からの依頼に応じて画像検査を行いその結果を画像診断報告書として報告しています。その際に進化したAI(人工知能)を用いた画像診断補助システムを利用しています。依頼された検査のみで診断がつかない場合は、追加の必要な検査を提示し、早期に的確な治療へと結びつくように努力しています。また、画像診断装置を利用したIVR(インターベンショナルラジオロジー)という治療を行っています。対象疾患は全身に及びます。

対象疾患

◆肝腫瘍

◆透析シャントトラブル

◆中心静脈ポート留置

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
IVR(件)	94	100	110

【医師紹介】



Nakamura Kiyoshi
放射線科部長 中村 希代志(鳥取大学 平成3年卒)

外来診療／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本医学放射線学会(放射線診断専門医)
- ◆日本インターベンショナルラジオロジー学会(IVR専門医)
- ◆検診マンモグラフィ読影認定医師
- ◆日本消化器病学会

FIELD/専門分野

頭部・胸部・腹部を中心とした全身の画像診断をCTとMRIを用いて行っています。また、透析シャントトラブルに対するバルーンカテーテルを用いた経皮経管的治療や中心静脈ポート留置等の低侵襲的治療を行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

博愛病院ではAI(人工知能)を用いた画像診断補助システムをさまざまな画像診断に導入しています。適切で正確な画像診断を目指していますのでご紹介をお願いします。

非常勤 外来担当 外来診療／隔週火曜日

鳥取大学放射線科 森脇 聡美

眼 科

【概 要】

外来診察室が一つ増え、二人の医師が並行して診察することが可能になりました。

加えて、前眼部（結膜・角膜・水晶体）の写真を記録する最新式の装置が設置され、きれいな写真を電子カルテに残すことが可能となりました。

白内障と硝子体疾患の手術件数が増加いたしました。

対象疾患

◆ドライアイ ◆角膜炎 ◆ぶどう膜炎 ◆白内障 ◆緑内障 ◆糖尿病網膜症 ◆加齢黄斑変性症 ◆網膜静脈閉塞症等

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者延数(人)	4,450	5,259	6,209
入院患者延数(人) ※退院含む	268	356	528
白内障手術(件)	133	171	254
硝子体手術(件) ※令和5年10月～	—	10	35

【医師紹介】



Yamasaki Atsushi
眼科主任部長 山崎 厚志(鳥取大学 昭和61年卒)

外来診療／月曜日(午後)・火曜日(午前)・水曜日(午後)・木曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本眼科学会(専門医)
- ◆日本眼科医会
- ◆日本眼科手術学会
- ◆日本網膜硝子体学会
- ◆埼玉医科大学総合医療センター眼科客員教授
- ◆難病指定医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆PDT認定医

FIELD/専門分野

眼は小さな臓器ですが、いろんな病気があります。私は白内障手術と網膜の病気(糖尿病網膜症、網膜黄斑疾患など)の手術をしています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院に来て2年になりますが、少しずつ患者さんから顔を覚えていただくようになりました。眼のかかりつけ医として、地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。



Komatsu Keiko
眼科部長 小松 恵子(鳥取大学 平成13年卒)(嘱託)

外来診療／月曜日(午前)・水曜日(午前)・金曜日(午前)

所属学会・専門医情報

- ◆日本眼科学会(専門医)
- ◆日本眼科医会

FIELD/専門分野

角結膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症等、眼科一般を診療しております。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

視機能を維持して失明を防ぐのみならず、より良い見え方を提供できるよう、日々尽力してまいります。また、疾患や治療についての丁寧な説明、対応を心掛けております。

臨床検査科

【概要】

臨床検査科は、各診療科と臨床検査部を繋ぐ橋渡しの役割を担い、診断・治療に貢献する診療科です。測定された検査データを解析し、臨床的に有用な付加価値を付けて臨床医に報告しています。また患者生命に関わる極めて異常な検査データの場合、そのデータが正しい値かどうかの判定を行った上で、速やかに各診療科に報告する体制で運用を行っています。

業務内容 1) 臨床検査の診断支援 2) 検体検査の品質管理 3) 院内検査に用いる機器及び試薬の管理
4) 臨床検査部の管理、運営 5) 臨床検査部部員の指導、教育、育成

【医師紹介】



Tsuruhara Ichiro
臨床検査科部長 **鶴原 一郎** (鳥取大学 昭和45年卒) (嘱託)

臨床検査科業務／月曜日～金曜日

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会(認定内科医)
- ◆日本消化器病学会(専門医)
- ◆日本消化器内視鏡学会(専門医)
- ◆日本消化器がん検診学会

FIELD/専門分野

定年までは消化器病の診療、検査等に従事していましたが、現在は臨床検査科の支援を中心に行っています。

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

検査結果の判断の補助を行うとともに、臨床検査全般の管理、運営並びに院内検査に用いる検査機器及び試薬の管理を担当しています。また検査部員の指導、教育、育成にも携わり臨床検査部全体の質の向上を目指しています。

非常勤医師による専門外来

診療日

診療科目		月	火	水	木	金
血液内科	午前診	—	—	—	鳥取大学医師 (第1,3,5)	—
皮膚科	午後診	—	—	—	鳥取大学医師 (診療:14時～)	—
泌尿器科	午前診 (受付:11時まで)	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	—	—	鳥取大学医師 (診療:9時30分～)	宮川 征男

血液内科

診療内容

血液疾患全般について外来診療を行っております。当院で検査後、必要に応じて鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆各種貧血 ◆骨髄増殖性腫瘍 ◆悪性リンパ腫 ◆慢性白血病 ◆急性白血病

医師紹介

鳥取大学血液内科教授 河村 浩二

皮膚科

診療内容

一般皮膚疾患について外来診療を行っております。
当院で精査および治療完遂が難しい場合は、鳥取大学医学部附属病院に紹介し、連携を図っています。

対象疾患

◆湿疹・皮膚炎(アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、かぶれ等)
◆皮膚感染症(水虫、とびひ、いぼ等) ◆じんま疹 ◆ざ瘡他

医師紹介

鳥取大学皮膚科 菊本 優花
鳥取大学皮膚科 國岡 順子

泌尿器科

診療内容

泌尿器疾患全般について外来診療を行っております。鳥取大学医学部附属病院など、近隣の総合病院と緊密な連携をとっており、手術や検査などで入院治療が必要な場合には、適切な施設に紹介させていただきます。

対象疾患

◆尿路性器腫瘍(前立腺がん、膀胱がん、腎がんなど)
◆排尿障害(尿失禁、前立腺肥大症など)
◆尿路性器感染症(膀胱炎など) ◆尿路結石症 ◆副腎疾患 ◆後腹膜疾患 ◆男性不妊
◆男性性機能障害 ◆尿路性器先天性疾患

医師紹介

鳥取大学泌尿器科助教 藤井 央法
鳥取大学泌尿器科 榎 迪洋
鳥取大学名誉教授 宮川 征男

救急診療体制

【概 要】

地域の期待と信頼に応えるため、職員一丸となって断らない救急医療を目指しております。日中の救急患者の対応は、地域連携室を窓口にして各診療科で行っています。夜間、休日は、医師1名、看護師1名で救急患者の対応を行っています。診療科ごとに待機医師を設け、必要時には連絡を取って専門的な救急診療が提供できるように努めています。薬剤師、放射線技師、検査技師についても待機体制を取っており、必要時には呼び出して諸検査等に対応することが可能です。

目 標

1. 救急患者トリアージマニュアルの適切な使用の推進と、必要があれば修正を行う
2. 必要に応じて、救急疾患対応ガイドラインの見直しや追加作成を行う
3. 救急疾患に対する勉強会の開催
4. 救急委員会で毎月の受け入れ率や受け入れ不可の理由等の検討を継続する

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
時間外・休日患者数	4,020	3,580	3,561
時間外・休日入院患者数	406	423	427
救急車受入数(終日)	1,538	1,679	1,594
時間外・休日救急車受入数	1,011	1,073	1,071

救急診療情報

鳥取医療情報ネット宿日直医情報より
救急診療の情報が確認できます。



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

診療科は限られていますが、お困りの急患対応を出来るだけ行ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

【理念・基本方針】

看護部は「すべての人々の生命と人間としての尊厳を守り、地域に根ざした患者中心の看護を提供する」を理念として、患者の人格・権利を尊重した個性のある看護、科学的・倫理的判断による質の高い看護、予防・救急・在宅医療へと継続性のある看護を目指しています。

令和6年度は看護の質向上のために、指導者育成による看護実践能力の向上、業務改善、病院機能評価の更新に取り組みました。

目標(BSC重点施策)

令和6年度

「看護師の自信とやりがい感を高める看護の実践」

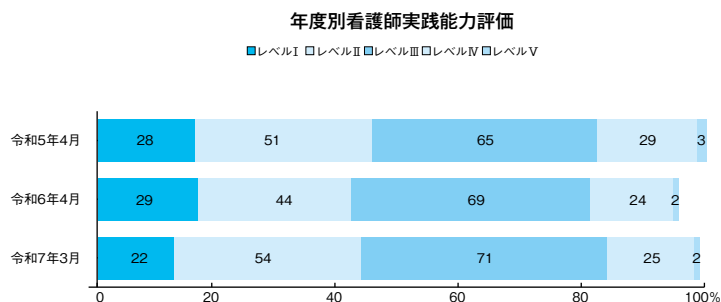
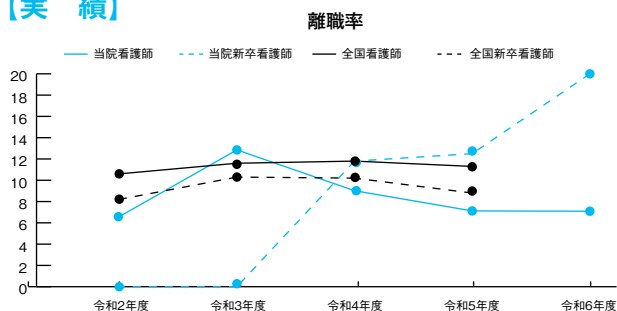
1. 指導者育成による看護実践能力の向上
2. 看護職のやりがい感を高める業務改善
3. 病院機能評価の更新

令和7年度

「支え合い、ともに学び成長できる組織づくり」

1. 業務の見える化・業務分担による業務改善
2. 看護師の観察力とアセスメント能力の向上

【実績】



【組織・人員構成(看護体制)】

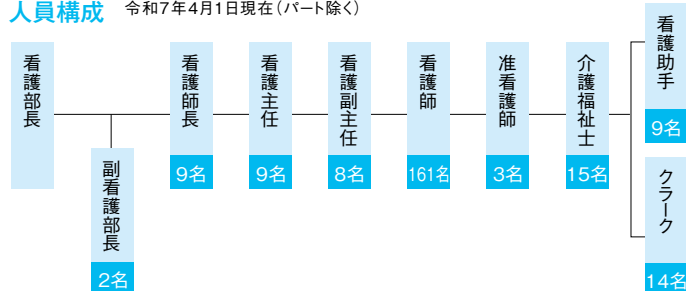
看護部管理室

看護部長／中村真由美

副看護部長／足塚則子

副看護部長／竹仲美奈子

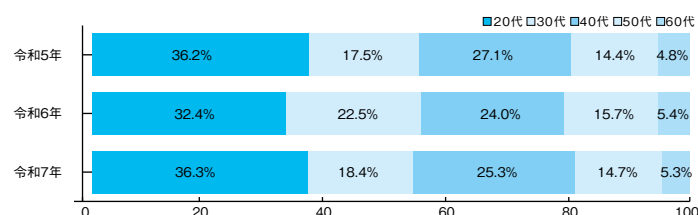
人員構成 令和7年4月1日現在(パート除く)



看護体制

- 2階病棟 51床 地域包括ケア病棟 (13:1)
- 3階A病棟 38床 療養病棟 (20:1)
- 3階B病棟 30床 回復期リハビリテーション病棟 (15:1)
- 4階A病棟 25床 一般病棟・16床 地域包括ケア病床 (10:1)
- 4階B病棟 39床 一般病棟 (10:1)
- 外来
- 手術室
- 透析室

年度別看護師年齢構成



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

各部署の指導者育成とラダー別研修や急変対応のシミュレーション研修により、看護師のアセスメント能力を高め、高齢者看護の質を高めるように努力しています。

外来看護

【概 要】

外来は幅広い診療科や内視鏡室、化学療法室、血管造影室、訪問診療など様々な分野で患者さんが安心、安全に検査、処置、治療を受けていただけるように努めています。昨年度から心不全患者さんに心不全療養指導を開始して来院時の聞き取り、指導を行い再入院予防に努めています。また、中央採血室を設置し業務のスマート化を目指しています。今年度よりアレルギー疾患内科も新設され、さらに幅広い患者さんのニーズにお応えするべくスタッフ一丸となり取り組んでいます。

目標 (BSC重点施策)

令和6年度

1. 切れ目のない外来継続看護の実践
2. 業務改善(採血中央化)による患者満足度向上

令和7年度

1. 災害に対応できるシステムを構築することができる
2. サポート体制の充実を図り心理的安全性を高めることができる
3. SDGsに取り組み、経費削減を図る

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
在宅療養指導数(件)	20	25	13

がん相談外来	令和4年度	令和5年度	令和6年度
看護介入数(件)	185	132	—
がん患者指導管理料(イ)	83	70	49
がん患者指導管理料(ハ)	—	—	—
がん患者指導管理料(ロ)	17	30	0
がん患者指導管理料(二)	2	5	8
心不全指導介入数(件)	—	—	136

【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／西川厚子

人員構成

看護師(育休1名含む) …… 24名
乳がん看護認定看護師 …… 1名
日本糖尿病療養指導士(看護師) …… 1名
消化器内視鏡技師(看護師) …… 4名
看護助手 …… 2名
クラーク …… 8名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

いつも外来にご紹介いただきありがとうございます。昨年度からWeb予約システム(通称TRiP)が運用開始となっております。今後ともよろしくお願いいたします。

2階病棟(地域包括ケア病床)

【概 要】

急性期治療を終えた患者さんの継続的治療やリハビリテーションを行い、在宅復帰の支援を行っています。また、在宅にて療養されている方の入院受け入れを行っています。治療後、引き続き在宅療養へ戻れるよう、退院後の生活のイメージを共有し方向性を患者さん・ご家族と検討し医療チームで情報共有しています。また、退院前は必要な社会資源を活用できるように、当院の医療スタッフや在宅支援スタッフと共に自宅退院に向けた支援を行っています。

昨年度退院支援に向けた新たな取り組みとして、入院中から退院後の生活を見据えた関わりの一環として病棟看護師も家屋訪問を実施しました。実際自宅を訪問することで在宅生活がイメージしやすくなり、入院中から在宅に向けた関わりを更に強化していくことができました。

目標 (BSC重点施策)

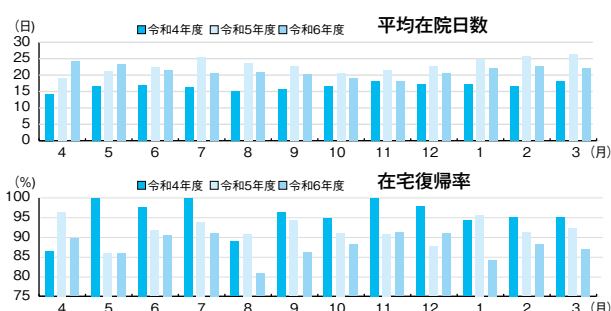
令和6年度

1. 地域包括看護師の専門性を発揮し、生活に繋げる支援の実践
2. 前向きな心を育て、やりがい感につなげる看護の実践

令和7年度

1. 業務を見える化し、病棟全体で協力し合える病棟づくり
2. チームで考え進めていく退院支援

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／池嶋美緒

人員構成

看護師 …… 31名
(育休3名含む)
入退院支援看護師 …… 1名
介護福祉士 …… 4名
看護助手 …… 3名
クラーク …… 1名
理学療法士 …… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括ケア病棟では患者さんが住み慣れた生活に安心して戻れるよう、患者さんと共に退院後の生活を意識した看護展開を行っています。

3階A病棟(療養病床)

【概要】

急性期の治療を終え、引き続き医療の必要性が高く入院療養が必要な患者さんにご利用いただく病床です。令和6年度は、フィジカルアセスメントの勉強会や模擬訓練を行い、急変対応に注力しました。

【受け入れ可能な医療処置】人工呼吸器、気管カニューレ留置酸素療法、喀痰吸引、血液透析、中心静脈栄養、末期の悪性腫瘍、褥瘡、胃瘻などの経腸栄養など。※人工呼吸器は人数制限、条件あり

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 呼吸器関連の知識を高め、病棟全体の実践能力が向上し、スタッフの自己肯定感を高める
2. その人らしさを共に考え、QOLを高める看護実践により患者・家族の満足度が向上し、スタッフのやりがい感につなげる

令和7年度

1. 看護・介護業務の見える化で働きやすい病棟作りを目指す
2. 患者の個性性を重視した看護計画を実践し、スタッフのやりがい感向上を目指す

【実績】

退院内訳	令和4年度	令和5年度	令和6年度
自宅	29	13	13
死亡	21	39	25
病院	0	0	0
特養	0	1	0
老健	3	1	2
有料施設	3	1	2
介護医療院	1	1	1
計	57	55	43

【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／渡邊卓

人員構成

看護師……………18名
 緩和ケア認定看護師……………1名
 入退院支援看護師(兼務)……………1名
 介護福祉士……………7名
 クラーク……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

『やさしく寄り添う看護と介護』を目標に多職種がチームを組み、専門知識を活かした医療・日常生活援助や希望に沿った退院支援を目指すなど、様々な取り組みをしています。

3階B病棟(回復期リハビリテーション病床)

【概要】

脳血管疾患や大腿骨骨折等の急性期治療を終えた患者さんを対象に、リハビリテーションを実施しています。令和6年より365日リハビリテーション実施が可能となり、専門職によるチームで、今まで以上に在宅復帰・社会生活復帰を目指して支援を行っています。脳卒中再発予防指導や、介護指導教室を開催し、定期的にカンファレンスでは退院後の生活が維持できるよう支援も行っています。

目標(BSC重点施策)

令和6年度

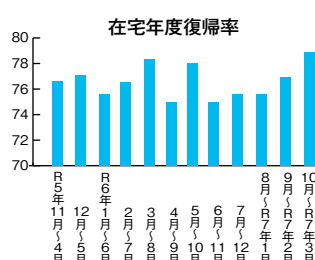
1. 新たなリハビリ看護実践の習得と実践能力の向上により、患者の機能回復を目指す
2. 働きやすい職場環境を整備し、スタッフの自己効力感を向上させる
3. 病院機能評価に向け、個々の役割を認識し、協力し合って認定を取得する
4. SDGsに取り組み、経費削減と再生可能な資源を有効に活用する

令和7年度

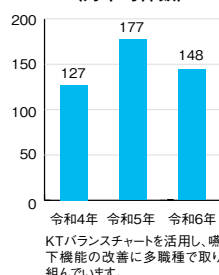
1. 業務改善により心理的安全性の高い職場環境を整備しリハビリ看護、介護を実践する
2. リハビリ専門知識、技術能力を習得し、スタッフの実践能力が向上する

【実績】

令和6年 脳卒中地域連携バスの運用件数
鳥取大学22件、労災病院2件



摂食機能療法加算
(月平均件数)



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／細田友加

人員構成

看護師……………16名
 入退院支援看護師(兼務)……………1名
 准看護師……………1名
 介護福祉士……………5名
 クラーク……………1名
 理学療法士……………7名
 作業療法士……………7名
 言語聴覚士……………3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

退院調整連携バスを使用してカンファレンスを開催し退院調整を行っています。退院1ヶ月以内に退院後生活の状況を確認し、関連施設や多職種で情報共有を行っています。

4階A病棟（一般病床、地域包括ケア病床）

【概 要】

一般病棟の整形外科疾患を中心とし、地域包括ケア病床も保有している病棟です。高齢者に多いとされている大腿骨骨折が多く、独居での生活環境も増えていることから在宅支援に困難しているのが現状で退院に向けてのカンファレンスにも力を入れています。今年度は二次性骨折予防に取り組むことから早期手術、多職種での連携を図り関わることも目標としています。又、脊柱管狭窄症の患者さんも年々増加傾向にあります。

高齢者の方は内科疾患の合併症を抱えている患者さんが多く、チーム医療が不可欠となるため丸となって治療、看護に取り組んでいきます。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

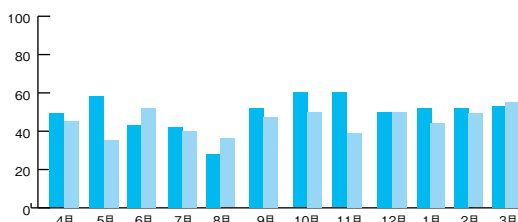
1. 患者家族と共に考え多職種と協働し受け持ち看護師が中心に退院支援することができる
2. 柔軟な業務体制を構築し労働環境を改善する
3. 病棟全体で学習することで知識の底上げと個々のスキル向上を目指す

令和7年度

1. 働きやすい環境をつくるための業務改善の強化
2. 勉強し続ける職場環境の定着

【実 績】

退院に向けてのカンファレンス件数
■ 令和5年 ■ 令和6年



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／山崎博美

人員構成

看護師…………… 35名
（育休・産休4名含む）
入退院支援看護師…………… 1名
看護助手…………… 3名
クラーク…………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

症状の改善はもとより、患者さんとの情報提供を密にし患者さん・ご家族の望む療養環境の調整を一緒に考えサポートしていきます。

4階B病棟（一般病床）

【概 要】

外科・婦人科・内科・腎臓外科を中心に、急性期病棟として周手術期や緊急入院の患者さんを受け入れています。手術や処置・急な入院への不安に対応しながら安心して入院生活が送れるよう支援しています。多岐にわたる疾患・処置に対処しながら、高齢患者さんの入院に対しても、本人・家族の意向を確認しながら元の生活に戻るよう多職種で話し合い調整を行っています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 患者の意向を汲み取り、患者・家族の思いを反映させた退院支援を行う
2. 急性期患者に対し、看護師一人ひとりのスキルを高める

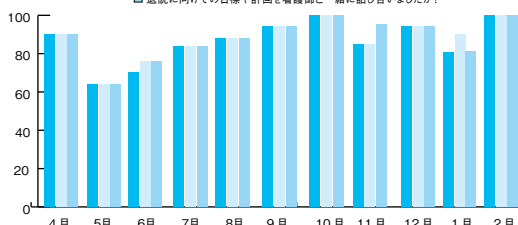
令和7年度

1. 業務の可視化を行いチーム全体で補完が出来る体制を構築する
2. 自身の学びを深め、急性期病棟に特化した知識の向上につなげる
3. 退院後の生活をイメージした退院指導・調整の強化

【実 績】

患者満足度調査

■ 計画通りに実施できたか
■ 上記の中で、意向は取り入れてもらえたか
■ 退院に向けての目標や計画を看護師と一緒に話し合いましたか？



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／加藤美樹

人員構成

看護師…………… 29名
（育休・産休1名含む）
入退院支援看護師…………… 1名
准看護師…………… 1名
看護助手…………… 3名
クラーク…………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

1日でも早く元の生活に戻るよう、本人・家族の意向を確認しながら支援していきます。患者さんが地域で安心して生活ができるよう、ご協力をお願いします。

手術室

【概要】

手術室部門は、外科系各科（消化器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、腎臓外科、眼科）医師、内視鏡手術やペースメーカー植え込み術を行う内科医師、麻酔科専門医、看護チームで構成され、さらに臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師など、各部門が連携して手術業務を行っています。令和6年度は令和5年度より手術件数が約150件増加しました。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 部署内の看護の質を向上させる活動により看護師のやりがい感が向上する
2. 5S活動を行い業務改善をすることで看護師の満足度が向上する

令和7年度

1. 業務の見える化、業務の効率化、業務改善を行い、働きやすい職場に繋げ、看護師の業務の満足度が向上する
2. 心理的安全性が保たれる職場とすることで声をかけやすい環境にし、看護師の気持ちの満足度が向上する

【実績】

各科手術件数

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外科	248	196	232
整形外科	202	200	213
産婦人科	162	156	140
血管外科	0	—	—
眼科	151	203	330
麻酔科	0	10	6
内科	11	6	2
腎臓外科	8	21	18
計	782	792	941

【スタッフ紹介】

責任者

室長／多喜小夜
看護師長（透析室兼務）／藤居貴子

人員構成

医師 2名
（うち1名は非常勤）
看護師 7名

所属学会※医師以外

日本手術看護学会 4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

緊急手術を含め速やかな手術対応に努めています。個人、チームの知識、技術向上に取り組み、地域の皆様に信頼される安全で快適な手術を提供していきます。

透析室

【概要】

透析室は医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士・管理栄養士が連携をとり、透析患者さんと家族が安心・安全な透析治療を受けていただけるよう支援を行っています。透析通院が困難な方には、無料の送迎サービスを行い、体調の悪い方には看護師が送迎車に同乗しています。また、介護福祉タクシーと連携し、車いすや介助が必要な方でも安心して通院ができるようサポートも行っています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 災害に対する安全意識の向上
2. 透析室看護師のやりがい感向上

令和7年度

1. 患者の生活目標実現のための看護実践
2. 心理的安全性の高い職場環境の調整

【実績】

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
透析数（回）	6,926	5,900	6,169

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中保則
看護師長（手術室兼務）／藤居貴子

人員構成

医師 2名
看護師 9名
（育休1名含む）
臨床工学技士 5名
看護助手 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

透析治療が必要な様々な病期の患者さんに対応しています。当院は地域に根ざした透析治療と、患者さんの生活の質向上を目指し、安心と満足を感じていただけるよう取り組んでいます。

内視鏡室

【概要】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、指導医、専門医を中心に、消化器内視鏡検査と治療を行っています。内視鏡室には5名の看護師が配属されていますが、4名が学会の認定する消化器内視鏡技師の資格を取得しています。呼吸器内科医師による気管支鏡検査や、嚥下機能評価研修を修了した脳神経内科医師による内視鏡を用いた嚥下機能評価も行っています。

目 標

1. 質が高く、苦痛の少ない、上部・下部消化管や胆膵領域の内視鏡検査と治療、気管支鏡検査、嚥下内視鏡検査を継続します。
2. 新型コロナウイルス感染症等に対応すべく、十分な感染対策を行ったうえで内視鏡検査を行います。

【実績】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
上部消化管内視鏡検査	4,511	4,770	4,760
下部消化管内視鏡検査	979	960	1,015
内視鏡の逆行性胆膵造影	57	51	44
気管支鏡検査	5	10	8
嚥下内視鏡検査	22	15	9

【スタッフ紹介】

責任者

室長／濱本哲郎

人員構成

医師…………… 12名
(消化器、呼吸器、脳神経内科を含む)
看護師…………… 5名
看護助手…………… 1名

認定資格※医師以外

消化器内視鏡技師…………… 4名

所属学会※医師以外

日本消化器内視鏡技師会… 4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

上部・下部消化管、胆膵、呼吸器、嚥下機能評価など、幅広い領域の内視鏡検査と治療を行っていますので、何なりとご相談下さい。

化学療法室

【概要】

化学療法室は、外来通院で抗がん剤や生物学的製剤の点滴治療を受ける患者さんを対象に活動しています。認定看護師を含む4名の看護師が交代で常駐し、副反応への対応などに配慮し、治療を安全かつ快適に受けていただけるよう心がけています。テレビの設置など快適に治療を受けていただけるようなアメニティーも充実させています。

目 標

1. ガイドラインや学会報告などを参考に、引き続き2カ月に1回、レジメン内容の見直しや不要なレジメンの削除を行っていく。
2. 副作用対策の強化内容を入れていく。
3. 免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の早期発見と対策の整備を行う。

【実績】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
化学療法数(件)	549	423	521

【スタッフ紹介】

責任者

室長／近藤亮

人員構成

医師…………… 1名
看護師…………… 4名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

心理的なフォローも心がけ、傾聴し、心療内科紹介も行っています。日々新たな知識を獲得し、患者さんに安心かつ快適に治療を受けていただけるよう取り組んでいます。

ドック健診センター

【概要】

人間ドックとは、船が定期的に修理ドックに入って点検、整備を受け安全な航行に備えるのに例えて付けられた名称と言われており、生活習慣病のわずかな兆候を見逃すまいと身体の隅々まで点検することを目的として日本では昭和29年に、当院では昭和54年に始めました。現在、当院のドック健診センターでは人間ドック、各種健診、婦人科検診など年間1万人以上の方が受診され、画像診断のダブルチェック体制、疾患のフォローアップ体制を重視し、病気の予防と早期発見に努めています。特に、乳がん検診においてはマンモグラフィに加え、診断能の優れた最新機器である3D画像のマンモグラフィ(トモシンセシス)、超音波診断装置(ABUS)も使用可能です。また、当センターは令和5年8月に鳥取県で最初の日本人間ドック・予防医療学会の健診施設機能評価の認定を受けました。また、令和6年度からは保健師を1名増員して2名体制となり、保健指導、特定保健指導の件数が増加し、受診者の生活指導、受診勧奨に努めております。

健診種類

- ◆ 外来・入院ドック
- ◆ 全国健康保険協会生活習慣病予防健診
- ◆ 個人、企業の一般健診
- ◆ 特定健診、婦人科検診(子宮がん検診、乳がん検診)
- ◆ 労災二次健診
- ◆ 専門ドック(脳ドック、循環器・動脈硬化ドック)

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 経営の改善
2. 職場環境の改善
3. 医療の質と安全の向上

令和7年度

1. 経営の改善
2. 働きやすい職場作り
3. 良質な医療の提供
4. 人材育成

【実績】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人間ドック	3,992	4,275	4,230
協会けんぽ、健診	3,553	4,117	4,197
婦人科検診	2,792	2,751	2,761
計	10,337	11,143	11,188

令和6年度外来・入院ドック 精密検査指示率(要精検率)

	生活習慣病			生活習慣病関連			がん検診						
	血圧	血糖	脂質	心電図	眼底	腹部 超音波検査	胸部X線	胃部X線	胃カメラ (生検)	便潜血	子宮頸部 細胞診	乳房超音波 検査	マンモ グラフィ
検査実施数(人)	4,230	4,230	4,230	4,228	4,187	4,223	4,208	705	3,093	4,148	1,333	296	1,131
要治療	165	57	187	0	0	0	4	0	16	0	0	0	0
	3.9%	1.3%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要精密検査	0	27	31	109	198	155	79	30	83	322	19	13	101
	0.0%	0.6%	0.7%	2.6%	4.7%	3.7%	1.9%	4.3%	2.7%	7.8%	1.4%	4.4%	8.9%
治療中	869	268	788	56	230	83	14	0	9	2	0	0	0
	20.5%	6.3%	18.6%	1.3%	5.5%	2.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※1 上部消化管内視鏡検査:E判定の83人のうち ①同日生検 70人(胃・十二指腸のみ62、胃・食道1、食道のみ7) ②その他 13人

【スタッフ紹介】

責任者

センター長／木村 修
副センター長／多城みゆき

人員構成

医師……………3名
看護師……………5名
保健師……………2名
事務……………8名
クラーク……………1名

認定資格

日本人間ドック・予防医療学会
認定医……………1名
暫定指導医……………1名
人間ドック健診情報管理指導士
(医師・保健師)……………2名

施設認定

日本人間ドック・予防医療学会
健康施設機能評価認定
優良健診施設認定
人間ドック健診専門医制度暫定研修施設

所属学会

日本人間ドック・予防医療学会

【担当医師】

木村 修 …… アミノインデックス外来(P28) 参照
鶴原 一郎 …… 臨床検査科(P37) 参照
非常勤:工藤浩史
…………… 日本人間ドック・予防医療学会所属



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

機能評価認定を受けたことにより、保健指導、要精検者へのフォローアップにも注力しています。かかりつけ医の先生方には紹介状を持って受診される場合があると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

薬剤部

【概 要】

薬剤部は、医薬品の安全管理と適正使用を担い、薬学的視点を活かして、安全で質の高い医療の提供に取り組んでいます。調剤業務、TDM、抗がん剤の無菌調製、服薬指導、チーム医療への参画、医薬品情報の提供などを通じて、薬剤師としての専門性を発揮しています。また、薬局薬剤師や他職種と連携し、入院から外来・在宅まで切れ目のない薬物療法支援体制を構築しています。現在は、LINE WORKSを活用して近隣薬局との情報共有を行い、合同研修会を通じて地域連携の強化にも努めています。令和6年度は、病棟薬剤業務の拡充に向けて、薬剤部の人員体制の強化や業務内容の整備を行い、薬剤師がより主体的に薬物療法に関与できる体制の基盤づくりを進めました。今後も地域医療の中核を担う薬剤部としての誇りと責任を胸に、患者さんが安心して治療を受けられるよう、安全で質の高い薬物療法の提供に努めてまいります。

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. SDGs活動の推進

令和7年度

1. 病棟薬剤業務の拡大と充実
2. 地域医療連携の推進
3. 働きやすく・働きがいのある職場づくり
4. 医薬品適正在庫管理と廃棄ロス削減

【実 績】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院処方(枚数)	23,528	27,137	26,725
外来処方(枚数)	5,155	4,429	3,960
院外処方(枚数)	44,448	44,220	45,367
院外処方箋発行率	89.6%	90.9%	92.0%
入院注射処方(枚数)	20,451	21,833	21,684
外来注射処方(枚数)	13,205	11,608	11,107
薬剤管理指導件数	771	1,029	1,138
無菌調製件数(月平均)	74	100	92
持参薬鑑別件数(平成30年度より集計開始)	1,710	1,749	1,835

【スタッフ紹介】

責任者

薬剤部長／足立晶子 主任／中山卓

人員構成

医師…………… 1名
 薬剤師…………… 11名
 調剤助手…………… 1名
 SPD スタッフ …… 4名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本病院薬剤師会…………… 1名
 感染制御認定薬剤師…………… 1名
 日本緩和医療薬学会…………… 1名
 緩和薬物療法認定薬剤師…………… 1名
 日本臨床栄養代謝学会…………… 1名
 NST専門療法士…………… 1名
 日本糖尿病療養指導認定機構…………… 1名
 糖尿病療養指導士…………… 1名
 薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師…………… 2名
 日本病院薬剤師会…………… 4名
 病院薬学認定薬剤師…………… 1名
 日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師…………… 1名
 日本循環器学会 心不全療養指導士…………… 1名

所属学会

日本病院薬剤師会…………… 11名
 日本医療薬学会…………… 3名
 日本緩和医療薬学会…………… 2名
 日本緩和医療学会・日本環境感染学会…………… 各1名
 日本臨床栄養代謝学会・日本老年薬学会…………… 各1名
 日本循環器学会・日本薬剤師会…………… 各1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

近年、薬の使い方は専門的で複雑になり、安全に使うための注意すべき点が増えています。薬剤部は院内外の医療スタッフと連携し、入院から在宅まで、安心・安全な薬物療法の提供に努めています。お薬のことは、私たち薬剤師にお任せ下さい。

臨床検査部

【概要】

当院検査部は、地域医療に貢献すべく24時間体制で検査業務に励んでいます。最新型機器の導入や徹底した品質管理により、迅速で精度の高い検査値報告を目指しています。検査値の精度を高めるために、外部精度管理事業への参加、学会発表や資格取得など学術研鑽にも積極的に取り組んでおり、令和6年度の学術実績は、心電図検定試験合格1名、認定超音波検査士【体表臓器領域】1名、学会発表3名、精度管理責任者1名の成果を得ています。またタスクシフトシェアとして採血業務、認知機能検査、VAIVT（バスキュラーアクセス・インターベンション・セラピー）補助などチーム医療の一員として活躍しています。さらに近隣住民の方々の健康意識向上、健康管理を目的とした「すまいるプチ検診」を検査部主導で運営しており、地域の方々の健康増進に貢献しています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 検査部経営の改善
2. 業務連携の強化
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

令和7年度

1. 検査部経営の改善
2. タスクシフト/シェアの取り組み
3. 安全で質の高い医療の提供
4. 部員の能力向上

【実績】

検体検査部門(件数)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生化学Ⅰ	530,739	555,193	558,722
生化学Ⅱ	36,245	37,477	38,102
免疫血清	59,646	57,782	55,716
血液	83,074	85,998	86,533
一般	41,105	42,935	43,721
輸血	182	185	208
外部委託	15,665	16,048	15,687

すまいるプチ検診	令和4年度	令和5年度	令和6年度
営業日数(日)	243	246	248
実人数(人)	98	107	101

微生物検査部門(件数)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般培養	3,138	3,352	4,557
感受性	367	447	525
その他	241	210	182

生理検査部門(件数)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
心電図	9,931	10,391	10,585
肺機能	383	414	694
超音波	10,257	10,708	11,023
動脈硬化	394	480	578
脳波	59	52	50
筋電図	50	66	59
睡眠検査	20	56	46
歩行試験	0	4	6

病理検査部門(件数)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病理	1,587	1,593	1,641
細胞診	1,696	1,670	1,517
婦人科細胞診	2,219	2,311	2,367

外部精度管理主催団体(点数)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本医師会 臨床検査精度管理調査	97.5/100	98.4/100	98.0/100
日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査	97.2/100	100/100	97.4/100
鳥取県臨床検査精度管理調査	98.3/100	99.2/100	95.0/100

【スタッフ紹介】

責任者

部長／鶴原一郎 技師長／先瀬浩功

人員構成

医師……………1名
臨床検査技師……………13名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

日本糖尿病療養指導士……………1名
鳥取県糖尿病療養指導士……………1名
認定輸血検査技師……………1名
認定超音波検査士【消化器領域】……………1名
認定超音波検査士【循環器領域】……………1名
認定超音波検査士【健診領域】……………1名
認定超音波検査士【体表臓器領域】……………1名
血管診療技師……………1名
臨床工学士……………1名
健康食品管理士……………1名
二級臨床検査士【循環生理学】……………1名
認定認知症領域検査技師……………1名
認定心電図専門士……………1名
危険物取扱者乙4類……………1名
鳥取県肝炎医療コーディネーター……………3名
日本不整脈学会心電図検定1級……………1名
日本不整脈学会心電図検定2級……………2名
日本臨床衛生検査技師会精度管理責任者……………3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

迅速で精度の高い検査値報告の提供、地域住民の健康増進を目的とした「すまいるプチ検診」、更に血糖測定器の導入からアフターケアまで様々な分野で地域医療に貢献すべく日々尽力しています。

診療放射線部

【概 要】

診療放射線部では、地域の医療機関の皆さまとの緊密な連携体制の構築が重要と考えております。地域医療の密接な連携を目指し、患者さんと主治医の先生を、放射線科紹介と共同利用による画像診断でバックアップします。

令和6年8月に山陰初の最新乳房撮影装置を導入しました。AI技術を活用した操作性の向上とX線被ばくが少なく、より鮮明で高画質の画像を提供します。これにより当院にある乳房撮影装置2台とも、圧迫時の痛み軽減機能が付いたトモシンセシス撮影が可能となりました。

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. SDGs活動の推進

令和7年度

1. 検査件数の増加
2. 検査の Quality up
3. 働きやすい職場作り
4. MR 装置導入に向けた取り組み

【実 績】

検査項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般撮影(件)	23,228	24,065	24,382
マンモグラフィ(件)	5,124	5,217	5,219
透視(件)	3,320	3,186	3,331
CT(件)	6,054	6,175	6,243
MRI(件)	3,270	3,274	3,418
骨塩定量(件)	1,012	1,160	1,194

【スタッフ紹介】

責任者

部長／中村希代志 技師長／池嶋道夫

人員構成

放射線科医……………1名
診療放射線技師……………10名
看護師……………1名
クラーク……………1名

認定資格(研修修了含む)

日本診療放射線技師会・技師格
シニア……………4名
アドバンス……………7名
日本診療放射線技師会認定
放射線管理士……………5名
放射線機器管理士……………1名
医療画像情報精度管理士……………6名
マンモグラフィ認定技師……………5名
磁気共鳴専門技術者……………1名
X線CT認定技師……………2名
胃がん検診専門技師……………4名
医用画像情報専門技師……………1名
医療情報技師……………2名
画像等手術支援認定技師……………1名
AI認定技師……………2名
CTコロノグラフィ認定技師……………1名
大腸CT検査技師……………3名
診療放射線技師会 業務拡大に伴う
統一講習会修了……………10名
診療放射線技師法改正に伴う
告示研修(実技)修了……………8名

所属学会

日本診療放射線技師会……………10名
日本放射線技術学会……………7名
日本消化器がん検診学会……………5名
日本医用画像管理学会……………2名
日本医療情報学会……………1名
日本CT技術学会……………1名
日本磁気共鳴医学会……………1名
鳥取県診療放射線技師会……………10名
日本放射線技術学会中国・四国支部……………7名
日本放射線技術学会 医療情報部会……………1名

検査機器・装置

64列マルチスライスCT……………1台
1.5テスラMRI……………1台
3Dマンモグラフィ装置(トモシンセシス)……………2台
デジタルX線TV装置……………3台
血管撮影装置……………1台
一般X線撮影装置……………2台
骨密度測定装置……………1台
ポータブル撮影装置……………2台
サーバー型ワークステーション……………1台



MESSAGE/ 地域医療機関のみなさまへ

日頃より共同利用、放射線科紹介をご利用いただき誠にありがとうございます。専用ダイヤル、メールで予約受付ができますので今後ともよろしくお願いたします。詳細は当院 HPでご確認下さい。

専用ダイヤル 090-5051-8172

E-mail:housya-yoyaku@doaikai.jp

リハビリテーション部

【概 要】

急性期、回復期（回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟）、維持期（療養型病棟）、生活期（訪問リハビリテーション）と全ての時期にリハビリテーションを提供できる体制をとり、外来でのリハビリテーションにも力を入れております。各種チーム活動（心臓リハ、がんリハ、整形、中枢疾患、スキンケア、RST、認知症、嚥下、シーティング、糖尿病、家屋訪問）も積極的に取り組んでいます。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 自部門収益の増加
2. 診療の質向上
3. 職員満足度の向上（スタッフの精神的フォロー）

令和7年度

1. 自部門収益の改善
2. 人材育成

【実 績】

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度
リハビリテーション平均単位数/日 （1人の患者が行う訓練時間） ＊1単位＝20分の訓練	一般病棟（急性期リハビリテーション）	2.4単位	2.1単位	2.2単位
	回復期リハビリテーション病棟	5.8単位	5.6単位	6.0単位
	地域包括ケア病棟	2.4単位	2.3単位	2.3単位
回復期リハビリテーション病棟 実績指数 （より早く、より回復して退院できたかを示した点数：基準35以上）		47.23	45.81	45.02
嚥下造影検査		31件	36件	27件
嚥下内視鏡検査		32件	15件	9件
外来小児リハ 通院者数 主な疾患：発達性協調運動障害、学習障害、機能的構音障害、 知的障害、言語発達遅滞、注意欠陥多動障害、自閉スペクトラム症、 ダウン症、超低出生体重児、経口摂取困難など		169名	125名	113名

【スタッフ紹介】

責任者

部長／岸隆広 技師長／吾郷秀吉

人員構成

医師…………… 1名
理学療法士…………… 31名
作業療法士…………… 20名
言語聴覚士…………… 9名

認定資格（研修修了含む）

日本理学療法士協会 認定理学療法士（運動器）…………… 1名
3学会合同 呼吸療法認定士 …………… 5名
呼吸ケア指導士（初級）…………… 1名
心臓リハビリテーション指導士 …………… 2名
心不全療養指導士 …………… 1名
がんのリハビリテーション研修会修了 …………… 12名
骨粗鬆症マネージャー …………… 1名
フットケアトレーナー …………… 1名
ケアマネージャー資格取得者 …………… 1名
福祉住環境コーディネーター2級 …………… 10名
日本ボパース研究会 成人片麻痺認定基礎講習会修了… 3名
日本ボパース研究会 成人片麻痺認定上級講習会修了… 1名
日本理学療法士協会 指定管理者（初級）…………… 3名
日本理学療法士協会 指定管理者（上級）…………… 2名
日本理学療法士協会 地域包括ケア推進リーダー …… 4名
日本理学療法士協会 介護予防推進リーダー …… 5名
日本理学療法士協会指定 職業性腰痛予防講師 …… 1名
鳥取県糖尿病療養指導士 …………… 2名
島根県糖尿病療養指導士 …………… 1名
日本糖尿病療養指導士 …………… 2名
重症児の在宅支援を担う医師等
養成インテグコース修了 …………… 2名
転倒予防指導士 …………… 1名
リンパ浮腫療法士 …………… 1名

認知症ケア専門士 …………… 1名
LSVT LOUD 認定講習会 修了…………… 2名
摂食嚥下リハビリテーション認定士…………… 2名
発達コミュニケーション中級指導者…………… 3名
日本理学療法士協会
フレイル対策推進マネージャー …………… 1名
日本シーティング・コンサルタント協会
シーティング・コンサルタント…………… 1名
日本スポーツ協会 ジュニアスポーツ指導員 …… 1名

所属学会

日本理学療法士協会 …………… 30名
日本作業療法士協会 …………… 20名
日本言語聴覚士協会 …………… 4名
山陰言語聴覚士協会 …………… 1名
日本徒手理学療法学会 …………… 2名
日本運動器徒手理学療法学会…………… 1名
日本心臓リハビリテーション学会 …… 4名
日本循環器学会…………… 1名
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会…………… 1名
日本リンパ浮腫治療学会…………… 1名
日本骨粗鬆症学会…………… 1名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会…………… 4名
日本口腔ケア学会…………… 1名
日本離床学会…………… 1名
日本転倒予防学会…………… 1名
認知症ケア学会…………… 1名
日本DCD学会…………… 1名
日本訪問リハビリテーション協会…………… 7名
一般社団法人 日本ボパース研究会 …… 3名
日本シーティングコンサルタント協会…………… 2名
NPOオーソティックソサエティー…………… 1名
鳥取県アスレティックトレーナー協議会 …… 1名

鳥取県糖尿病療養指導士会 …… 2名
島根県糖尿病療養指導士会 …… 1名
日本糖尿病協会…………… 2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

2024年度は、呼吸療法認定士1名、心不全療養指導士1名、摂食嚥下リハビリテーション学会認定士2名、日本糖尿病療養指導士2名と複数の認定資格療法士がいました。今後も専門的知識・技術を持ち、しっかりとサポートさせていただきます。

臨床工学室

【概 要】

臨床工学室には、臨床工学技士法に基づく国家資格を持つ5名の臨床工学技士が在籍しており、透析業務、呼吸管理、医療機器の保守点検や安全使用に関する研修活動などを通じて、博愛病院の理念に基づいた医療を提供し、地域医療に貢献しています。令和6年度は、病棟で使用される生体情報モニタの不要なアラームを削減することで、患者さんの安全性を高め、より快適な療養環境の整備を目指した取り組みを進めています。

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 透析業務の拡大・コスト削減
2. 気管吸引業務開始による看護業務の負担軽減
3. MACT 活動の開始
4. BLS 研修環境の改善

令和7年度

1. 機器管理の改善
2. 透析治療の質の向上
3. MACT 活動
4. 医療機器関連圧迫創傷の予防と管理の向上

【実 績】

項 目		令和4年度	令和5年度	令和6年度
血液浄化	CHDF	12	2	5
	CHD	0	0	0
	ET吸着	0	0	0
	血漿交換	3	24	18
	CART	2	2	0
呼吸管理	IPPV	17	23	10
	NPPV	33	31	37
機器管理	ME機器返却時点検	1,495	1,695	1,560
	定期点検	2,011	2,738	2,774
	修理業務(有償修理のみ)	129	122	88
内視鏡室	立ち合い業務	4	2	1
その他	下肢血流検査	73	55	42
医療ガス	医療ガス配管設備点検	1,976	1,976	1,976
教育	教育	12	8	13

【スタッフ紹介】

責任者

室長／田中保則 主任／田儀匡史

人員構成

医師……………1名
臨床工学技士……………5名

認定資格(研修修了含む)

透析技術認定士……………2名
3学会合同呼吸療法認定士 ……2名
MDIC(医療機器情報コミュニケーター) ……1名
心電図検定3級 ……1名
第2種ME技術者 ……5名
医療ガス保安管理技術者講習会(3日コース)修了……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域の皆さまに信頼される病院を目指し、技術と知識を高めながら地域医療の向上に努めています。

栄養管理室

【概 要】

栄養管理室は、患者さんと向き合った臨床栄養管理の実践と、診療を支援することを目指しています。「安全でおいしく、治療効果を高める食事」を提供できるように努めています。当院では継続的な栄養管理を実施しています。また、医師の指示に基づき、病態に応じた栄養指導を行っています。チーム医療に参加し、管理栄養士の立場から患者さんの個々の栄養状態に応じた提案を行っています。

目標（BSC重点施策）

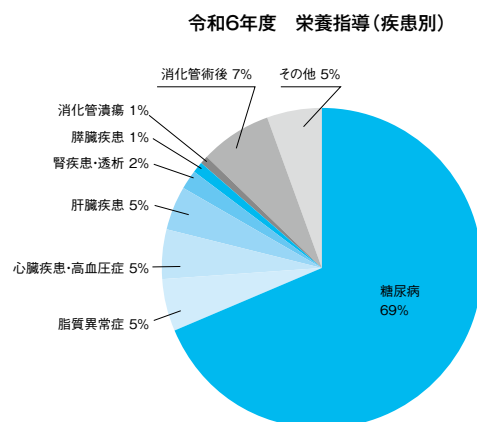
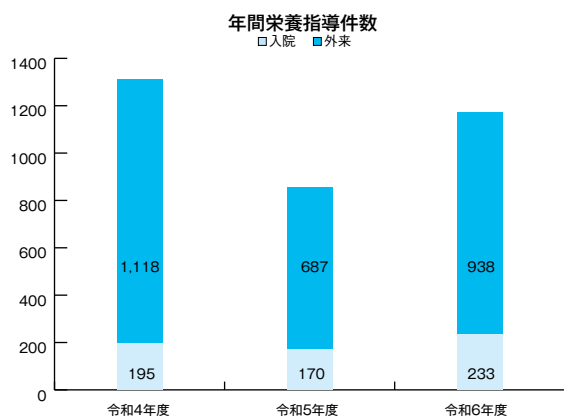
令和6年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. 職場環境の改善
3. 安全で満足度の高い適切な食事の提供

令和7年度

1. 栄養指導件数の維持・増加
2. 働きやすい職場作り
3. 安全で満足度の高い食事の提供

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

室長／藤岡洋平

人員構成

糖尿病・内分泌内科主任部長 …………… 1名
管理栄養士 …………… 4名

認定資格

日本糖尿病療養指導士 …………… 1名
鳥取県糖尿病療養指導士 …………… 1名
NST専門療法士実地修練研修修了者 …… 2名

所属学会

日本栄養士会 …………… 4名
日本糖尿病協会 …………… 2名
日本病態栄養学会 …………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院では、管理栄養士が在籍していない医療機関からの紹介患者さんの栄養指導も行っております。食生活に関する相談について継続したサポートができるよう努めます。

在宅医療センター

当センターは、1997年の訪問看護室立ち上げに始まり、2017年在宅医療センター竣工を経て、現在、訪問診療部、訪問看護ステーション博愛、訪問リハビリテーション博愛、サービスプラン博愛、ヘルパーステーション博愛の5部門を擁す県内有数の在宅診療部へと成長してきました。

住み慣れた自宅で、出来るだけ自分らしく療養生活を送れるようサポートすることが我々の使命と役割です。

博愛病院はもとより、在宅医療に関わる当地域のクリニック、事業所の皆さんと協力し、住みやすい、療養しやすい地域を作っていきたいと考えています。



訪問診療部

【概 要】

自宅から出かけることが難しくなった患者さんに対し、博愛病院の医師が訪問診療を行います。①もともと通院していた担当医師が訪問する、②その方が持つ疾患の専門医師が訪問する、③当院の訪問看護と密な連携が取れる、④緊急時には博愛病院と連携して診療に当たる、などが、当院の訪問診療部の強みになると考えています。博愛病院は2018年1月より機能強化型在宅療養支援病院となっております。

対応疾患

- ◆慢性呼吸器疾患 ◆脳血管疾患後遺症 ◆進行期悪性疾患
- ◆慢性心疾患 ◆神経難病 ◆その他各種疾患による廃用症候群など

【実 績】

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
訪問診療延回数(件)	329	260	289
往 診 延 回 数(件)	43	28	20
合 計(件)	372	288	309
在 宅 死(人)	19	15	5
病 院 死(人)	6	2	3

【スタッフ紹介】

責任者

センター長／安井建一 …………… 脳神経内科(P23) 参照
 循環器内科主任部長／田中保則…………… 循環器内科(P17) 参照
 呼吸器内科部長／西井静香…………… 呼吸器内科(P18) 参照
 呼吸器内科部長／重白啓司…………… 呼吸器内科(P18) 参照



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

地域包括診療、在宅診療の重要性が増す中、ケアミックス型である当院の役割、活躍の場も増えつつあると感じております。より良い在宅医療ができるように、博愛病院在宅医療センター全体で、また地域の皆さんと協力し、取り組んでいきたいと考えております。

訪問看護ステーション博愛

【概 要】

24時間、365日いつでもご自宅に伺い、適切な判断に基づいたケアとアドバイスを行い療養生活が継続できるよう支援しています。令和6年度は看取りに重点を置き取り組みました。家族・他職種との意思決定支援カンファレンスの開催件数は23件/年実施し、利用者満足度アンケートでは高評価をいただいております。また訪問看護師ラダーを取り入れ人材育成にも取り組んでいます。

目標(BSC重点施策)

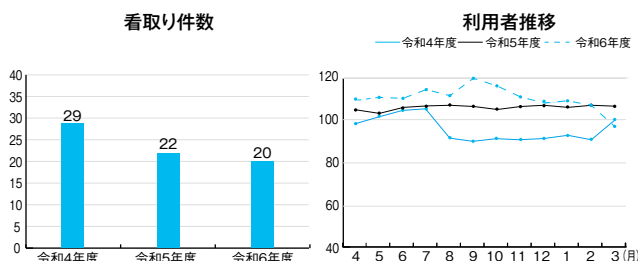
令和6年度

1. 本人・家族の意思に基づいた支援を行い満足できる看取りを実践する。
2. 共に学び励まし合いながら成長しステーション全体のスキルアップを目指す。

令和7年度

1. アセスメント能力を磨き、利用者・家族が安心して療養生活が継続できるよう支援する
2. 業務改善を行うことで働きやすい環境を維持する

【実 績】



【スタッフ紹介】

責任者

看護師長／渡部明代

人員構成

看護師 …………… 10名
 クラーク …………… 1名

認定資格

認定看護管理者教育課程
 (ファーストレベル) 修了 … 4名
 呼吸療法認定士 …………… 1名
 介護支援専門員 …………… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

小児から高齢者まで対応できるステーションです。地域に信頼され選ばれるステーションを目指しています。機能強化型1を算定しています。

訪問リハビリテーション博愛

【概 要】

在宅で療養されている方に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が訪問してリハビリを行います。主治医から指示を受け、ケアマネジャー等と連携を取り、ご家庭で安心して生活できるように支援します。当院では呼吸療法認定士の資格を持ったスタッフが専門的な呼吸リハビリも行っています。そのほかにも内科疾患、整形疾患等、様々な疾患の方の在宅生活に必要なリハビリを行います。

目標(BSC重点施策)

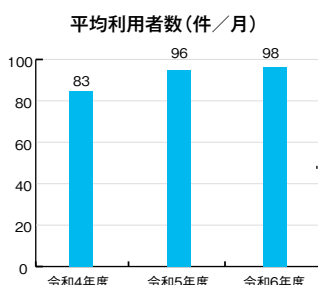
令和6年度

1. 収益の向上
2. 働きやすい訪問リハ事業所の運営
3. 訪問リハ博愛の質の向上
4. 訪問リハにできる SDGsの取り組みの推進

令和7年度

1. 訪問リハ事業所の収益の向上
2. 連携の強化
3. 訪問リハ博愛の質の向上
4. 訪問療法士としての人材育成

【実 績】



連携病院 診療情報提供書を頂いている
 病院、医院 42箇所
 連携事業所 居宅支援事業所 23箇所
 地域包括支援センター 5箇所

【スタッフ紹介】

責任者

主任／増原世子

人員構成

理学療法士 …………… 4名
 作業療法士 …………… 3名
 言語聴覚士(兼務) …… 1名
 事務 …………… 1名

認定資格

3学会合同 呼吸療法認定士 2名
 日本理学療法士協会
 運動器認定療法士 …… 1名

日本理学療法士協会
 地域ケア会議推進リーダー … 1名
 日本理学療法士協会
 介護予防推進リーダー …… 2名
 福祉住環境コーディネーター2級
 …………… 1名
 重症児の在宅支援を担う医師等
 養成インテンシブコース修了 … 1名

所属学会

日本訪問リハビリテーション協会
 …………… 7名
 日本理学療法士協会 …………… 4名
 日本作業療法士協会 …………… 3名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

訪問リハビリテーション博愛では、一人一人の状態に合わせた在宅でのリハビリを提供し、自分らしい生活ができるよう、医師、ケアマネ、介護事業所等と連携を取りながら、支援していきます。

サービスプラン博愛

【概要】

24時間いつでも相談をお受けする体制を整えています。4名の介護支援専門員が、医療機関や介護・福祉の各関係事業所と連携を図り、在宅生活を安心して送ることができるようにサービス調整を行います。令和6年度は地域包括支援センター主催の地域ケア会議等に積極的に参加し地域課題の解決に向けた取り組みを行いました。

目標(BSC重点施策)

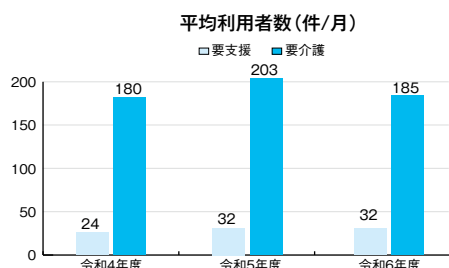
令和6年度

1. 安定した事業所運営
2. ICT活用による業務改善
3. SDGs活動を通じた地域との連携

令和7年度

1. 安定した事業所運営
2. 働きやすい職場作り
3. 良質なケアマネジメントの提供

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

係長／船原優子

人員構成

主任介護支援専門員…………… 2名
介護支援専門員…………… 2名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

ご利用者・ご家族の思いに寄り添う事を大切にケアマネジメントを実施しています。医療機関や介護サービス事業所と連携し在宅生活が継続できるようご支援いたします。

ヘルパーステーション博愛

【概要】

介護保険の認定を受けておられる方で、1人での生活に困っておられる方や介護が必要な方の支援、ご家族の負担軽減のサポート等、住み慣れたご自宅で安心して生活ができるよう支援します。

目標(BSC重点施策)

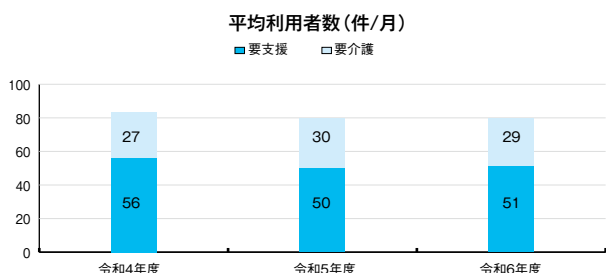
令和6年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. SDGs活動の推進

令和7年度

1. 介護報酬の増加
2. 職場環境の改善
3. 質の高い介護の提供

【実績】



【スタッフ紹介】

責任者

主任／老松良美

人員構成

介護福祉士…………… 5名
(内サービス提供責任者3名)
介護員…………… 2名
(介護職員初任者研修修了)



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

ご自宅での生活を安心・安全に送ることができるようご本人やご家族のサポートを他職種とも連携し、提供させていただきます。

医療安全管理部

医療安全対策室

【概要】

医療安全対策室は、医療安全管理委員会のもと、医療安全に関する知識・認識を高め、院内における医療の安全性の向上を図り、患者さん及び職員の安全を確保することを目的に職員から報告されるインシデントレポートの分析・改善策に向けたカンファレンスや院内ラウンドなどを行っています。

2024年度は、患者誤認ゼロを目指し活動を行い、コードブルー研修を開催いたしました。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

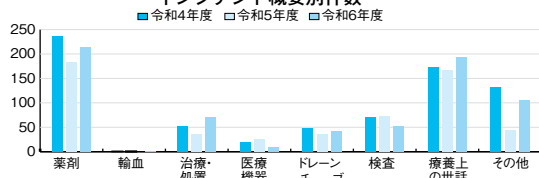
1. 医療の質を確保し患者・家族へ安心安全な医療を提供する
2. 病院機能評価更新に向けて医療安全関連のマニュアルの見直し改定と周知を行いA評価を取得する

令和7年度

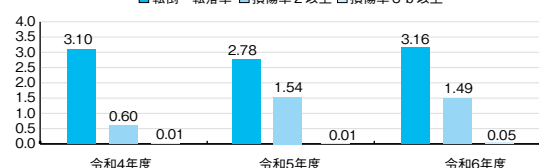
1. 医療の質を確保し患者・家族へ安心安全な医療を提供する
2. 薬剤管理に関連した業務改善を行いインシデントを減らす

【実績】

インシデント概要別件数



転倒・転落率



【スタッフ紹介】

責任者

室長（副院長）／近藤亮
看護師長（GRM）／松岡洋子

人員構成

医療安全管理室長（医師）…… 1名
医療安全管理者（専従）（看護師）…… 1名
診療用放射線安全管理責任者…… 1名
医薬品安全管理責任者…… 1名
医療機器安全管理責任者…… 1名
医事課長…… 1名
感染対策担当者…… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

今年度も医療の質を確保し患者さん・ご家族へ安心安全な医療を提供するため安全管理の徹底に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

感染対策室

【概要】

感染対策室は院長直轄の組織として、感染対策委員会のもと、ICT（感染制御チーム）とAST（抗菌薬適正使用支援チーム）を構成し、病院に関わる全ての人の感染対策を担っています。

令和6年度介護報酬改定に伴い、介護施設とも連携し、地域全体の感染対策が向上できるよう関わっています。新たに連携した高齢者施設の求めに応じて、感染対策研修や感染症発生時の現地指導を行いました。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 薬剤耐性菌対策
2. 医療関連感染制御
3. 病院機能評価更新への活動
4. 地域連携の推進

令和7年度

1. 薬剤耐性菌対策
2. 医療関連感染制御
3. 職業感染対策
4. 地域連携の推進

【スタッフ紹介】

責任者

室長（院内感染管理者）／西井静香
感染管理認定看護師（CNIC）／田原由紀子

人員構成

インフェクションコントロールドクター（ICD）…… 1名
感染管理認定看護師 …… 1名

所属学会

日本環境感染学会 …… 1名
日本感染管理ネットワーク学会 …… 1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院は、感染対策向上加算1を算定しております。地域医療機関や保健所と定期的にカンファレンスを開催し、感染制御に取り組んでいます。お気軽にご相談下さい。

患者支援部

【概要】

当院では地域の医療機関・他施設・各サービス事業所等と連携を円滑にすることで、患者さんがより良い医療を受けていただき、安心した生活が送れるように患者支援部を設置し、連携機関の窓口として対応しています。令和6年度より「デジタル田園都市国家構想」の一環であるWEB予約システム（TRiP）が運用開始、TRiPを利用していただくとFAXでの申込みが不要となり、24時間WEB上で予約ができるようになりました。

入退院支援室

急性期病床、地域包括ケア病床、療養病床、回復期リハビリテーション病床と多機能な病床を有するケアミックス病院です。病床の一元管理を行い、適正な病床管理及び院内外のパイプ役として入退院調整に取り組んでいます。また近隣病院との連携を行い、ケアミックスを発揮して地域の方々が住み慣れた場所で療養できるよう、各病棟に配置した入退院支援看護師とともに退院調整が円滑にいくよう支援しています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 効率的効果的病床運用を実践し
病院計画に参画する
2. 地域連携機関との連携強化

令和7年度

1. 効率的効果的病床運用の実践
2. 地域連携機関との連携強化と
切れ目ない医療の提供

医療相談室

医療ソーシャルワーカー（MSW）が患者さんの療養・生活環境を整えていくことで住み慣れた地域（自宅）で安心して生活できるように各医療機関・地域の関連機関・行政・ケアマネジャー等と連携し調整（退院等）に努めています。また様々な社会福祉制度についてのご相談に応じており、医療・福祉・介護のコーディネイトを行っています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 経営の改善
2. 働き方改革の推進

令和7年度

1. 退院支援による在院日数の
適正化・病床回転率の向上
2. 働きやすさと定着率を高める
職場づくり

地域連携室

医療機関からの紹介患者さんの診療や検査等の予約の調整、当院からかかりつけ医療機関等への逆紹介など、紹介元及び紹介先の医療機関との連携の窓口として、患者さんが円滑に診療をお受けいただけるように取り組んでいます。また医療機関からの様々なお問い合わせにも対応しています。

目標（BSC重点施策）

令和6年度

1. 地域の医療機関等との連携強化
2. 紹介予約の充実
3. 働き方改革の推進

令和7年度

1. 地域の医療機関等との連携充実
2. 事前紹介予約の増加推進
3. 人材育成

患者相談室

患者さん・ご家族等からのご心配やお困り事等の相談窓口となっています。相談内容に応じて、各専門職員への橋渡しを行っています。

【実績】

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
紹介患者数(件)	3,804	4,090	3,974
(内、予約数)	1,608	1,780	1,730
患者相談窓口対応数(件)	103	65	145
転院受入状況(件)			
回復期病棟	32	36	43
療養病床	10	9	1
地域包括ケア病棟	10	7	20
一般病棟	30	60	54

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対応患者数(MSW) (院内・多職種カンファ件数含む)	1,025	1,085	1,092
合同カンファレンス数(件)	559	561	450
家屋訪問数(件)	144	180	195

【スタッフ紹介】

責任者

部長／松本栄二
入退院支援室室長／竹仲美奈子

人員構成

医師……………1名
看護師……………2名
医療ソーシャルワーカー……………3名
事務員……………3名
監理監……………1名

認定資格(研修修了含む)

社会福祉士……………3名
臨床倫理認定士(基礎)……………1名
医療対話推進者認定……………4名
主任介護支援専門員……………1名
公認心理師……………1名



MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当院の地域連携に関するアンケートにご協力いただき感謝しております。皆様からのご意見をもとに一層連携体制の構築、切れ目ない医療・介護・福祉サービス支援に取り組みます。

事務部

【概要】

私たちは病院の基本理念に基づき、常に「笑顔とやさしさ・思いやり」を持って業務に取り組んでいます。事務部は4課32名と少人数の組織ではありますが、各人が専門性を発揮し健全な病院経営に貢献していきます。

【スタッフ紹介】

責任者

事務部長／鬼村博幸

人員構成

総務課…………… 6名
 用度施設管理課…………… 6名
 経理調達課…………… 2名
 医事課…………… 18名
 (兼務、パート職員含む)



医師支援室

【概要】

医師支援室は医師の業務負担軽減を目的に設置されました。医師が行う業務のうち事務的な業務(書類作成補助、外来診療支援、データ入力など)を主に行っています。医師の業務負担を軽減することにより、医師が患者さんと向き合う時間が増え、「患者満足度の向上」や「医療の質の向上」に貢献できることを目指しています。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／足立晶子

認定資格

医師事務作業補助技能認定者…………… 2名

人員構成

室長 医師(兼務)…………… 1名
 室長補佐(兼務)…………… 1名
 医師事務作業補助者…………… 4名



情報システム管理室

【概要】

電子カルテをはじめ、イントラネット、院内ネットワーク、各種システムやIT機器の導入、管理(メンテナンス・故障時対応・操作説明など)を行っています。

全員が本業との兼務の中、毎週1回ミーティングを行っています。兼務である強みを活かし、それぞれが各部署の意見などを吸い上げ、院内の問題点などについて情報共有、解決策の検討を行い、病院全体の業務改善に励んでいます。

【スタッフ紹介】

責任者

室長／中村希代志

人員構成

医師…………… 1名
 診療放射線技師…………… 1名
 臨床検査技師…………… 1名
 薬剤師…………… 1名
 理学療法士…………… 1名
 臨床工学技士…………… 1名

看護師…………… 1名
 医事課職員…………… 1名
 用度施設管理課職員…………… 1名

認定資格

医療情報技師…………… 2名
 医用画像情報専門技師…………… 1名



チーム医療

感染制御チーム (ICT)

【概要】

ICD (感染制御医師)を中心に、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、臨床検査技師の多職種により構成されており、組織横断的に活動し、病院内の感染対策に取り組んでいます。

役割

1. 感染症発生時の対応
2. 感染対策の知識と技術向上のための教育
3. 各部署の感染対策の改善、定着
4. 抗菌薬使用状況の把握
5. 抗 MRSA 薬の治療薬物モニタリングの実施
6. 感染症患者情報の把握と管理
7. カンファレンスの開催

【活動内容】

1. 院内ラウンドによる感染対策遵守状況の確認
2. 手指衛生遵守率向上への活動
3. 耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス、SSIサーベイランス
4. 抗菌薬の適正使用に関する介入と治療薬物モニタリング
5. 医療関連感染発生状況の把握とアウトブレイクへの緊急対応
6. 院内感染対策に関する啓発及び教育
7. 職業感染防止対策の実施
8. 院内感染対策マニュアルの作成と改訂
9. 地域医療機関や行政との連携
10. 新興感染症発生時の準備と対応

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD (感染制御医師)	2名
医師	3名
感染管理認定看護師	1名
看護師	2名
感染制御認定薬剤師	1名
臨床検査技師	1名

抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

【概要】

抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、薬剤耐性菌を発生あるいは蔓延させる原因となります。抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST) は、医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師で構成され、抗菌薬の使用を適切に管理・支援するためのチームです。ASTでは、日常的に主治医から抗菌薬選択や投与量設計などの相談を応需し、週1回チームミーティングで症例検討を行い、継続的な介入支援を行っています。個々の患者に対して主治医が抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くことと同時に、副作用や耐性菌の出現などの有害事象を出来るだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了出来るように、診療科の枠を超えた支援を行っています。

役割

1. 特定抗菌薬使用症例や血液培養陽性症例などに対して感染早期からモニタリングを実施する。
2. 感染早期モニタリング対象患者を把握後、ASTミーティングを実施し、以下の項目について治療方針への活用状況を継続的に評価し、診療録に記載するなど、必要に応じて主治医にフィードバックする。
 - ① 抗菌薬の選択、PK・PDに基づいた用法・用量の適切性
 - ② 適切な微生物検査・血液検査・画像検査の実施状況
 - ③ 治療薬物モニタリングの実施
3. 適切な検体採取と培養検査の提出やアンチバイオグラムの作成など、微生物検査・臨床検査が適正に利用可能な体制を整備する。
4. 抗菌薬使用状況や血液培養複数セット提出率などのプロセス指標及び耐性菌発生率や抗菌薬使用量などのアウトカム指標を定期的に評価する。
5. 定期的にAST活動状況とプロセス指標およびアウトカム指標について感染対策委員会に報告する。
6. 抗菌薬適正使用を推進するための研修会を開催し、抗菌薬マニュアルの作成や改訂を行う。
7. 採用されている抗菌薬の種類、用量などについて定期的に見直しを行う。
8. 他施設から抗菌薬適正使用の推進に関する相談対応を行う。

【活動内容】

ミーティング (症例検討) : 週1回
A S T 研 修 : 年2回
A S T 活 動 報 告 : 月1回
感染症診療相談業務 : 随時

【スタッフ紹介】

人員構成

ICD (感染制御医師)	1名
感染制御認定薬剤師	1名
薬剤師	1名
感染管理認定看護師	1名
臨床検査技師	1名

褥瘡対策チーム (スキンケアチーム)

【概要】

医師を始め多職種のメンバーで月に1回スキンケア委員会を開催し、新規褥瘡発生の低減、発生防止に向けての振り返りと対策を行っています。また、週1回褥瘡保有患者に対し、スキンケア委員が中心となり褥瘡回診を行っています。褥瘡発生リスクの高い患者さんは、各病棟のリンクナースを中心に、使用マットの選択やポジショニング、栄養改善などの予防対策を実施しています。

役割

1. 全ての入院患者に対する褥瘡対策評価
2. 褥瘡発症リスクのある患者の治療計画
3. 褥瘡の治療やケア、ポジショニングへの助言
4. 褥瘡発生状況の把握・分析
5. 褥瘡予防対策用具の検討
6. ケアに関する知識・技術の習得と啓発

【活動内容】

褥瘡回診 : 週1回 (水曜日)
会 議 : 月1回 (第2月曜日)

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師	1名
薬剤師	1名
理学療法士	2名
看護師	11名
管理栄養士	1名

整形外科チーム

【概要】

医師、看護師、リハビリテーションスタッフが専門知識を生かし、様々な治療・退院支援を検討し提案を行っています。令和6年度は、看護部・リハビリテーション部と協働で、術後腓骨神経麻痺の予防や、脊椎圧迫骨折後の装具療法が円滑に行えるために、病態理解のための研修、コルセット装着の実技練習、職員向け掲示物作成などの活動を実施しました。今後も2次の合併症の予防に取り組んでいきます。

役割

1. 術後管理の確認と指導・提言
2. リハビリテーションと病棟ADLの進行状況を医師と共有し、治療方針の立案
3. 退院に向けた方針の確認と検討
4. 早期退院や社会復帰を助ける

【活動内容】

カンファレンス : 週1回 (月曜日)
整形ラウンド : 術後管理の抜き打ちチェック (月1回)

【スタッフ紹介】

人員構成

医師	3名
看護師	8名
理学療法士	8名

緩和ケアチーム

【概要】

当チームは、認定看護師、薬剤師を中心にがん患者だけでなく非がん患者も含めた終末期の疼痛、呼吸苦、消化器症状などの臨床症状や精神症状の苦痛緩和への助言や提案を行っています。その他、患者さんご家族が自分らしい生活を送れるように自宅などへの退院サポートを支援しています。また、がんリハビリテーションにも力を入れ、患者さんのADLの維持や向上を目指しています。つねに、多職種で関与することを意識して様々な視点から患者さんをサポートするように努めています。さらに、チームでは、緩和ケアに関する知識向上やより薬物療法を理解してもらえようというアプリを構築し、病棟スタッフなどに利用してもらうことで「誰でも緩和ケア」に触れる機会を作れるようにしています。

【役割】

1. 身体的苦痛の緩和
2. 精神的苦痛の緩和
3. 社会的苦痛の緩和

【活動内容】

チームカンファレンス：緊急時適宜
定期カンファレンス：月1回
がんリハビリテーションとの連携

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師	1名
薬剤師	2名
緩和ケア認定看護師	1名
看護師	6名
理学療法士	1名
作業療法士	1名
公認心理師	1名

がんのリハビリテーションチーム

【概要】

がん治療の早期から患者さんの身体的、精神的な症状に対して積極的に介入し、早期退院やより質の高い生活が送れるように関わっています。カンファレンスや病棟にて、情報共有を多職種間で行い、患者さんや家族の苦痛・不安に対して、連携を取りながら迅速に対応しております。令和6年度は、オピオイドカンファレンスを開始し、患者さんが安全安心に生活が送れるよう取り組んでおります。

【役割】

1. 苦痛、不安の早期発見
2. 苦痛、不安に対する改善策の提案
3. 早期退院や社会復帰を促す（患者さんに適したリハビリテーションの介入）
4. 新しい知識の取得（研修会参加、専門資格取得）
5. 多職種による患者さんの状態把握、情報共有

【活動内容】

カンファレンス：月1回（第3火曜日）
オピオイドカンファレンス：適宜

【スタッフ紹介】

人員構成

外科医師	3名
緩和ケア認定薬剤師	1名
緩和ケア認定看護師	1名
看護師	5名
医療ソーシャルワーカー	1名
理学療法士	6名
作業療法士	2名
言語聴覚士	3名
公認心理士	1名

心不全チーム

【概要】

心不全チームでは、心大血管疾患の患者さんにおいて、多職種による総合的なチームケアを行います。入院時から回復の支援を図るとともに、退院後の在宅生活における再入院予防の指導まで行います。週1回の回診やカンファレンスを行い、よりよいケアが提供できるように活動しています。令和6年度は、作業療法士1名が心不全療養指導士を取得し、薬剤師と併せて2名の心不全療養指導士となりました。今後も心不全診療の質を高められるようチーム活動を推進していきます。

【役割】

1. 安全で有効な運動の設定を検討していきます
2. 再発予防に向けて、生活習慣の指導、栄養指導、服薬指導を検討していきます
3. 院内研修を行い、知識の習得を図ります

【活動内容】

回診：週1回（水曜日）
カンファレンス：月1回
院内研修会：年1～2回

【スタッフ紹介】

人員構成

循環器内科医師	2名
薬剤師	2名
看護師	7名
管理栄養士	1名
理学療法士	4名
作業療法士	2名

呼吸ケアサポートチーム（RST）

【概要】

呼吸器疾患が原因で入院された患者さんに対し、呼吸ケア・機材管理・ポジショニング・日常生活動作等について多職種で情報交換しより良いケアが提供できるように活動しています。令和4年に日本呼吸ケア・リハビリテーション学会および日本呼吸療法医学会の呼吸ケアサポートチーム（RST）施設に認定されました。令和6年度は呼吸療法認定士をさらに2名輩出し、より専門的な知識でチーム介入が出来るよう研鑽していきます。

【役割】

1. 人工呼吸器装着患者様の人工呼吸器離脱の促進、人工呼吸器装着期間の短縮を図る
2. 呼吸ケアを必要とする患者さんの医療事故の予防を図る
3. 院内外での呼吸ケアの普及や啓発を図る
4. 呼吸ケアに必要な器材の導入・管理の標準化を図る
5. 医療の経済的な改善（コストの軽減）を図る
6. 在宅復帰にむけた動作指導・機材選定の提案

【活動内容】

回診：週1回（火曜日）

【スタッフ紹介】

人員構成

呼吸器内科医師	1名
看護師	6名
臨床工学技士	1名
理学療法士	5名
作業療法士	2名

糖尿病チーム

【概要】

糖尿病患者の日常的な療養生活のサポートを行い、合併症（糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症）などによる、しびれや神経痛、失明、腎不全や透析などの重症化を予防します。糖尿病に関する正しい知識の普及と啓発、糖尿病治療中の方の療養のサポートなどに関して、多職種のスタッフがそれぞれの専門知識を活かし協力しながら活動しています。専門医、糖尿病療養指導士（看護師、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士）、鳥取県糖尿病療養指導士（理学療法士、管理栄養士）が専門的知識を活かして連携し、糖尿病患者の日常的な療養生活のサポートを行っています。また、月に1回糖尿病教室を開催し、糖尿病教育入院及び外来患者へのケア向上に努めています。

役割

年2回患者さんとスタッフのふれあいの場である博愛ウオーキングを開催しています。
また、患者さん向けの情報発信として「かえて通信」を発行しています。
〈専門医〉治療方針を計画し、治療を遂行する為の援助とともに、日常生活の習慣を変えるための動機付けなどを行います。
〈看護師〉入院・外来患者に対し、インスリン注射指導、生活全般に関する療養指導などを行います。
〈管理栄養士〉個々の患者に合わせた栄養指導を行います。
〈理学療法士〉耐糖能向上のための運動療法を指導し、身体状況に合わせた生活指導を行います。
〈薬剤師〉薬学的観点から患者を援助するだけでなく、生活全般について適切な情報を提供します。
〈臨床検査技師〉糖尿病教室では検査値の見方を説明しアドヒアランス向上に努めます。また、血糖測定器の使用方法を解説し、トラブルにも対応しています。

【活動内容】

カンファレンス：
2月に1回（偶数月第4水曜日）
糖尿病教室：
1回／月（6日間）
かえて通信発行：年6回
博愛ウオーキング：年2回
院内研修会：年1回

【スタッフ紹介】

人員構成	認定資格
医師 …………… 2名	日本糖尿病療養指導士 …… 6名
看護師 …………… 2名	鳥取県糖尿病療養指導士 …… 4名
薬剤師 …………… 1名	鳥根県糖尿病療養指導士 …… 1名
臨床検査技師 …… 2名	
管理栄養士 …… 1名	
理学療法士 …… 2名	
作業療法士 …… 1名	

栄養サポートチーム(NST)

【概要】

入院当初から、個々の患者さんの体格や病態に合わせた栄養療法を実施することで、栄養状態を改善し、疾患の治療効果を上げ、合併症の予防やQOL（生活の質）を向上させるのが目的です。これにより在院日数を短縮し、医療費を削減することも期待されます。
専門知識や技術を持った多職種（医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、検査技師）が、各々の専門性を活かしながら、職種間の垣根を越えたチームで入院患者の栄養管理にあたります。
当院のNSTは、一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働 認定施設として承認されています。

役割

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 栄養不良患者の早期発見 | 4. 栄養状態の改善による治療促進 |
| 2. 個々の患者の適切な栄養管理状況の確認 | 5. 栄養管理上の相談応需 |
| 3. 最もふさわしい栄養管理法を指導・提言 | 6. 合併症の予防や、医療費の削減 |
| | 7. 早期退院や社会復帰を助ける |

【活動内容】

回 診：週1回（火曜日）
会 議：月1回（第4火曜日）
院内研修会：年1～2回

【スタッフ紹介】

人員構成

医師 ……………	4名
薬剤師 ……………	2名
臨床検査技師 ……	1名
看護師 ……………	7名
管理栄養士 ……………	3名
言語聴覚士 ……………	2名
理学療法士 ……………	1名

認定資格

TNT研修会受講修了（内科医師）	3名
NST専門療法士 ……………	2名
NST専門療法士実地修練研修修了	4名

モニターアラームコントロールチーム(MACT)

【概要】

医療現場では、生体情報モニターのアラームが日常的に発生しており、その多くは臨床的に緊急性が低いものです。これによりスタッフのアラーム疲労や緊急性の高いアラームの見逃しにつながるおそれがあります。こうした課題を解決するため、令和6年4月に当チームが設置されました。不要なアラーム削減を通じて、患者さんの安全確保とスタッフの負担軽減を目指して活動しています。

役割

1. 不必要なアラームの削減
2. 患者さんの安全確保
3. スタッフの業務負担軽減
4. アラーム発生状況の分析、改善
5. スタッフ教育、啓発活動

【活動内容】

回 診：週1回（水）
会 議：月1回（第3月曜日）
アラーム集計：週1回（水）
院内研修会：年1回

【スタッフ紹介】

人員構成

循環器内科医師 ……	2名
GRM看護師 ……………	1名
看護師 ……………	4名
臨床検査技師 ……	1名
作業療法士 ……………	1名
臨床工学技士 ……	3名

思い・願い・祈り（織部灯籠～キリシタン灯籠～の出現）

社会医療法人同愛会理事長 石部 裕一

1995年1月17日 午前5時46分、阪神淡路大震災が発生し、大切なものが数多く奪われたあの日から、今日30年を迎えました。尊い6,400名以上の方の命が犠牲となり、51万棟以上の建物が被害を受けるなど未曾有の災害の中、復興の力となったものは、『思い・願い・祈り』であったと思います。



昨年末、博愛病院横の県道の改良工事が終わり、新しい道が開通しました。道路予定地であった博愛病院の一部敷地では貯水槽が移設されることになりました。新たな場所は、かつての汚水処理槽の跡地でした。そこには、ひっそりと灯籠が佇んでいました。高さは約1.5メートル。周囲の喧騒の中で、ほとんど目に留まることもない状況でしたが、まるで博愛病院を守ってくれているかのような歴史を感じる

存在でした。ふと、その由来が気になり、Webで調べ始めました。当法人の職員にも情報を求めたところ、思いがけず多くの情報が寄せられ、この灯籠は織部灯籠、あるいはキリシタン灯籠と呼ばれているものであることが分かりました。

桃山時代、茶の湯の興隆とともに、露地の明かりとして石灯籠が使われるようになり、茶人好みの灯籠が新たに考案されました。その代表的なものが、古田織部正重然（1544～1615）が考案したとされる織部灯籠です。それは花崗岩で作られた灯籠で、台座（基礎）、棹（竿）、中台、火袋、笠、宝珠（擬宝珠）の6部から成ります。古田がこの形態を創造した理由は不明ですが、竿石には十字模様や像が刻まれ、これをキリストの像として見立てられ、別名キリシタン灯籠として崇拝されるようになったそうです。大正末期から昭和初期にかけて、研究者や郷土史家の間でキリシタン遺物の研究熱が高まり、織部灯籠の一部をキリシタン灯籠と呼ぶようになったとのこと（資料1）（資料2）。現在、キリシタン灯籠は日本全国に百数十基存在すると言われています（資料3）。しかし、この説を否定する論文もあることを忘れてはいけません（資料4）。

鳥取県文化財ナビでキリシタン灯籠を検索すると、鳥取市上町観音院や栗谷町興禅寺、さらに西町二丁目松田邸前庭、気高町酒津東昌寺にあるキリシタン灯籠（有形文化財指定昭和32年4月16日）が紹介されています。その説明文には、江戸時代、潜伏キリシタンが礼拝したとされる花崗岩製の灯籠で、6部から成り立っているとあります。しかし、この灯籠は棹石だけを残したものだと考えられています。縦長の部分には彫り込みがあり、合掌する、一見キリスト教の聖者を思わせる像が浮き彫りにされています。また、興禅寺や個人宅に所蔵されているものには、上部にラテン文字の組み合わせが刻まれているそうです。

さて、博愛病院の灯籠は、伝えられるところによれば、かつて病院が米子市内にあった頃から存在しており、病院の移転に伴って移設されたようです。以前を知る職員からは、病院で亡くなった身内を偲んで、患者の家族から寄贈されたという噂が漏れ聞かれておりますが、詳細は不明です。また、これがオリジナルの織部焼なのか、あるいはそれを模倣して最近作られたものなのかも定かではありません。しかし、台座、棹、中台、火袋、笠、宝珠の6部は全て揃い、竿石の十字架の中央に刻まれた文様も鮮明に残っています。この意味にはさまざまな解釈があり、90度左に回転すると「Lhq」となります。これをヘブライ語に直すと「pti」となり、「patri」の略で「父なる神」を意味するようです（資料5）。



旧博愛病院（米子市両三柳）中庭



この度、広く病院でお亡くなりになった方への慰霊の意を込めて、玄関前のロータリーに移設しましたので、興味関心のある方はぜひご覧ください。また、この灯籠についての情報をお持ちの方は、博愛病院までお寄せいただけると幸いです。

『思い・願い・祈り』 それは、時間が経過しても、時代が変わっても、私たち人類のもつ「博愛」の精神であると感じます。

【参考資料】

資料1 姫路のキリシタン遺跡の調査研究Ⅲ 姫路の「キリシタン灯籠」池田武弘 姫路日ノ本短期大学 播磨キリスト教文化センター p39-p45
https://himeji-hc.sakura.ne.jp/information/journal_of_studies/41ikedad.pdf

資料2 日本の古本屋 切支丹灯籠の研究（松田重雄 著） / 智新堂書店 / 古本
https://www.kosho.or.jp/products/detail.php?product_id=52266671

資料3 Amebaブログ 気楽堂だより キリシタン灯籠
<https://ameblo.jp/kisokyoku459/entry-12518249512.html>

資料4 広島修大論集 織部灯籠 ―「キリシタン灯籠」の遺品は存在しない― 第40巻第2号（人文）p49-p113 松本真
<https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&opi=89978449&url=https://shudo-u.repo.nii.ac.jp/record/657/files/KJ00004138638.pdf&ved=2ahUKUkwj056bt7WJAxU3ja8BHboba9lQFnoECBMQAQ&usq=A0vVaw2rSwK0jAF7QZC0tKW6ZPLc>

資料5 懐石椿亭（富山市）公式ブログ 茶庭の織部灯籠に隠された奇妙な文字
<https://tsubakiteihonten.exblog.jp/26608370/>



参考資料は
当院ホームページ
からご確認ください。

ふくよね博愛クリニック

【概 要】

名 称	ふくよね博愛クリニック 院長 櫃田豊
所在地	〒683-0802 鳥取県米子市東福原7丁目10-3 TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676
創 立	令和4年4月1日
診療科	内科、総合診療内科、呼吸器内科、糖尿病内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科
専門外来	糖尿病外来、呼吸器外来
職員数	6名



【令和6年度の主な出来事】

年 月 日	事 項
令和6年 4月 4日	第3回健康教室「血管の老化(動脈硬化)の予防 ～運動を習慣化しよう!～」吾郷秀吉(理学療法士)
6月 27日	第4回健康教室「知っておきたい「くすり」の話 ～大切な薬と上手に付き合うために～」中山 卓(薬剤師)
9月 26日	第5回健康教室「自宅でもできる肩こり対策」桑村龍司(理学療法士)
10月 1日	診療体制の変更 ①診療日：土曜日午前診療は休診 木曜日午後診療を開始 ②担当医：櫃田／火・木 竹内／月・金 富田／水 ③訪問診療：櫃田/月・水・金

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 一般診療の充実
2. 在宅医療への貢献
3. 予防医療の推進

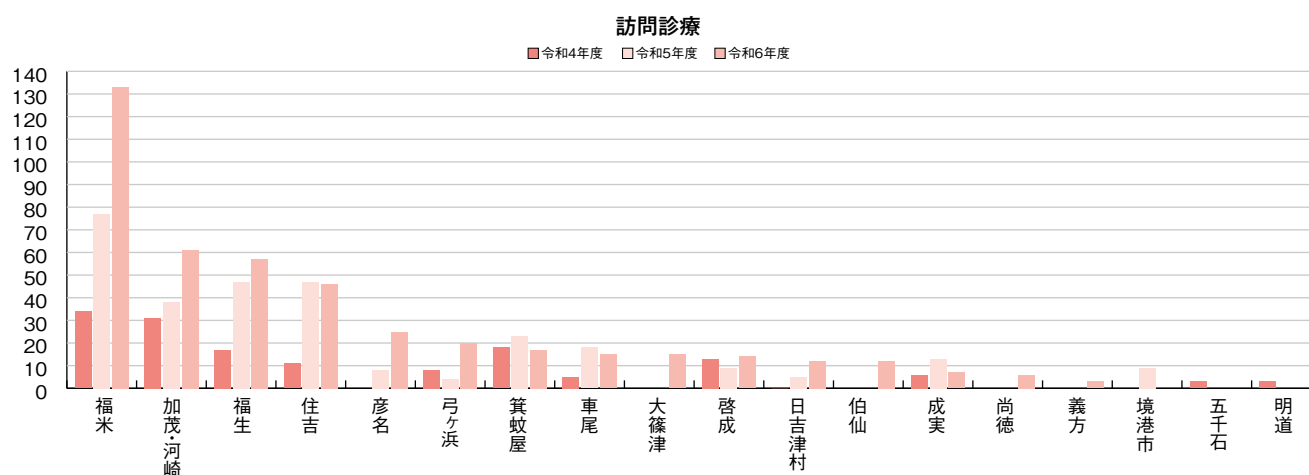
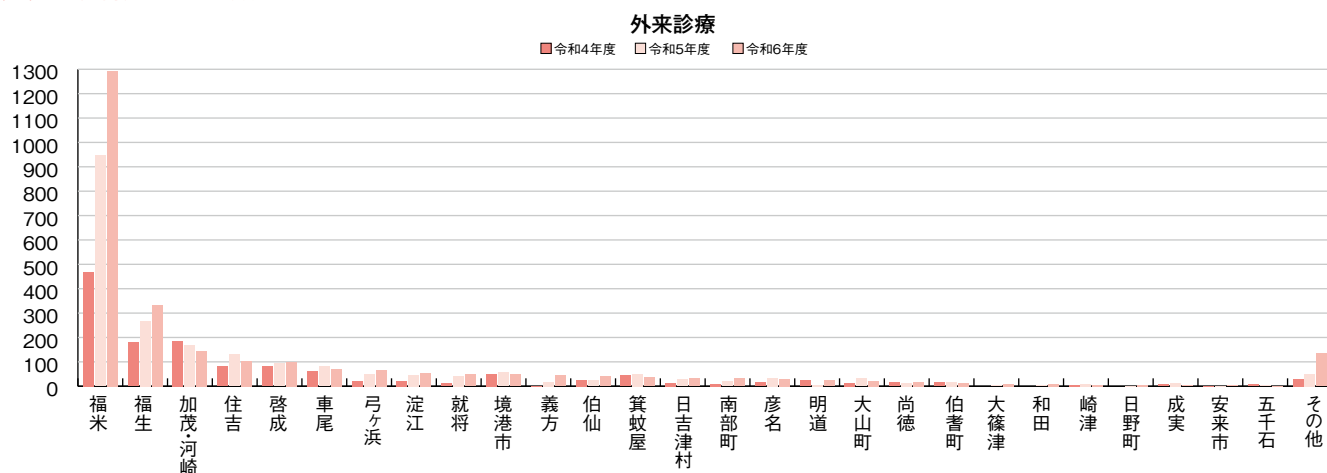
令和7年度

1. 一般診療の充実
2. 在宅医療への貢献
3. 予防医療の推進

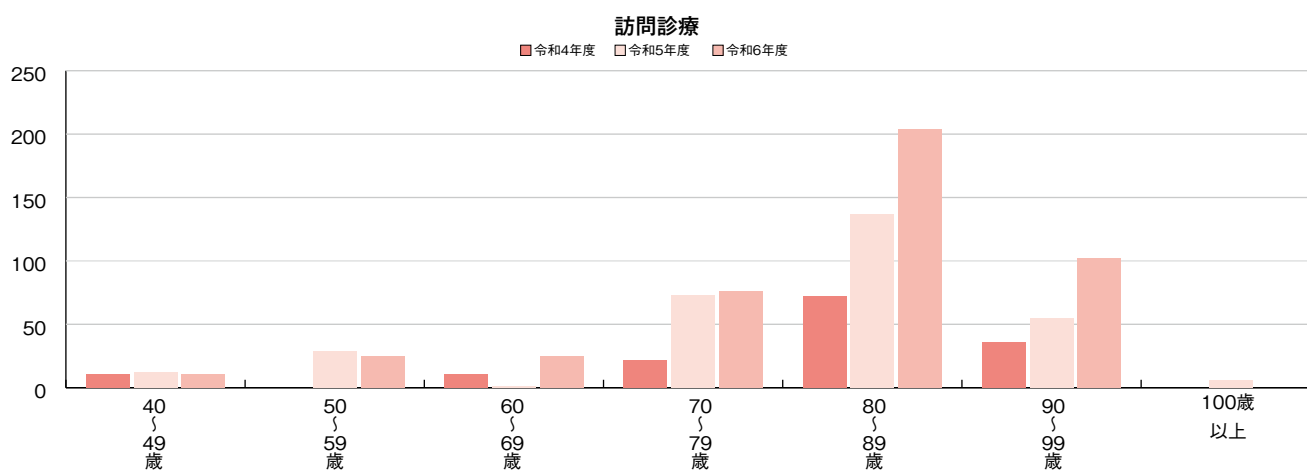
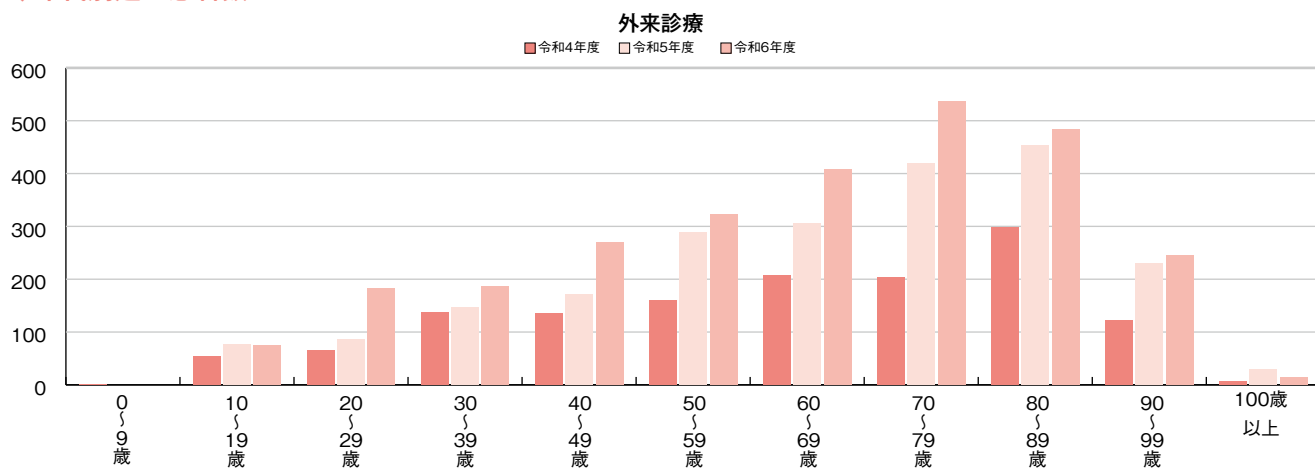
【実 績】

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者数	総合診療	1,236	1,628	2,025
	糖尿病	71	224	654
	消化器	37	55	43
	循環器	—	89	40
	計	1,344	1,996	2,762
訪問診療・往診件数	訪問診療	157	363	462
	往診	57	95	98
	計	214	458	560
予防接種・健診件数	予防接種	279	821	286
	健診	77	175	166
	計	356	996	452
合計		1,914	3,450	3,774

(1) 地域別延べ患者数



(2) 年代別延べ患者数



【スタッフ紹介】

責任者

院長／櫃田豊

人員構成

医師 …… 3名
(うち非常勤2名)
看護師 …… 2名
事務員 …… 1名

認定資格

日本内科学会総合内科専門医 …… 1人
日本内科学会認定内科医 …… 2人
日本糖尿病学会専門医・指導医 …… 1人
日本呼吸器学会専門医・指導医 …… 2人
日本アレルギー学会専門医・指導医 …… 1人
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 …… 1人
日本感染症学会ICD制度協議会認定医 …… 2人

【医師紹介】



Hitsuda Yutaka
院長 櫃田 豊(鳥取大学 昭和55年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
(認定内科医・内科指導医・中国地方会評議員)
- ◆日本呼吸器学会
(専門医・指導医・中国四国地方会評議員)
- ◆日本プライマリ・ケア連合学会(認定医・指導医)
- ◆日本感染症学会(ICD制度協議会認定医)
- ◆山陰救急医学会(評議員)
- ◆日本癌学会
- ◆日本糖尿病学会
- ◆日本禁煙学会
- ◆日本医療マネジメント学会

博愛病院

糖尿病・内分泌内科部長

竹内 龍男 …… 糖尿病・内分泌内科 (P21) 参照

博愛病院

アレルギー疾患内科部長

富田 桂公 …… アレルギー疾患内科 (P20) 参照

【診療担当表】令和7年4月1日～

診療内科	受付時間	月	火	水	木	金
一般診療(午前)	9:00～12:00	竹内	櫃田	富田	櫃田	竹内
一般診療(午後)	15:00～19:00	竹内	櫃田	富田	櫃田	竹内
訪問診療(午前)	11:00～12:00	櫃田	—	櫃田	—	櫃田
訪問診療(午後)	15:00～17:00	櫃田	—	櫃田	—	櫃田

休診日／土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

開院後3年が経過し、患者さんの数も徐々に増えてきました。多くのクリニックが存在するこの地域にあって、当院も一定の役割を果たし始めていると感じています。

当院では、昨年10月から専門外来を閉鎖し、総合診療内科として診療することにいたしました。変更した理由は、患者さんの多くが複数の疾患の医学的管理を必要とする高齢者であること、地域包括ケアを実践するためには領域を問わない「総合的な」対応が求められること、などです。今後、博愛病院のサテライト・クリニックとしての利点を生かしながら、特定の臓器や疾患に限定しない、より多角的な診療を提供して行きたいと考えています。

開院以来継続している訪問診療については、3年間で90人近くの患者さんに利用していただきました。最近の訪問回数は月40件程度です。博愛病院の在宅医療センターと連携して往診や看取り、入院対応を行う体制としています。

博愛こども発達・在宅支援クリニック

【概 要】

名 称	博愛こども発達・在宅支援クリニック 院長 玉崎章子
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880 TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020
創 立	平成31年4月
病床数	5床
診療科	脳神経小児科、小児科
事業内容	障害福祉サービス事業: 多機能型事業所(児童発達支援・放課後等デイサービス) 定員10名 医療型短期入所 空床利用 委託事業: 鳥取県医療的ケア児等支援センター 小児慢性特定疾病療養生活支援事業・ピアサポーター活動支援事業 地域子ども・子育て支援事業 病児保育かるがも 定員9名
職員数	17名



【令和6年度の主な出来事】

年	月	日	事	項
令和6年	9月	16日	保護者交流会～ピアサポートを体験しよう～	
	9月	17日		
	～9月	20日	多機能型事業所 保護者参観週間	
	10月	4日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修①	
	10月	5日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修②	
	10月	20日	デジリハ体験会(米子会場)	
	11月	15日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修③	
	11月	16日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修④	
	12月	25日	マイトリーの歌遊び	
令和7年	1月	6日	博愛病院小児リハビリとクリニック小児リハビリと統合	
	1月	18日	デジリハ体験会(鳥取会場)	
	1月	31日	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修①	
	2月	1日	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修②	
	2月	25日		
	～2月	27日	多機能型事業所 保護者参観週間	

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 多職種連携実践ができるチームの形成
3. 患者(利用者)から信頼される医療と福祉の提供
4. 医療的ケア児等支援センター機能の充実

令和7年度

1. 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供
2. 保護者支援の充実
3. 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進
4. 地域からの相談対応と人材育成協力

【実績】

単位(件)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
脳神経小児科外来患者数(初診)	1,802 (165)	1,960 (201)	1,733 (156)
小児科外来患者数(初診)	3,027 (199)	4,075 (317)	3,520 (180)
在宅診療	937	1,005	1,176
予防接種	1,318	942	684
児童発達支援	392	336	393
放課後等デイサービス	31	50	87
医療型短期入所	726	859	711
病児保育	373	801	758
外来リハビリテーション	917	916	1,121
訪問リハビリテーション	409	436	539
心理発達検査	50	64	79
カウンセリング	147	129	202

医療サービス

(1) 脳神経小児科

発達の遅れ、子育てのしにくさ、就園や就学、不登校に関する相談が多い。
初診患者数 令和4年度 165人 令和5年度 201人 令和6年度 156人
新規患者数は、1年間を通してひと月あたり13人だった。
令和6年10月から、ホームページに初診受付フォームを開設し、家族から問い合わせしやすい体制を整えている。
令和7年1月には、博愛病院の小児リハビリテーション部門を博愛こども発達・在宅支援クリニックへ統合した。発達障がい児への作業療法、言語療法を引き続き提供するとともに、リハビリスタッフと小児神経科医、公認心理師との連携がとりやすくなったことで、より良い支援を提供できるようになった。



(2) 小児科

令和6年度は、令和5年度と比較して受診者数が減少した。感染症流行の程度と近隣の医療機関の状況に実績が影響されている。当クリニックに初めて受診された患者の数は、ひと月当たり15人だった。今後も病児保育が併設されていることを強みにして、サービスを提供していく。



障害福祉サービス

(1) 児童発達支援

未就学の重症心身障がい児・医療的ケア児を日中お預かりし、成長発達を促すための活動や訓練等を行っている。児童発達支援管理者をはじめ、看護師、保育士、理学療法士を配置し、ひとりひとりの成長に合わせ集団療育や遊びを行い、家族支援も行っている。



(2) 放課後デイサービス事業

就学中(小学～高校)の重症心身障がい児・医療的ケア児を学校終了後および長期休暇中にお預かりし、療育的な関わり方や生活訓練等を行う。

(3) 医療型短期入所

医療機関を併設した、重症心身障がい児者・医療的ケア児を一時的に預かる事業。充実した在宅生活を送れるよう、家族や関係機関等と協働し、健康管理や入浴、食事、交流活動等のサービス提供を行っている。

地域子ども・子育て支援事業

病児保育かるがも

お子さまが病氣中、または病氣回復中に仕事の都合などで家庭での保育が難しいときに利用していただいている。病児保育のニーズは高く、病児保育新規利用登録者数は、ひと月あたり8人だった。令和6年度は、保護者向けに「病児保育かるがもだより」を作成し、感染症への理解と家庭でできるケアについて情報提供を行った。

対象児

以下すべての条件を満たすお子さま

- (1) 生後6週間から小学校6年生までの方
(市町村によって異なります)
- (2) 米子市、境港市、日吉津村、大山町、伯耆町、南部町、江府町、日野町、日南町に住民票のある方
- (3) 病氣中(病児)・病氣回復期(病後児)にあり、集団保育などが困難な方

利用日	月曜～金曜(土・日・祝日・年末年始休み)
利用時間	利用時間平日 8:30～17:30
定員	9名
利用料金	利用料金1日あたり2,500円 (給食・おやつ・ミルク代を含む) ※利用料金は、各市町村で異なる場合があります。 詳細は各市町村へお問い合わせください。

1日のながれ

入室後	書類の確認、検温
10:00頃	水分補給、おやつ
12:00頃	検温、昼食、与薬
12:30頃	お昼寝
15:00頃	検温、水分補給・おやつ ※おむつ交換は随時行います
16:00頃	医師の回診
お迎え時	閉所
17:30	※お会計を済ませてからお迎えに来てください。 お子さまの一日の様子をお話します。

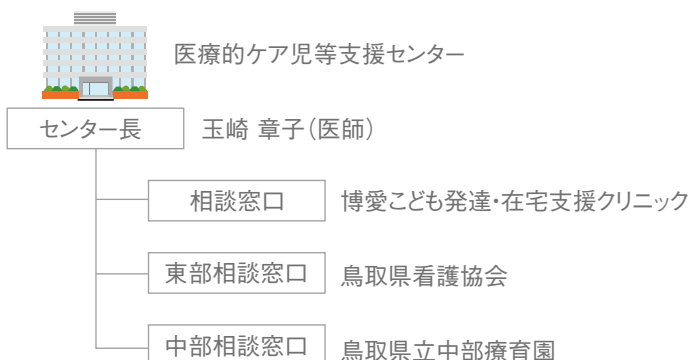


医療的ケア児及びその家族に対する支援事業

鳥取県医療的ケア児等支援センター総合相談窓口

令和4年度6月より、鳥取県の委託を受けて当院が総合窓口としてスタート。相談や地域の人材育成を目的とした研修等を行っている。令和6年度は、看護学校へ出前講義を2回実施し、小児在宅医療や発達支援における看護師の役割等について講義を行った。東部相談窓口である看護協会と協働して、医療的ケア児等コーディネーター養成研修、フォローアップ研修を実施し、地域の人材育成を毎年行っている。子どもと家族が楽しめるイベントとして、米子管弦楽団と協働で「バリアフリーコンサート」を開催、ICTを活用し、子どもたちの力を引き出すことのできるデジリハ体験会を西部と東部で1回ずつ開催した。医療的ケア児の啓発のために、米子管弦楽団定期演奏会のロビーで写真展「知ってください、医療的ケア児のこと」を開催した。

体制



総合窓口連絡先

博愛こども発達・在宅支援クリニック

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880

TEL 0859-29-8010

FAX 0859-29-8020

E-mail icare.hakuaikids@gmail.com



鳥取県医療的ケア児等支援センター



令和6年度 鳥取県医療的ケア児等コーディネーター養成研修カリキュラム

全日程を通して、動ける医療的ケア児とその家族の支援を多職種で検討します。

科目	項目
医療	障害のある子どもの成長と発達の特徴
	疾患の特徴・生理
	日常生活における支援
	口腔ケア
	緊急時の対応、災害対策
	訪問看護の仕組みと実際の活動
	虐待防止対策
総論	①地域におけるこどもの発達と支援
	②医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律
	①医療的ケア児等コーディネーターに求められる役割
	②各ライフステージにおける相談支援に必要な視点
医療・保健	母子保健
福祉・保育・教育・労働	①支援の基本的な枠組み
	②福祉
地域支援体制整備	①支援チーム作りと支援体制整備／支援チームを育てる
	②支援体制整備事例
	③医療、保健、福祉、教育、労働の連携
	④地域の資源開拓・創出の方法（資源把握、市町村、都道府県との連携）
福祉・保育・教育・労働	遊び・保育
	教育
	労働
ライフステージにおける支援	NICUからの在宅移行支援
	児童期における支援
	学童期における支援
	成人期における支援
	移行期における支援
本人・家族の思いの理解	本人・家族の思い
	家族支援（きょうだい児支援、就労支援）
	意思決定支援
	ニーズアセスメント
	ニーズの把握事例
演習・計画作成	計画作成の練習ワーク
	演習に向けた計画作成のポイント
	演習Ⅰ：事例の掘下げ
	演習Ⅱ：計画作成
	演習Ⅲ：計画の発表
	演習Ⅳ：模擬担当者会議のポイント
	演習Ⅴ：ライフステージの変化に伴う計画の再検討
演習・事例検討	演習Ⅴ：ライフステージの変化に伴う計画の再検討
	演習Ⅵ：計画作成
	演習Ⅶ：発表
	演習Ⅷ：模擬担当者会議
	演習Ⅸ：地域資源体制整備、意見交換、研修振り返り

【スタッフ紹介】

責任者

院長／玉崎 章子
小児科部長／福永 真紀

人員構成

医師……………2名
看護師……………6名
理学療法士……………2名
作業療法士……………1名
公認臨床心理師……………1名
保育士……………3名
事務員……………2名

非常勤

作業療法士
言語聴覚士
管理栄養士
公認心理師
夜間看護師

所属学会

日本小児科学会……………1名
日本小児アレルギー学会……………1名
日本小児神経学会……………1名
日本重症心身障害学会……………3名
日本作業療法士協会……………1名
日本ボース研究会……………1名
日本小児看護学会……………1名
日本小児救急医学会……………1名
日本在宅医療連合学会……………1名

認定資格(研修修了含む)※医師以外

小児救急看護認定看護師……………1名
三学会合同呼吸療法認定士……………1名
児童発達管理責任者……………2名
医療的ケア児等コーディネーター研修修了……………4名
発達障害コミュニケーション初級指導者……………1名
発達障害コミュニケーション中級指導者……………1名
ミュージックケア初級研修修了……………1名
日本ボース研究会成人片麻痺認定基礎講習会修了……………1名
重症児の在宅支援を担う医師等養成研修修了……………1名
子育て支援員……………1名

【医師紹介】



Tamasaki Akiko
院長 玉崎 章子(鳥取大学 平成14年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆日本小児神経学会認定 小児神経専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医



Fukunaga Maki
小児科部長 福永 真紀(川崎医科大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本小児科学会認定 小児科専門医
- ◆小児慢性特定疾病指定医
- ◆難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく難病指定医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

博愛こども発達・在宅支援クリニックは開院から7年目を迎えました。小さなクリニックに多職種が在籍していることが強みです。「こどもまんなか」を大切に、目の前のこどもを大切にすることはもちろん、今年度は保護者支援(ペアレントトレーニング、心理カウンセリング)を開始するとともに、引き続き地域の支援者の人材育成(鳥取県医療的ケア児等支援センター、小児慢性特定疾病ピアサポーター活動支援事業)に尽力してまいります。地域の皆様から信頼される医療福祉サービスを提供していきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

こどもたちの作品



介護老人保健施設やわらぎ



【概 要】

名 称	介護老人保健施設やわらぎ 施設長 大村宏(内科医)
所在地	〒683-0801 鳥取県米子市新開4丁目11-13 TEL(0859)31-1000(代) FAX(0859)31-1003
創 立	平成6年5月30日
定 員	入所(ショートステイ含む)77名・デイケア40名
居 室	個室5室・2人部屋5室・4人部屋13室・ユニット型個室10室
事業内容	介護保険サービス事業(介護老人保健施設:やわらぎ、通所リハビリテーション事業:デイケアやわらぎ、短期入所療養介護事業:ショートステイやわらぎ)
職員数	78人

【令和6年度の主な出来事】

年 月	事 項
令和6年	4月 花見
	5月 魚釣り、身体拘束廃止研修会
	6月 買い物ツアー、食中毒防止についての研修会、感染症の予防に関する研修会
	7月 セタレク、インシデント・アクシデント再発防止研修会、認知症研修会
	8月 納涼祭、塗り絵コンテスト、倫理および法令順守に関する研修会
	9月 敬老会、あじさいの会、接遇研修会、超強化型老健についての研修会
	10月 運動会、腰痛予防研修会
	11月 作品展、防災訓練
	12月 クリスマス会、あじさいの会、口腔ケア研修会、看取り研修会
令和7年	1月 新年会、プライバシー保護(個人情報)に関する研修会、口腔機能研修
	2月 節分・豆まき、救急時の対応に関する研修会、非常災害時の対応研修会
	3月 ひな祭りレク、介護教室、防災訓練、虐待防止に関する研修会、活動報告会



目標(BSC重点施策)

令和6年度

- 1. 2024年度介護報酬改定に伴う経営戦略の立案と実践
- 2. 利用者1人1人の個性に対応し、安全性の高い援助の提供
- 3. 「働き方改革」を見据えた職場環境の整備
- 4. 地域社会及び関連施設との連携を強める

令和7年度

- 1. 赤字経営からの脱却
- 2. 「働き方改革」を見据えたやりがいのある職場の追求
- 3. 利用者の個性に合わせたサービスの提供
- 4. 関連事業所や地域住民との連携強化
- 5. 人材育成

【実績】

介護老人保健施設やわらぎ

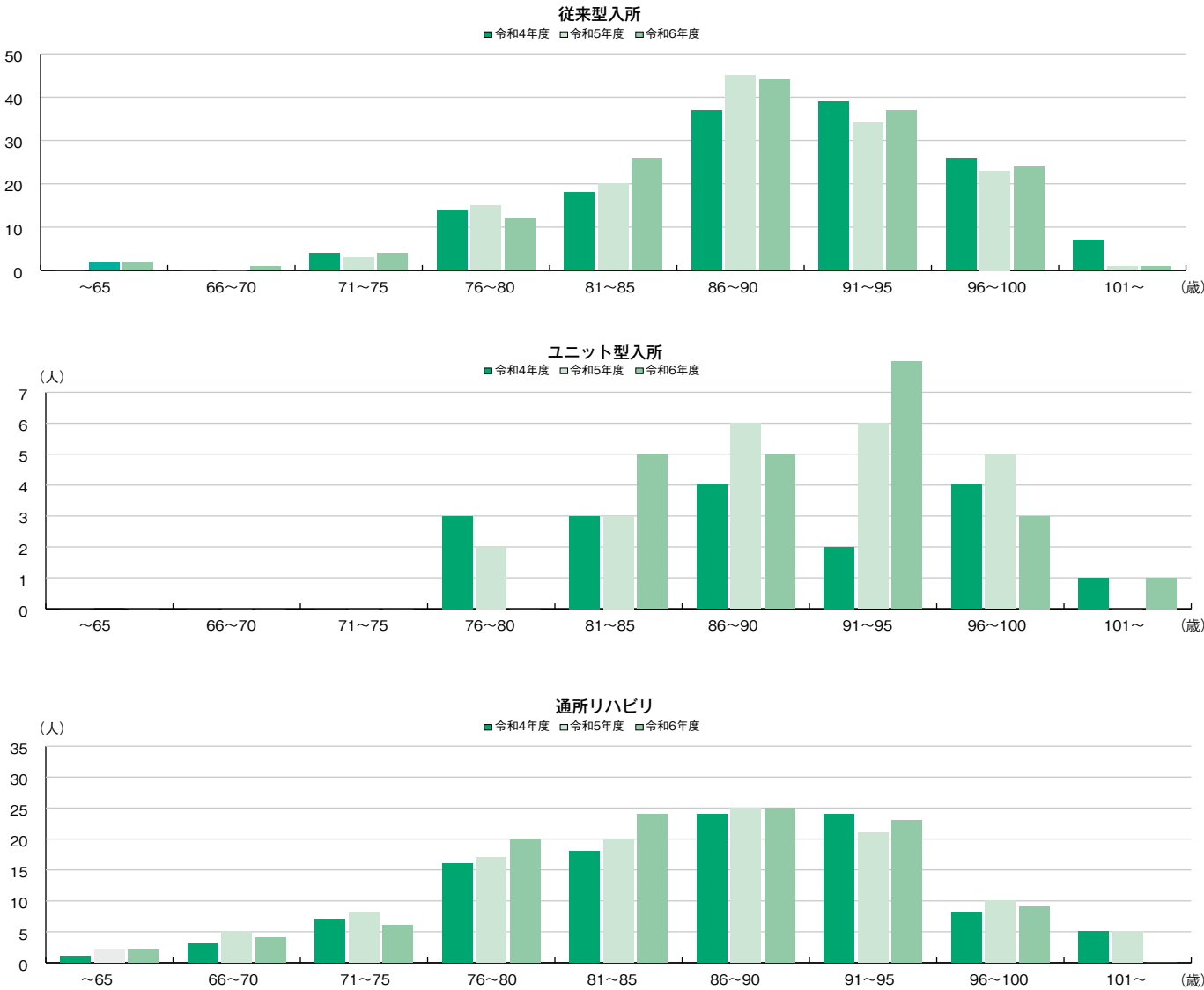
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用延べ人数	26,050	25,032	25,181
平均利用者数(人/月)	71.4	68.4	69.0
平均要介護度	3.3	3.3	3.1
新規入所者数	81	87	90
再入所者数	57	49	50
退所者数	121	140	144

デイケアやわらぎ

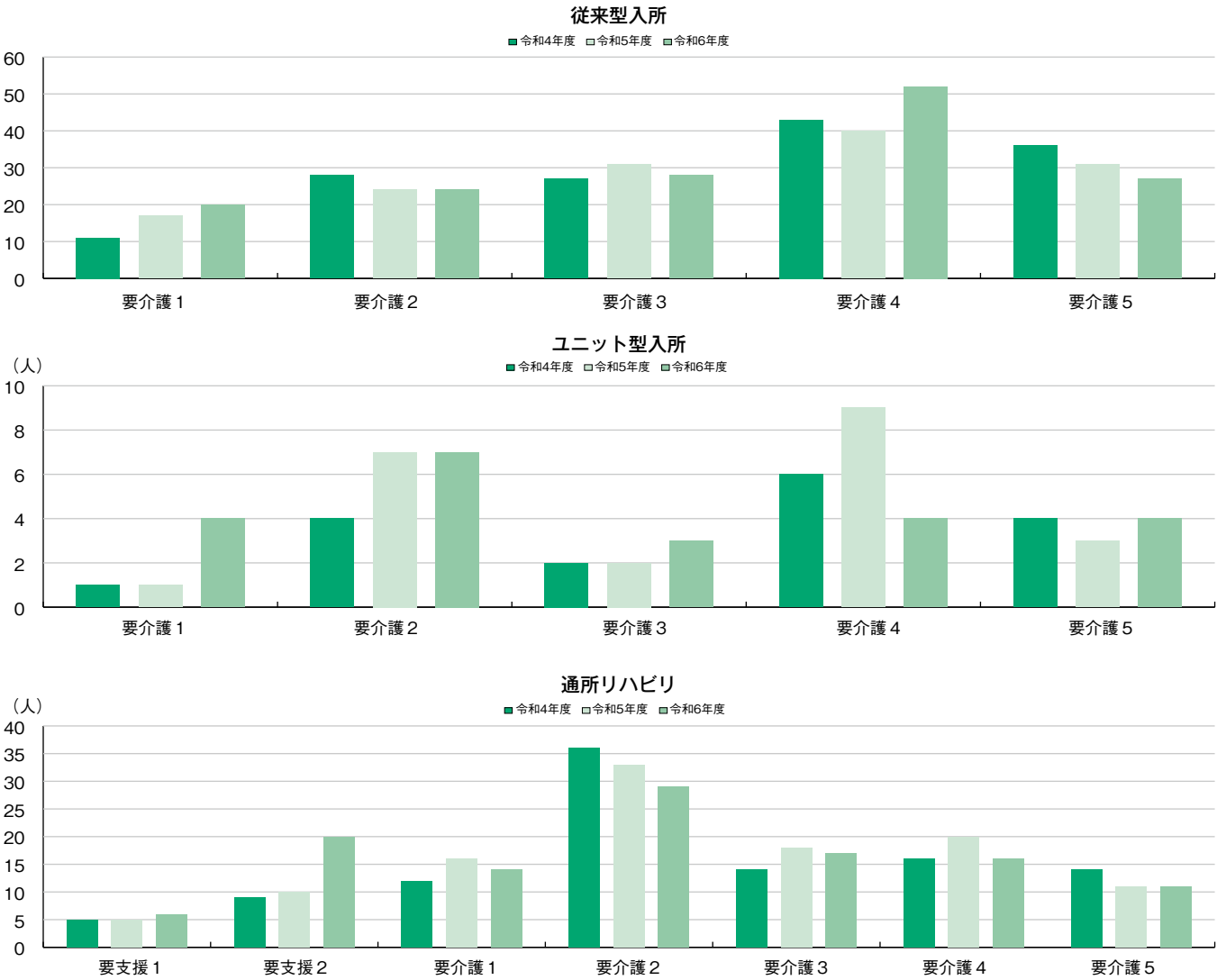
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用延べ人数	6,197	7,431	7,177
稼働日数	282	267	258
平均利用者数(人/日)	22.0	27.8	27.8
平均要介護度	2.5	2.4	2.3
開始利用者数	36	54	40

入所および通所リハビリ利用者状況

(1) 年齢の分布

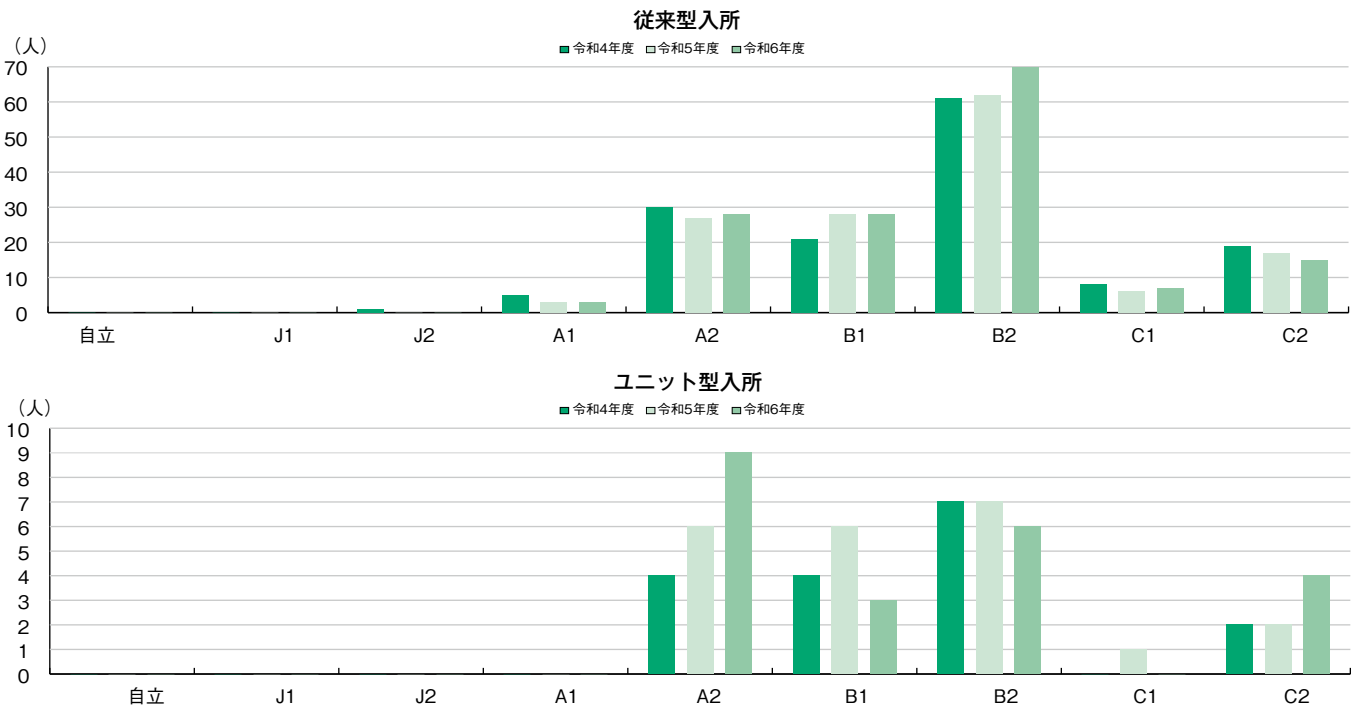


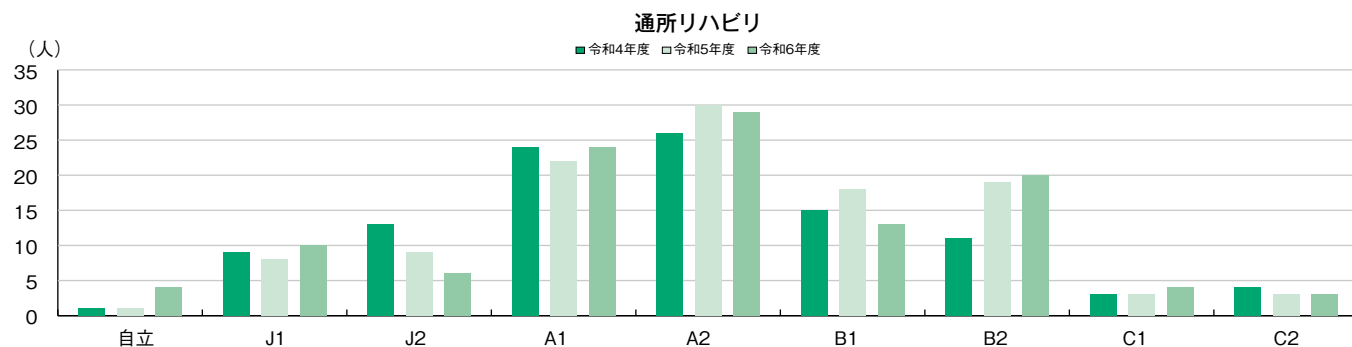
(2) 要介護度の分布



(3) 寝たきり度の分布

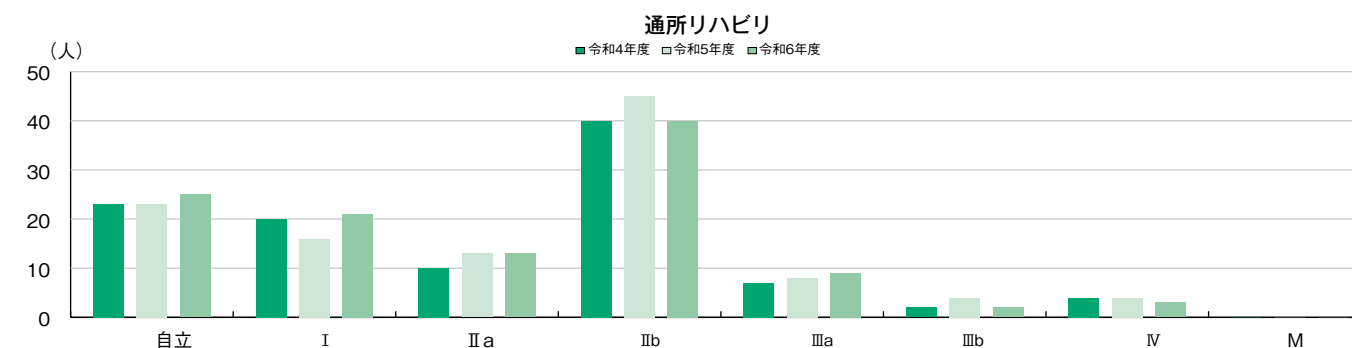
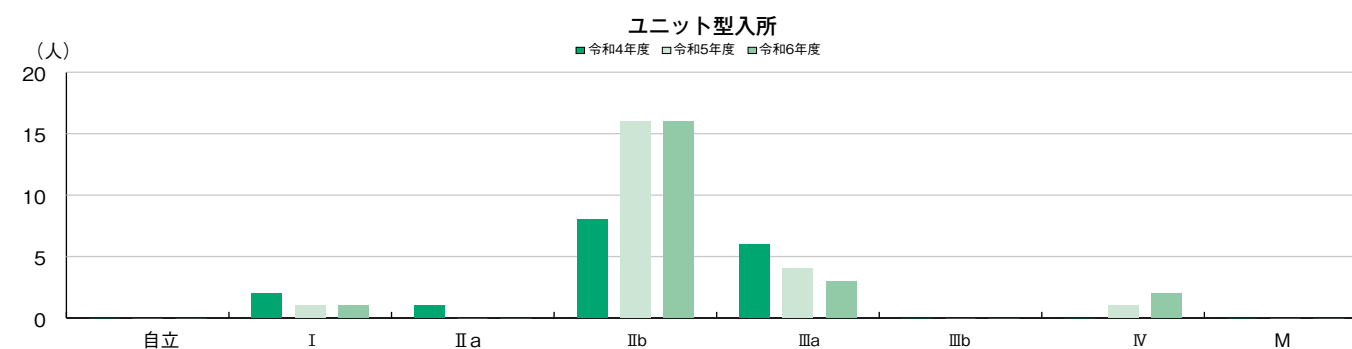
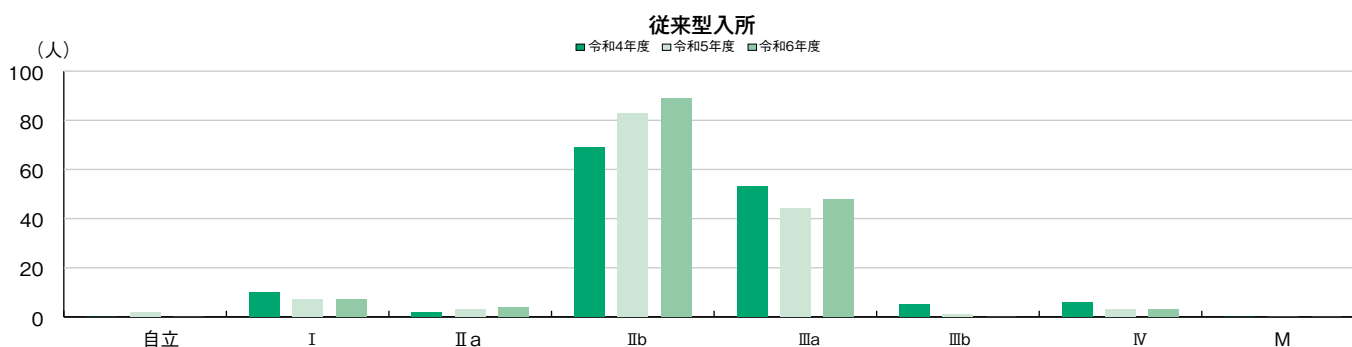
- J 1 1人で交通手段利用して外出 B1 自力で車椅子に移乗
J 2 1人で隣近所への外出 B2 移乗に介助が必要
A1 比較的多く外出(介助要) C1 寝たきり(寝返りできる)
A2 外出はまれ(介助あり) C2 寝たきり(寝返りできない)





(4) 認知症高齢者の日常生活度

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| I ほぼ自立で一人暮らし可能 | Ⅲb 日常生活に支障あり、夜間も介護が必要 |
| Ⅱa 家庭外のみ誰かの注意が必要 | Ⅳ 日常生活に支障ある困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 |
| Ⅱb 家庭内でも誰かの注意が必要 | M 周辺症状や身体状態が重篤で専門医療を必要とする |
| Ⅲa 日常生活に支障あり、日中中心に介護が必要 | |



【スタッフ紹介】

責任者

施設長・老人保健施設管理認定医／大村宏

人員構成

医師	1名
看護師	10名
准看護師	3名
理学療法士	3名
作業療法士	5名
言語聴覚士	1名
管理栄養士	2名
介護福祉士	36名
介護員	5名
介護助手	1名
送迎運転手	3名
支援相談員	3名
事務員	5名

認定資格

介護支援専門員(ケアマネジャー)	8名
社会福祉士	3名
精神保健福祉士	1名
介護福祉士実習指導者	5名
認知症介護実践者研修修了者	10名
認知症介護実践リーダー研修修了者	4名
認知症ケア専門士	2名
認知症チームケア推進研修修了者	3名
喀痰吸引等研修指導看護師	2名
認定特定行為業務(喀痰吸引・経管栄養)従事者認定者	15名
介護プロフェッショナルキャリア段位評価者(アセッサー)	4名
ユニットリーダー研修修了者	5名
介護老人保健施設リスクマネジャー	2名
臨床実習指導者	1名
生活行為向上マネジメント研修修了者	4名
福祉住環境コーディネーター	2名
第一種衛生管理者	1名
第二種衛生管理者	1名
学習療法士1級	1名
転倒予防指導士	1名
終末期ケア上級専門士	1名

【医師紹介】



Omura Hiroshi
施設長 大村 宏(長崎大学 平成2年卒)

所属学会・専門医情報

- ◆日本内科学会
- ◆日本血液学会
- ◆日本癌学会
- ◆日本緩和医療学会
- ◆日本老年医学会(老人保健施設管理認定医)
- ◆老人保健施設管理医師総合診療研修会修了
- ◆全国老人保健施設協会認知症短期集中リハビリテーション研修修了
- ◆日本医師会認定産業医

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

「介護老人保健施設やわらぎ」は、入所サービスとして、必要な医療・看護・介護・リハビリテーション等を提供する包括的ケアサービス施設であり、それを通じて在宅復帰を目指し、その在宅生活を地域社会と連携して支援する施設です。

また、通所サービスも併設し、より在宅生活を支援して行ける体制としています。

さらに、高齢化社会の中で重要性が増して来ている看取りについても対応し、御本人さん、御家族が穏やかで安らかな看取りができる様に取組んでいます。

これからも「老健やわらぎ」をどうかよろしくお願いいたします。

利用者さんの作品



医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

医療支援型グループホーム博愛

【概 要】

名 称	医療支援型グループホーム博愛
所在地	〒683-0801 鳥取県米子市新開4丁目11-13 TEL(0859)30-3318 FAX(0859)30-3319
創 立	令和5年10月1日
居 室	2棟併設(大山棟10室、弓浜棟11室(うち1室はショートステイ用))
定 員	13人(併設するショートステイ博愛は定員1人)
事業内容	障害者総合支援法で定める障害福祉サービス事業 (日中サービス支援型共同生活援助事業:グループホーム博愛、福祉型強化短期入所事業:ショートステイ博愛)
職員数	19人



サービス内容

主に医療的ケアが必要な方や重症心身障がい者の方を対象としたグループホームです。グループホームでは、日常生活上の介護(入浴、排せつ及び食事の介助等)に加え、日中・夜間を問わず、24時間、看護師による健康観察、疾病予防、健康管理や医療的ケア及び相談その他日常生活上の支援を実施しています。
また、併設型として短期入所(定員1人)も実施しています。

【令和6年度の主な出来事】

年	月	事 項
令和6年	4月	鳥取県障がい福祉課長視察
	6月	重症心身障がい者に関する研修
	7月	食中毒等発生防止研修会
	8月	定員を10人から12人に変更 皆生養護学校PTAによる施設見学
	9月	事業所説明会
	11月	定員を12人から13人に変更 水害避難訓練
令和7年	2月	鳥取県による指導監査
	3月	火災避難訓練 感染防止対策に係る訓練 てんかん発作に関する研修

目標(BSC重点施策)

令和6年度

1. 経営の改善
2. 安全で質の高いサービスの提供
3. 職場環境の向上
4. 他機関との連携強化

令和7年度

1. 経営の改善
2. 安全で質の高いサービスの提供
3. 職場環境の向上
4. 他機関との連携強化

【実 績】

		令和5年度	令和6年度
グループホーム博愛	入居者数	6	13
ショートステイ博愛	延利用者数	32	169

【スタッフ紹介】

責任者
管理者／高田治美

人員構成

管理者(事務)	1名
サービス管理責任者(看護師)	1名
看護師	8名
介護福祉士	7名
介護員	1名
介護補助	1名

MESSAGE/地域医療機関のみなさまへ

当事業所は、主に医療的ケアが必要な障がい者や重症心身障がい者の方を対象とした「障がい者グループホーム」として、令和5年10月1日に開所しました。全国的に重度の障がいのある方の受入可能なグループホームが不足している中、当事業所では24時間の看護・介護体制により、安心・安全にご利用いただける「住まいの場」を提供できるよう、日々、取り組んでいるところです。おかげ様で、開所当初は2人しか入居者がありませんでしたが、令和6年度末には13人の入居者となりました。
今年度は、事業所・利用者(家族)・地域との連携等を推進するため、「地域連携推進会議」を設置することとしています。今後は、当該会議を通して、より一層、地域の方とも連携を取りながら、障害福祉への理解促進、サービスの透明性・質の向上等に努めてまいりますので、引き続き、よろしくお願い致します。

令和7年度 部署別活動目標シート

令和7年度 部署別活動目標シート
(法人本部)

理念(ビジョン) こどもから高齢者までみんなが健康で住みやすい地域社会の実現に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 収 益 の 増 強	重点① 経営の改善	収益の増強
	② 福 祉 の 充 実	重点② 地域貢献	医療支援型グループホームの効率的運営
	③ 水 道 光 熱 費 の 削 減	重点③ SDGs活動の推進	水道光熱費の削減
	④ 人 材 の 確 保	重点④ 人材育成	人材の確保
顧客の視点	① 情 報 発 信 ・ 連 携 強 化	重点① 経営の改善	情報発信・地域連携の強化
	② ニーズに合ったサービスの提供	重点② 地域貢献	医療支援型グループホームの運営
	③ SDGs 活動 の 情 報 発 信	重点③ SDGs活動の推進	目標と実績の見える化
	④ 働きがいのある職場づくり	重点④ 人材育成	働きがいのある職場づくり
業務プロセスの視点	① 中 期 経 営 計 画 の 実 行	重点① 経営の改善	中期経営計画の実行
	② 福 祉 の 強 化	重点② 地域貢献	医療支援型グループホーム体制強化
	③ 省エネ・分別廃棄の徹底	重点③ SDGs活動の推進	省エネの徹底
	④ DX化推進による業務の効率化	重点④ 人材育成	業務の効率化
学習と成長の視点	① 社 会 情 勢 の 把 握	重点① 経営の改善	社会情勢の把握
	② 地域ニーズ・将来動向の把握	重点② 地域貢献	医療支援型グループホーム運営の充実
	③ 省エネ勉強会の開催	重点③ SDGs活動の推進	省エネ勉強会の開催
	④ 人事考課制度の検証	重点④ 人材育成	人事考課制度の検証

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

1. 博愛精神:博愛の心で顧客のニーズに寄り添います。
2. 地域貢献:医療・介護・福祉・保健の連携で地域の発展に貢献します。
3. 患者第一:顧客の求めに気持ちよく応え患者第一の医療を実践します。
4. 価値共創:地域と共にSDGs に取組み新たな価値を創造します。
5. 人材育成:誇り高き人材を育成し自己実現ができる組織を目指します。

重点施策

- ①経営の改善
- ②地域貢献
- ③SDGs活動の推進
- ④人材育成

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
法人の医療収入額 医療収支比率	5,512百万円 100%以上	各事業所の計画による目標収入額と利益率を確保できる様支援する。
医療支援型グループホーム入居者数	年度内20人	対象障がい者のニーズ把握と入所者選定を確実に行うとともに、効率的な運用に努める。
水道・電気・ガス使用量の削減率	前年比95%	省エネ・分別廃棄の徹底を行う事により水光熱費・廃棄物処理費の削減を目指す。
離職率	5%以下	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。
ホームページの見直し・ SNS情報発信	2回/年	患者・利用者および地域の医療機関等が必要とする情報を分かりやすく発信する。
利用者と家族の満足度調査	1回/年	医療支援型グループホーム博愛の運営を軌道に乗せる。
実績値の公表回数	1回/月	事務部から水道・電気・ガス・用紙の使用量の実績値を毎月公表する
超過勤務削減率 職員満足度	前年比90% 評価4以上	業務の効率化や働き方改革により超過勤務の削減を目指す。 職場環境の改善等、働きやすい職場作りを目指し職員満足度の向上を目指す。
中期経営計画の実行・見直し	通期	中期経営計画に基づき戦略プランを実行し、社会情勢の変化等により計画を見直す必要がある場合は速やかに計画を見直す。
医療支援型グループホーム人材確保	適宜	利用者増加に向けて必要な職員を確保する。
省エネ活動の推進	2回/年	省エネについて具体的な推進活動を実施する。
業務の効率化検討	各部署にて設定	業務の効率化につながる施策を各部署で検討・実行させる。
セミナー・研修会参加	2回/年	法人経営、医療・介護・福祉に関するセミナーを受講する。
グループホームニーズの把握	通期	医療支援型グループホームに関する情報を収集し、運用に有効に利用する。
省エネ勉強会開催回数	1回/年	法人内で省エネ・分別廃棄について研修会を全職員対象に実施する。
人事考課アンケートの実施	1回/年	適正な人事考課制度を構築するためアンケートを実施し、人事考課制度の見直しにつなげる。

令和7年度 部署別活動目標シート
(博愛病院)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で医療を提供し地域へ貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	①③ 外来・入院患者数の増加	重点① 経営の改善	外来・入院患者の増加 コストの削減 収益の増加
	① コ ス ト の 削 減		
	① 収 益 の 増 加	重点② 働きやすい職場作り	離職率の低下
	② 離 職 率 の 低 下		
	③ 救 急 患 者 の 増 加	重点③ 良質な医療の提供	救急患者の増加 在宅療養患者の増加
	③ 在 宅 療 養 患 者 の 増 加		
	④ 各 種 加 算 の 算 定	重点④ 人材育成	各種加算の算定 研修費の確保
	④ 研 修 費 の 確 保		
顧客の視点	①③ 患 者 満 足 度 の 向 上	重点① 経営の改善	患者満足度の向上 開業医満足度の向上 コストの見える化
	① 開 業 医 満 足 度 の 向 上		
	① コ ス ト の 見 え る 化	重点② 働きやすい職場作り	職員満足度の向上
	② 職 員 満 足 度 の 向 上		
	③ 救 急 隊 満 足 度 の 向 上	重点③ 良質な医療の提供	救急隊満足度の向上 在宅療養患者満足度の向上
	③ 在 宅 療 養 患 者 満 足 度 の 向 上		
	④ 専 門 知 識 の 共 有	重点④ 人材育成	専門知識の共有
業務プロセスの視点	① かかりつけ医機能の強化	重点① 経営の改善	かかりつけ医機能の強化 TRiPの活用 コスト削減活動の実践
	① T R i P の 活 用		
	① コ ス ト 削 減 活 動 の 実 施	重点② 働きやすい職場作り	業務改善の実施 職場環境の改善
	② 業 務 改 善 の 実 施		
	② 職 場 環 境 の 改 善	重点③ 良質な医療の提供	チーム医療の実践 ファーストタッチの実践 在宅医療提供体制の強化
	③ チーム医療の実践		
	③ ファーストタッチの実践	重点④ 人材育成	認定看護師の養成 各種資格の取得
	③ 在 宅 医 療 提 供 体 制 の 強 化		
学習と成長の視点	④ 認 定 看 護 師 の 養 成		
	④ 各 種 資 格 の 取 得		
	① 総 合 診 療 医 の 養 成	重点① 経営の改善	総合診療医の養成 地域との情報共有 コスト削減勉強会の開催
	① 地 域 と の 情 報 共 有		
	① コ ス ト 削 減 勉 強 会 の 開 催	重点② 働きやすい職場作り	働きやすい職場作り勉強会の開催
	② 働 き や す い 職 場 作 り 勉 強 会 の 開 催		
	③ チーム医療勉強会の開催	重点③ 良質な医療の提供	チーム医療勉強会の開催 救急対応勉強会の開催(コードブルー含) 在宅医療勉強会の開催
	③ 救 急 対 応 勉 強 会 の 開 催		
	③ 在 宅 医 療 勉 強 会 の 開 催	重点④ 人材育成	学会への参加 研修会への参加
	④ 学 会 へ の 参 加		
	④ 研 修 会 へ の 参 加		

使命・任務・役割
(ミッション)
→重点施策

重点施策

- ①経営の改善
- ②働きやすい職場作り
- ③良質な医療の提供
- ④人材育成

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
外来患者数・診療単価 入院患者数・診療単価 初診患者数 新入院患者数 電気・ガス・水道・紙・廃棄物削減率	343人/日 14,450円/人 188人/日 41,350円/人 750人/月 200人/月 5%	患者数および診療単価を各科で目標設定し、各部署が協力して適切な診療報酬の算定、適切なDPCコーディング、請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。 各部署にて削減目標を設定し活動する事によりコスト削減を目指す。
離職率	5%以内	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率の低下を目指す。
救急患者受入人数 在宅療養患者数	300人/月 在宅医療センター目標値	断らない救急医療、ファーストタッチの実践により救急患者数の増加を目指す。 在宅医療センターの機能を強化する事により患者・利用者の増加を目指す。
新規診療報酬の算定 研修費	3件/年 7,200千円/年	専門的資格の取得、人的資源の活用により新たな加算等の算定を目指す。 専門的資格取得等のための研修費予算を確保する。
患者満足度 開業医満足度 コストの公表回数	評価4以上 評価4以上 1回/月	かかりつけ医機能の強化・広報により患者満足度の向上を目指す。 TRiPの活用により患者の紹介をしやすい環境を構築し開業医満足度の向上を目指す。 事務部からコストに係る実績値を毎月公表する。
職員満足度	評価4以上	有給取得率の向上、時間外勤務の削減を行う事により働きやすい職場作りを推進し職員満足度の向上を目指す。
救急隊満足度 在宅療養患者満足度	評価4以上 評価4以上	ファーストタッチを実践し救急患者を受け入れる事により救急隊満足度の向上を目指す。 在宅医療・サービスを充実する事により在宅療養患者の満足度向上を目指す。
各種勉強会の開催回数	6回/年	履修報告会、各種勉強会を開催し専門知識の共有を図る。
かかりつけ医機能に関する広報活動 TRiP利用率 コスト削減活動	3回/年 西部地区開業医50% 各部署にて設定	広報誌などを利用して、かかりつけ医制度について院内外に周知を行う。 紹介しやすい環境を整える事により紹介元開業医の利用率向上を目指す。 各部署にてコスト削減の目標値を定め実行する。
有給休暇取得率 時間外労働削減率	年5日以上100% 前年度比95%	業務の改善、職場環境の改善により有給休暇の取得率向上および時間外労働の削減を目指す。
チーム医療介入件数(各チーム集計) 救急患者応需率 カンファレンス実施	前年度比10%増 平均85%以上 1回/月	各チームで症例を検討し介入件数の増加を目指す。 断らない医療の実践により救急患者のファーストタッチを行う。 在宅診療部にて在宅療養患者のカンファレンスを行い情報を共有する。
認定看護師養成者の選定 資格取得者人数	2名 各部署にて設定	診療報酬算定に必要な認定看護師資格取得者の選定を行う。 各部署にて必要な資格を検討し取得する。
総合診療医養成人数 かかりつけ医機能研修修了者人数 地域との連絡会等の開催・参加回数 コスト削減勉強会開催回数	1人/年 3人/年 3回/年 1回/年	かかりつけ医機能の強化のため総合診療医の養成、かかりつけ医機能研修修了者を確保する。 連絡協議会の開催、急性期4病院の話し合い等地域の集まりに参加し情報共有を行う。 用度施設管理課にてコスト削減の勉強会を開催する。
働きやすい職場作り勉強会開催回数	1回/年	教育委員会にて働きやすい職場作り勉強会を開催する。
チーム医療勉強会開催回数 救急対応勉強会開催回数 在宅医療勉強会開催回数	1回/年 6回/年(コードブルー1回) 1回/年	各チームにてチーム医療勉強会を開催する。 医局会、医療安全対策室にて救急対応勉強会を開催する。 教育委員会にて在宅医療勉強会を開催する。
学会参加回数 研修会参加回数	各部署にて設定 各部署にて設定	各部署にて学会・研修会参加数の目標を設定する。

令和7年度 部署別活動目標シート
(ふくよね博愛クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で医療を行い、地域住民の健康管理に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	外来患者数の増加	重点① 一般診療の充実	外来患者数の増加 外来診療単価の増加
	外来診療単価の増加	重点② 在宅医療への貢献	訪問診療件数の増加 訪問診療単価の維持
	訪問診療件数の増加	重点③ 予防医療の推進	健診件数の増加 予防接種件数の増加
	訪問診療単価の維持		
	健診件数の増加		
顧客の視点	予防接種件数の増加		
	患者満足度の向上	重点① 一般診療の充実	外来患者満足度の向上
	在宅患者満足度の向上	重点② 在宅医療への貢献	在宅患者満足度の向上 他職種の満足度向上
	他職種の満足度向上	重点③ 予防医療の推進	健診受診者の満足度の向上
	健診受診者の満足度の向上		
業務プロセスの視点			
	博愛病院放射線科との連携	重点① 一般診療の充実	博愛病院放射線科との連携
	博愛病院在宅診療部との連携	重点② 在宅医療への貢献	博愛病院在宅診療部との連携 他職種との協働
	他職種との協働	重点③ 予防医療の推進	博愛病院外来との連携
	博愛病院外来との連携		
学習と成長の視点			
	医療安全管理研修への参加	重点① 一般診療の充実	医療安全管理研修への参加 院内感染対策研修への参加 Common Diseaseに関する研修への参加
	院内感染対策研修への参加	重点② 在宅医療への貢献	在宅医療に関する研修への参加
	Common Diseaseに関する研修への参加	重点③ 予防医療の推進	予防医療に関する研修への参加
	在宅医療に関する研修への参加		
	予防医療に関する研修への参加		

令和7年度 部署別活動目標シート
(博愛こども発達・在宅支援クリニック)

理念(ビジョン) 私たちは、全ての子どもの健康増進と健康管理に寄与し、子どもと家族が安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	報酬の高い加算の算定	重点① 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供	報酬の高い加算の算定件数の増加 新規患者、利用者の増加
	新規患者・利用者の安定的な獲得	重点② 保護者支援の充実	ペアレントトレーニングの実施 保護者への心理カウンセリング実施
	支援センター業務の遂行	重点③ 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進	職員のモチベーション向上
		重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	医療的ケア児等支援センター業務実績
顧客の視点	職員の組織への貢献感	重点① 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供	患者・利用者満足度の向上
	職員の満足度向上	重点② 保護者支援の充実	患者・利用者満足度の向上
	患者(利用者)の満足度向上	重点③ 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進	職員の満足度評価を行う
		重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	研修受講者満足度評価を行う
業務プロセスの視点	こども中心の支援	重点① 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供	心理カンファレンスの実施 リハビリカンファレンスの実施 個別支援計画の見直し
	保護者支援の実践	重点② 保護者支援の充実	保護者支援ワーキングチームの開催 保護者参観通訳の開催 保護者会の開催
	チームワーキングの実践	重点③ 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進	チーム会の開催 業務改善検討会の開催 個人の目標設定 職員面談の実施
	生産性向上	重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	支援センター主催の研修会運営
	地域連携機能の充実		
学習と成長の視点	能動的学習	重点① 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供	専門的資格の習得 事例検討会の実施
	業務内容の可視化と整理	重点② 保護者支援の充実	ペアレントトレーニング研修会参加 ペアレントトレーニング実施施設見学
	チームワーキングの理解	重点③ 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進	全体会での勉強会 各職種の業務内容の可視化
	人材育成	重点④ 地域からの相談対応と人材育成協力	県内外の研修会・学会へ参加 研修会、講演会、学生講義へ講師としての参加

使命・任務・役割 (ミッション) → 重点施策

重点施策

- ① 一般診療の充実
- ② 在宅医療への貢献
- ③ 予防医療の推進

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
外来患者数 外来診療単価	323人/月 6,100円/人	発熱患者やcommon Disease患者を積極的に受け入れる 慢性疾患患者に対しては3か月毎程度に検体検査を実施する。また、6～12か月毎にレントゲン検査、生理検査、エコー検査 (頸動脈エコー、心エコーなど)を行う
訪問診療件数 訪問診療単価	36件/月 31,000円/人	引き続き、在宅での看取りに取り組む 24時間対応を維持する
健診件数 予防接種件数の増加	16件/月 26件/月	引き続き、特定健診、みなし健診、雇い入れ時健診、事業所健診、各種がん検診の受診者を積極的に受け入れる 各種ワクチンの定期接種、任意接種を継続する
外来患者満足度	評価4以上	接遇の改善、待ち時間の短縮などに取り組む ホームページの充実を図り、受診を誘導する
在宅患者満足度 他職種の満足度	評価4以上 評価4以上	接遇の改善に取り組む 意見交換や情報共有でチームとしての一体感を高める
健診受診者満足度	評価4以上	問診から検査までをスムーズに行う 3週間以内の結果報告を目指す
CT、MRIの共同利用件数	10件/年	博愛病院での検査実施からクリニックでの結果説明までをスムーズに行う
訪問看護ステーション博愛との協働件数 担当者会議への出席回数	10件/月 5件/月	在宅療養支援診療所(3)のを維持する
健診要精査者に対する受診勧奨	10件/年	クリニックで適切な診療科の受診予約を行う
医療安全管理研修会 院内感染対策研修 Common Diseaseに関する研修会	2回/年 2回/年 2回/年	療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を学ぶ 院内感染対策の更なる徹底を図る Common Diseaseにおける診療・看護の質向上を図る
在宅医療に関する研修会	1回/年	在宅医療における診療・看護の質向上を図る
予防医療に関する研修会	1回/年	予防医療における診療・看護の質向上を図る

使命・任務・役割 (ミッション) → 重点施策

1. 医療的、社会的にハイニードな子どもと家族の支援
2. 患者(利用者)と家族から信頼される医療と福祉の提供
3. 多職種連携実践ができるチームの形成
4. 医療的ケア児等支援センター機能の充実

重点施策

- ① 「こどもまんなか」の医療・福祉サービスの提供
- ② 保護者支援の充実
- ③ 他職種への理解、チームワーク能力向上の推進
- ④ 地域からの相談対応と人材育成協力

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
小児特定疾患カウンセリング料算定数 医療的ケアスコア区分2以上の利用者延べ数 特別療養室利用(東山)と(山)の算定数 脳神経小児科の受診回数	55件以上/月 15件以上/月 60件以上/月 10人以上/月	社会的支援が必要な家庭の診療 患者(利用者)への適切な保育・療育の提供 患者(利用者)、保護者への丁寧な説明、接遇 関係機関と連携し、医療依存度の高くない利用者の地域移行を行う
1クール以上/年 2件以上/月	1クール以上/年 2件以上/月	ワーキングチームでの実施状況共有 ホームページやSNS、チラシでの院内外への広報活動
離職率 人件費率(人件費/収入) 超勤時間の減少	0% 55%以下 前年度比率90%以下	個人のメンタルフォロー チーム力の向上による業務の効率化 勤務時間の調整(申し、退出の調整) 職員一人一人の生産性向上への意識
支援センター業務時間	医師 200時間以上/年 看護マースジャー 400時間以上/年 事務 100日以上/年	スタッフ間での業務内容の調整と共有を行う
満足度調査の実施 満足度	1回/年 4/5以上が90%	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果は担当者が報告する 秋から冬にかけて実施し、業務の振り返りを行い、次年度のBSCにも活かす
満足度調査の実施 満足度	1回/年 4/5以上が90%	Webで質問を作成し満足度調査を実施し、結果は担当者が報告する 秋から冬にかけて実施し、業務の振り返りを行い、次年度のBSCにも活かす
職員満足度調査参加率 調査結果	100% 全項目3以上	結果を全員で共有し、緊急重点項目について話し合う
受講者満足度	4/5以上が80%以上	満足度調査を行い、研修内容について振り返りを行う
開催回数 開催回数 見直し回数	2週間に1回 毎週1回 6ヶ月に1回	各事業ごとにカンファレンスを行い、こども中心の支援になっていることを多職種で確認する
開催回数 開催回数 開催回数	2か月に1回 2回/年 1回以上/年	院長、セラピスト、心理職、事務員によるワーキングを実施 障害福祉サービス利用者の保護者を対象として、参観週間と保護者会を開催する
開催回数 開催回数 設定と見直し 面談回数	1回/月 年2回 年2回 年2回	業務内容や研修会の共有を行う 各職種のリーダーが集まり、検討を行う 職員個人の目標設定 上長による面談
運営回数	4回/年以上	医療的ケア児等コーディネーター養成研修運営 コーディネーターフォローアップ研修運営 キッズロコプロジェクト研修会運営 ピアカウンセリング人材育成研修会運営
取得人数 検討会の実施	2人以上/年 1回/月	児童発達支援管理責任者、子育て支援員、ミュージックケア研修など、業務に関連する資格を取得する 障害福祉サービス利用者について事例検討をチームで行う 業務調整を行う
参加人数 見学回数	1人以上/年 1回以上/年	研修、見学のための勤務調整を行う
開催回数 実施回数	3回/年 1回/年	全体会開催のための業務調整 チームごとに業務を可視化し、整理できる項目、ICT導入を検討する項目を考える
延べ参加人数 延べ参加人数	7人以上/年 15人以上/年	業務に関連する県内外の研修会、学会の情報共有、年間スケジュールの作成 職員からの講師依頼を断らない 勤務調整を行う

令和7年度 部署別活動目標シート (介護老人保健施設やわらぎ)

理念(ビジョン) 健やかな暮らしを支えて行く為の拠点施設として地域に貢献します

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 入所・通所利用者数の増加	重点① 赤字経営からの脱却	入所・通所利用者数の増加 介護報酬の増収 超強化型施設の維持 コストの削減
	① 超強化型老健の維持	重点② 「働き方改革」を見据えた やりがいのある職場の追求	離職率の低下
	① コ ス ト の 削 減	重点③ 利用者の個性に合わせた サービスの提供	ターミナルケアの利用者数増加
	② 離 職 率 の 低 下	重点④ 関連事業所や地域住民との連携強化	地域活動を行うことによる紹介者数の増加
	③ ターミナルケア利用者数の増加	重点⑤ 人材育成	各種加算の算定 介護支援専門員研修費・受験料等一部負担
顧客の視点	④ 紹 介 者 数 の 増 加		
	⑤ 各 種 加 算 の 算 定		
	⑤ 研修費・受験料等一部負担		
	①③ 利用者満足度の向上	重点① 赤字経営からの脱却	利用者満足度の向上 関連事業所満足度の向上
	① 関連事業所満足度の向上	重点② 「働き方改革」を見据えた やりがいのある職場の追求	職員満足度の向上
業務プロセスの視点	② 職員満足度の向上	重点③ 利用者の個性に合わせた サービスの提供	利用者満足度の向上
	③ 利用者満足度の向上	重点④ 関連事業所や地域住民との連携強化	地域活動の推進
	④ 地域活動の推進	重点⑤ 人材育成	専門知識の共有
	⑤ 専門知識の共有		
	① 取りこぼしのない加算算定	重点① 赤字経営からの脱却	取りこぼしのない加算算定 ICTの積極活用 コスト削減活動の実践
学習と成長の視点	① ICTの積極的活用	重点② 「働き方改革」を見据えた やりがいのある職場の追求	職員の腰痛対策 業務改善の実施 職場環境の改善
	① コスト削減活動の実施	重点③ 利用者の個性に合わせた サービスの提供	リスク意識の向上 質の高い安全な看護と介護の実践 質の高い接遇の実践
	② 職員の腰痛対策	重点④ 関連事業所や地域住民との連携強化	地域住民、関連施設との連携推進
	② 業務改善の実施	重点⑤ 人材育成	各種資格の取得
	② 職場環境の改善		
	③ リスク意識の向上		
	③ 質の高い安全な看護と介護の実践		
	④ 地域住民、関連施設との連携推進		
	⑤ 各種資格の取得		
	① 介護報酬内容の理解	重点① 赤字経営からの脱却	介護報酬内容の理解 ICTを積極的活用し生産性向上
	① ICTを積極的活用し生産性向上	重点② 「働き方改革」を見据えた やりがいのある職場の追求	災害等含む安全マニュアル作成・見直し メンタルヘルス対策
	② メンタルヘルス対策	重点③ 利用者の個性に合わせた サービスの提供	質の高い看護介護知識の向上 接遇及び倫理感の向上 中堅職員の育成
	③ 質の高い看護介護知識の向上	重点④ 関連事業所や地域住民との連携強化	関連施設や地域との連携活動の体制整備
	③ 接遇及び倫理感の向上	重点⑤ 人材育成	学会への参加 研修会への参加
	③ 中堅職員の育成		
	④ 関連施設や地域との連携活動の体制整備		
	⑤ 学会への参加		
	⑤ 研修会への参加		

使命・任務・役割 (ミッション) → 重点施策

重点施策

- ①赤字経営からの脱却
- ②「働き方改革」を見据えたやりがいのある職場の追求
- ③利用者の個性に合わせたサービスの提供
- ④関連事業所や地域住民との連携強化
- ⑤人材育成

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
月間新規利用者数(入所・通所) 月間利用者数(入所・通所) 在宅復帰・在宅療養支援機能指標 電気・ガス・水道・紙・廃棄物削減率	入所7人・通所3人 入所2,223人・通所712人 70ポイント以上 5%	新規利用者数および月間利用者数を各部署で目標設定し、各部署が協力して適切な介護報酬の算定、請求漏れの防止、適切なベッドコントロールを行い収益の増加を目指す。 超強化型老健として施設運営を維持し続けていく。 各部署にて削減目標を設定し活動する事によりコスト削減を目指す。
離職率の削減	離職率7%以下	働きやすい職場作りで職員満足度を向上させ離職率を抑えることにより職員不足による業務負担を軽減する。
ターミナル加算他加算算定率	100%	看取りの充実を図り、ターミナル加算の算定につなげ収益の増加を目指す。
紹介者数 新規利用者・リピーターの確保	入所8人・デイケア4人／月 入所7人・デイケア3人／月	地域活動を行うことによって他施設との差別化を図り紹介者数増加を目指す。 安全で質の高いケアの提供を入所通所利用者に行うことによって新規利用者・リピーター増加を目指す。
介護報酬算定要件の見直し・改善 介護支援専門員合格者数増	1回／月 1人以上／年	専門的資格の取得、人的資源の活用により新たな加算等の算定を目指す。 介護支援専門員資格取得のための研修費等を一部負担する。
利用者満足度 給食嗜好満足度 関連事業所満足度	満足度90%以上(入所・デイ) 満足度90%以上(年2回) 満足度90%以上(入所・ショート・デイ)	利用者満足度調査(入所・デイケアそれぞれ年一回・本人家族対象)や給食嗜好調査に基づき、5段階中上位2段階を評価する。迅速かつ的確な改善策を実施することによりさらに利用者満足度の向上を目指す。 関連事業所にやわらぎに対する満足度調査アンケートを実施する。
職員満足度	緊急改善分野の減少(前年比)	職員満足度調査に基づき、迅速かつ的確な改善策を実施し職員満足度の向上を目指すことでその先の利用者満足アップにつなげる。
利用者満足度 給食嗜好満足度	満足度90%以上(入所・デイ) 満足度90%以上(年2回)	利用者満足度調査(入所・デイケアそれぞれ年一回・本人家族対象)や給食嗜好調査に基づき、5段階中上位2段階を評価する。迅速かつ的確な改善策を実施することによりさらに利用者満足度の向上を目指す。
地域活動件数	12件／年	介護教室・あじさいの会・施設行事等を積極的に行うことや、地域関連施設への訪問など実践することにより施設への紹介件数、施設への満足度の向上を目指す。
各種勉強会の開催回数	3回／年	履修報告会、各種勉強会を開催し専門知識の共有を図る。
加算算定要件の確認とそれに伴う業務改善 コスト削減活動	取得可能加算100%取得 各部署にて設定	介護報酬改定に伴った加算算定要件の変化等の確認を行い、取得に向けて業務の見直しを行う。 積極的にICTを活用し加算取得に伴う業務負担を軽減する。 各部署にてコスト削減の目標値を定め実行する。
腰痛状況アンケート実施 有給休暇取得率 時間外労働削減率	1回／年 年5日以上100% 前年度比95%	職員腰痛アンケートを実施して現状を把握した上で業務改善を行い、電動ベッドの計画的導入や腰痛軽減のための介護機器数の計画的導入を行う。 業務の改善、職場環境の改善により有給休暇の取得率向上および時間外労働の削減を目指す。
栄養委員会研修会・感染対策研修 インシデント0レベル件数 定期的な接遇自己評価 認知症、看取りケアの取り組み	2回／年 0レベル報告 2回／年以上 取り組み1個以上／各部署	感染症対策研修会を通じて対策を周知し、予防に努める。 状況に応じて臨時開催し、今後の方向性についての提案を行う。 インシデント0レベル報告を事故防止対策のひとつとしてとらえ取り組む。 リスクマニュアルに沿った実践 定期的な自己評価を行い、質の高い接遇を意識して行動する(接遇委員会) 認知症、看取りケアが向上できるよう取り組む(各部署取り組み内容の共有)
地域活動の実践 地域関連施設への訪問活動の実践	5回／年 5回以上／年	地域活動(地区防災避難計画研修会、福祉避難所としての活動、一斉清掃、新開西三区防災会、敬老会行事、介護教室、サロン)への参加。福祉避難所として普段から事業継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施できるよう努める。 地域関連施設への訪問活動をすることで施設のPR活動を行い、利用者増に貢献していく。
資格取得者人数	各部署にて設定	各部署にて必要な資格を検討し取得する。
介護報酬や加算の勉強会の開催 ICT機器を導入 生産性向上委員会が中心となって タイムスタディを利用する	参加率100%	介護報酬について理解を深め、加算要件等細かい部分で職員個人が理解するために勉強会を行い、経営戦略の立案につなげる。 ICT機器を導入し、生産性向上委員会が中心となって使用方法の研修や運用方法の効率化を推し進めていく。
マニュアル作成・見直し率 メンタルヘルス個人面談実施 メンタルヘルス研修会参加	1回／年 年2回のうち希望時 年1回	安全に関するマニュアルの作成・見直しを行う。 メンタルヘルスマニュアルを活用し、専門家のアドバイスを受けストレス緩和の参考にする。 メンタルヘルスへの理解を深める。
認知症ケア研修会、看取りケア研修会、 接遇・倫理研修会の開催 外部研修会への参加・伝達等	参加率100% 100% 1回以上／年	教育委員による研修スケジュールに沿って尊厳・安全に関する研修会を実施すると共に認知症や看取りの理解を深め、安全な生活援助の実現を目指す。 倫理研修会を実施し、職員の倫理に対する意識を高める。 中堅職員が外部研修会参加・伝達することで施設全体の職員レベルアップ向上に努める。
体制整備の完了	1回／年	関連施設との連携に関しては、各部署が関連施設との連携活動の体制を整備する。 地域住民に関しては、介護部会が中心となって地域のニーズを把握(アンケート等)し、活動の体制整備を行う。
学会参加回数 研修会参加回数	各部署にて設定 各部署にて設定	各部署にて学会・研修会参加数の目標を設定する。

令和7年度 部署別活動目標シート (医療支援型グループホーム博愛)

理念(ビジョン) 私たちは博愛の心で、障がいの有無に関わらず誰もが地域で安心安全に暮らせる共生社会の実現に貢献します。

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(CSF)
財務の視点	① 利用者の増加 ② 職員の安定雇用 ③ 効率的な経費の執行	重点① 経営の改善	利用者の増加 経費の削減
		重点② 安全で質の高いサービスの提供	利用者数の増加
		重点③ 職場環境の向上	働きやすい職場環境の整備
		重点④ 他機関との連携強化	相談支援事業者等への情報提供と情報収集
顧客の視点	① 利用者満足度の向上 ② ご家族満足度の向上 ③ 職員満足度の向上 ④ 他施設との連携の強化	重点① 経営の改善	利用者満足度の向上 ご家族満足度の向上
		重点② 安全で質の高いサービスの提供	看護・介護スキルの向上 接遇マナーの向上 人権意識の向上
		重点③ 職場環境の向上	職員満足度の向上
		重点④ 他機関との連携強化	相談支援事業所との連携強化
業務プロセスの視点	① 業務の改善・効率化 ② リスクマネジメントの実施 ③ 安全なサービスの提供	重点① 経営の改善	報酬算定の見直し 関係機関との情報交換
		重点② 安全で質の高いサービスの提供	リスク意識の向上
		重点③ 職場環境の向上	業務改善の推進
		重点④ 他機関との連携強化	関係機関との連携強化
学習と成長の視点	① 障害福祉制度の熟知 ② 専門スキルの向上 ③ 研修環境の整備	重点① 経営の改善	障害福祉サービスの制度と報酬内容の熟知
		重点② 安全で質の高いサービスの提供	看護及び介護スキルの向上
		重点③ 職場環境の向上	研修環境の整備
		重点④ 他機関との連携強化	関係機関と連携

使命・任務・役割
(ミッション)
→ 重点施策

重点施策

- ① 経営の改善
- ② 安全で質の高いサービスの提供
- ③ 職場環境の向上
- ④ 他機関との連携強化

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (KGI)	目標値を達成するための具体的行動計画
利用者数 稼働率 支出額 (人件費を除く)	利用者数 20人 稼働率 90% 前年度比95%以下 (利用者1人当たり)	利用者数を13人から20人に増やす。 節電、節約に努める。 効率的な人員配置及び適用可能な加算を見据えた人員配置を検討する。
利用者数 研修の受講回数	利用者数 20人 稼働率 90% 年1回以上 (法定研修を除く)	職員全員の研修スケジュールを作成し、看護技術や介護技術の向上のほか、重症心身障がい者のケア、虐待防止に関する理解を深めるための研修に参加し、質の高い、利用者ニーズに沿ったサービスを提供することにより、利用者数や稼働率の増加を目指す。 e-ラーニングのシステムを導入し、職員が研修を受けやすい環境を整備する。
離職率	離職率5%以下	法人本部と連携しながら働きやすい環境を整備し、職員満足度を向上させ離職率の低下を図ることにより、職員の安定雇用を図り、もって経営の安定につなげる。 職場内ミーティングの開催や個別面談を通して職員の意見を聞き、働きやすい職場環境を構築する。
入居情報の提供回数 相談支援事業者への情報提供回数	入居情報を毎月情報提供 随時提供	県と連携して、毎月、入居情報を関係機関や相談支援事業所、一般県民等に情報提供することにより、利用者数の増加を目指す。 随時、相談支援専門員と連携を図りながら、入居希望等に関する情報を収集する。
利用者満足度 ご家族満足度	満足度90%以上 満足度90%以上	利用者及びご家族の満足度を向上させることにより、利用者の増加を図るとともに、事業所内での生活時間が増加するような方策を検討する。
研修の受講回数	年1回以上	各研修を通じて、職員のスキル、接遇マナー及び人権意識の向上を図り、これまで以上に質の良いサービスを提供することにより、利用者及び家族の満足度向上を図る。
職員満足度	満足度70%以上	法人本部と連携しながら、迅速かつ的確な改善策を策定の上、職場環境の改善を図り、職員満足度の向上を図る。
支援会議等への参加	毎回参加	基本、個別支援会議(ケア会議)には毎回参加し、関係機関との情報共有を行うことにより、事業所間の連携強化を図るとともに、家族や利用者のニーズを的確に把握する。 困難事例が発生した場合は、相談支援専門員及び所在の市町村に相談する。
報酬本体と加算の算定要件の確認 相談支援事業所への情報提供	算定可能な加算100%算定 随時提供	適宜、報酬本体と加算内容の精査(見直し)を行い、適切に報酬算定を行い収益増を目指す。 該当かどうか不明な場合は所在市町村に加算の可否を確認する。 適宜、相談支援事業所や関係団体に情報(利用状況等)を提供するなどして、利用希望者の存在、把握に努める。 利用可能な補助金等がないかどうか、県及び市町村の動向を注視する。
インシデント0レベルの件数 事例検討会の開催 研修会の開催	0レベル報告 年60件以上 毎月1回開催 年1回以上	インシデント0レベル報告を事故防止対策の1つとして捉え取り組んでいく。 定期的に医療安全に係る事例検討会を行う。 医療安全に関する研修会を開催及び参加し、医療安全に関する意識を深める。 定期的に各種マニュアルの点検を行い、必要に応じて改正を行う。
資格取得の支援 業務見直しによる業務効率化の推進 業務の見える化・仕組化	年間2人程度 年間2件程度	サービス管理責任者または喀痰吸引にかかる資格等の取得にかかる支援を行い、職員の資質向上を目指す。 業務の効率化のためのIoT機器の導入等について検討する。 利用者ごとに支援内容(ケア+介護)をマニュアル化し、誰でも等しくケアが実施できるようにするなど業務の見える化を推進する。
定期的な情報交換の実施	毎回参加	基本、個別支援会議(ケア会議)には毎回参加し、関係機関との情報共有を行うことにより、迅速に、適切なサービスを効率的に提供する。
障害福祉サービス及び報酬制度に関する勉強会の開催	年1回以上	障害福祉サービスにかかる制度や報酬に等に係る理解を深めるための勉強会を開催することにより、経営改善に関する共通認識を深める。
研修の受講回数	年1回以上	職員全員の研修スケジュールを作成し、看護技術や介護技術の向上を図るとともに、重症心身障がい者のケア、虐待防止に関する理解を深めるための研修に参加することにより、質の高い、利用者ニーズに沿ったサービスの提供を図る。
研修の開催回数	年1回以上	職員の企画運営による研修会(ハラスメント、メンタルヘルス等)を開催し、よりよい職場環境の整備に努める。 職員全員が共通認識、意識の共有化ができる職場環境整備(業務内容の明確化と適切な役割分担への取組、職場の課題の見える化等)のための取組を実施する。
研修の受講回数	年1回以上	関係機関等(県、県社協等)が主催する研修会や講習会に積極的に参加する(伝達講習に参加した場合も参加と見なす)ことにより、自己研鑽を図るとともに、専門職同士の横のつながりを構築する。

1. 主な診療実績指標

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1日平均外来患者数	337名	340名	344名
1日平均入院患者数	155名	172名	172名
救急車受入件数	1,538件	1,679件	1,594件
1日平均救急車搬入件数	4.2件	4.6件	4.4件
平均 在院 日数	一般病棟	15.0日	14.1日
	地域包括ケア病棟	16.6日	23.0日
	回復期リハビリテーション病棟	87.0日	96.9日
	療養病棟	212.3日	230.4日
平均病床稼働率	80.7%	89.7%	89.6%
手術件数	782件	790件	944件
紹介率	48.1%	51.5%	51.1%
逆紹介率	28.7%	29.6%	29.0%
院内がん登録件数(年単位)	307件	288件	—
外来化学療法件数	549件	423件	521件
がん相談件数(がん患者指導管理料イ)	83件	70件	57件

2. 病院全体に関するプロセス指標

(1)肺血栓塞栓症の予防策実施率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
肺塞栓の予防(リスクレベル「中」以上)	97.5%	96.4%	99.6%

分母:リスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数
分子:肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数

(2)手術開始1時間以内の予防的抗菌薬投与率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予防的抗菌薬投与率	96.9%	98.3%	99.3%

分子:手術開始1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数
分母:特定術式の手術件数

3. 病院全体に関するアウトカム指標

(1)感染症発生率

SSIデータ(消化器外科系手術)

手術手技	令和4年			令和5年			令和6年		
	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率
虫垂の手術	0	18	0.0%	0	15	0.0%	1	16	6.3%
肝切除	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
脾頭十二指腸切除	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
その他の肝胆脾手術	0	2	0.0%	0	1	0.0%	0	0	0.0%
胆嚢手術	0	36	0.0%	1	32	3.1%	0	51	0.0%
大腸手術	0	22	0.0%	2	20	10.0%	2	23	8.7%
幽門側胃切除	0	0	0.0%	0	3	0.0%	0	0	0.0%
胃全摘	0	4	0.0%	0	0	0.0%	0	1	0.0%
胃手術	0	7	0.0%	0	0	0.0%	0	3	0.0%
直腸手術	0	6	0.0%	0	3	0.0%	2	8	25.0%
小腸手術	0	9	0.0%	0	3	0.0%	0	6	0.0%
腹部手術	0	2	0.0%	1	1	100.0%	0	4	0.0%

SSIデータ(整形外科系手術)

手術手技	令和4年			令和5年			令和6年		
	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率	SSI数(件)	手術数(件)	発生率
人工関節置換術(股)	—	—	—	—	—	—	0	16	0.0%
人工関節置換術(膝)	—	—	—	—	—	—	0	15	0.0%

SSI発生率=感染件数/手術件数×100

MRSA新規検出率(入院患者)

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
MRSA検出率	0.20	0.29	0.37

MRSA検出率=MRSA新規検出患者数/延べ入院患者日数×1000(件/1000患者日)

(3)クリニカルパス使用患者率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
パス使用率	33.2%	32.3%	35.8%

(4)脳卒中地域連携パスの運用件数

連携パス運用件数

病院名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
鳥取大学医学部附属病院	18	15	22
山陰労災病院	2	3	2

(5)がん地域連携パス実績

地域がん診療連携クリニカルパス実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
胃がん	1	0	0
大腸がん	2	2	0
肝臓がん	0	0	0
肺がん	0	0	0
乳がん	0	0	1
合計	3	2	1

(6)地域医療機関サポート率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
地域医療機関サポート率	81.8%	78.2%	83.6%

(2)在宅復帰率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般病棟	96.6%	95.9%	96.2%
地域包括ケア病棟①(2階病棟)	95.6%	91.2%	86.6%
地域包括ケア病棟①(4階A病棟)	91.6%	83.3%	96.2%
療養病棟①	75.0%	81.3%	78.9%
回復期リハビリ病棟②	85.6%	83.3%	76.8%

一般病棟は、急性期一般入院料1の在宅復帰率要件に準じて算出

分子 家庭への退院(例えば、急性期病棟への転院は除く)

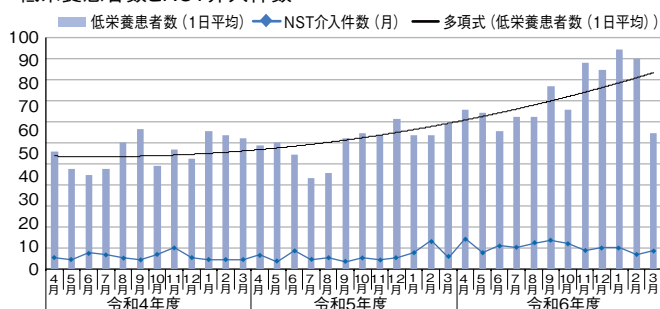
分母 一般病棟退院患者(死亡退院は除く)

※再入院患者は除く(A様式作成分)

(3)NST活動実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
活動回数	52	51	50
介入患者数	15	18	39
介入件数	54	67	115

低栄養患者数とNST介入件数



(4)緩和ケアチーム

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
介入患者数	29	31	28

(9)退院後14日以内のサマリー作成率

令和4年度	総数	退院後14日以内		令和5年度	総数	退院後14日以内		令和6年度	総数	退院後14日以内	
		作成数	作成率			作成数	作成率			作成数	作成率
4月	162	158	97.5%	4月	184	183	99.5%	4月	195	194	99.5%
5月	175	174	99.4%	5月	181	177	97.8%	5月	190	189	99.5%
6月	192	189	98.4%	6月	172	167	97.1%	6月	193	190	98.4%
7月	188	187	99.5%	7月	198	189	95.5%	7月	202	201	99.5%
8月	185	178	96.2%	8月	189	186	98.4%	8月	190	187	98.4%
9月	196	191	97.4%	9月	186	181	97.3%	9月	213	209	98.1%
10月	180	165	91.7%	10月	186	176	94.6%	10月	181	181	100.0%
11月	156	153	98.1%	11月	185	182	98.4%	11月	199	198	99.5%
12月	170	168	98.8%	12月	199	193	97.0%	12月	205	198	96.6%
1月	160	156	97.5%	1月	172	171	99.4%	1月	180	177	98.3%
2月	178	166	93.3%	2月	163	160	98.2%	2月	156	154	98.7%
3月	175	171	97.7%	3月	198	196	99.0%	3月	192	191	99.5%
年間	2,117	2,056	97.1%	年間	2,213	2,161	97.7%	年間	2,296	2,269	98.8%

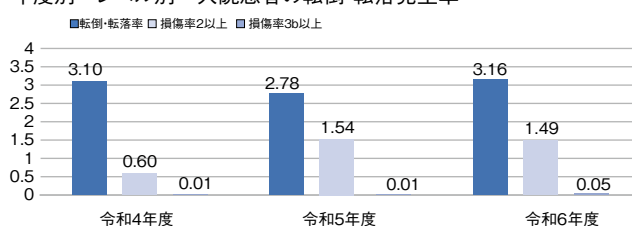
(10)インシデント・アクシデントレポート集計結果

リスクレベル別・月別アクシデントレポート件数 (令和6年度)

	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが患者さんには実施されなかった	6	5	2	4	1	4	7	3	3	1	0	2	38
1	患者さんへは実害ではなかった (何らかの影響を与えた可能性は否定できない)	15	16	24	9	29	18	22	16	32	15	10	11	217
2	処置や治療は行わなかった (患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全管理の為に検査などの必要性は生じた)	29	17	26	32	28	18	31	25	35	31	20	28	320
3a	簡単な処置や治療を要した (消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)	12	9	13	5	8	9	11	8	7	12	2	7	103
3b	濃厚な処置や治療を要した (バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院に日数の延長、外来患者さんの入院、骨折など)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5	7
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4b	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害や美容上の問題は伴う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	麻薬の管理・紛失等	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	総合計	62	48	67	51	66	49	71	53	77	59	33	53	689

(5)転倒・転落レベル2以上

年度別 レベル別 入院患者の転倒・転落発生率



(6)褥瘡推定発生率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
褥瘡推定発生率	1.42%	0.48%	0.83%

(7)職員インフルエンザワクチン接種率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
接種率	97.8%	86.8%	85.1%

(8)脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度	3.3単位	2.8単位	2.7単位

(1)項目別・リスクレベル別レポート件数(令和6年度)

項目・リスクレベル	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	その他	合計
指示だし・情報伝達過程	10	4	47	1	0	0	0	0	0	62
与薬	17	67	69	6	0	0	0	0	0	159
注射・点滴	3	15	35	2	0	0	0	0	0	55
輸血	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
転倒・転落	0	79	63	33	3	0	0	0	0	178
医療器具使用・管理	0	2	8	0	0	0	0	0	0	10
チューブ類使用・管理	0	3	8	31	0	0	0	0	0	42
治療	0	14	38	15	4	0	0	0	0	71
検査	4	15	24	9	0	0	0	0	0	52
療養	0	5	6	5	0	0	0	0	0	16
給食	2	12	7	0	0	0	0	0	0	21
その他	1	1	15	1	0	0	0	0	4	22
合計	38	217	320	103	7	0	0	0	4	689

4. 疾病・手術に関する指標

(1)疾病大分類別・性別・病名数(入院)

(令和6年度)

分類 番号	分類名	男	女	総数	構成比(%)
	総数	1,022	1,274	2,296	100.0
I	感染症及び寄生虫症	32	41	73	3.2
II	新生物<腫瘍>	96	148	244	10.6
III	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	4	4	8	0.3
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	74	57	131	5.7
V	精神及び行動の障害	5	2	7	0.3
VI	神経系の疾患	41	41	82	3.6
VII	眼及び付属器の疾患	97	157	254	11.1
VIII	耳及び乳様突起の疾患	6	20	26	1.1
IX	循環器系の疾患	112	118	230	10.0
X	呼吸器系の疾患	130	93	223	9.7
XI	消化器系の疾患	194	176	370	16.1
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	6	7	13	0.6
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	33	49	82	3.6
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	37	135	172	7.5
XV	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0	5	5	0.2
XVI	周産期に発生した病態	0	0	0	0
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	1	1	2	0.1
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	2	3	0.1
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	120	200	320	13.9
XX	傷病及び死亡の外因	0	0	0	0
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	4	0	4	0.2
XXII	特殊目的用コード	29	18	47	2.0

※小数第2位を四捨五入

(2)点数表小分類別・上位手術別・手術数(入院)

(令和6年度)

順位	コード	分類名	件数
1	K282	水晶体再建術	255
2	K046	骨折観血的手術	79
3	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	46
4	K476	乳腺悪性腫瘍手術	38
5	K721	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	37
6	K888	子宮付属器腫瘍摘出術(両側)	36
7	K865	子宮脱手術	32
8	K280	硝子体茎頸微鏡下離断術	31
9	K687	内視鏡的乳頭切開術	26
10	K653	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	25
11	K048	骨内異物(挿入物を含む。)除去術	23
11	K082	人工関節置換術	23
11	K654	内視鏡的消化管止血術	23
14	K743	痔核手術(脱肛を含む。)	21
15	K059	骨移植術(軟骨移植術を含む。)	19

順位	コード	分類名	件数
15	K081	人工骨頭挿入術	19
15	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	19
15	K867	子宮頸部(腔部)切除術	19
19	K142	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)	18
19	K718-2	腹腔鏡下虫垂切除術	18
19	K872-3	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切除術、子宮内膜ポリープ切除術	18
22	K633	ヘルニア手術	14
22	K719	結腸切除術	14
24	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	13
25	K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	12
25	K877	子宮全摘術	12
27	K873	子宮鏡下子宮筋腫摘出術	11
28	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	10
29	K068-2	関節鏡下半月板切除術	9
29	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	9

5. がん診療に関する指標

(1) 部位(中分類)別・性別・腫瘍数(令和5年)

部 位	男	女
食道	8	5未満
胃	32	8
小腸	5未満	5未満
結腸	19	25
直腸S状結腸移行部	5未満	5未満
直腸	12	5未満
肝及び肝内胆管	9	5未満
胆のう	0	5未満
その他及び部位不明の胆道	5未満	5未満
膵	9	5未満
喉頭	5未満	0
気管支及び肺	8	5
胸腺	5未満	5未満

部 位	男	女
その他及び部位不明の骨、関節及び関節軟骨	5未満	0
造血系及び細網内皮系	5未満	5未満
乳房	5未満	45
子宮頸	0	29
子宮体部	0	8
卵巣	0	5未満
前立腺	20	0
腎	5未満	5未満
膀胱	5	5未満
脳	5未満	5未満
リンパ節	0	5未満
原発部位不明	5未満	5未満

(2) 症例区分別

	診断のみ	自施設診断 自施設 初回治療開始	自施設診断 自施設 初回治療継続	他施設診断 自施設 初回治療開始	他施設診断 自施設 初回治療継続	初回治療終了後	その他
令和1年	79	234	0	13	10	31	0
令和2年	73	204	0	8	3	31	1
令和3年	79	216	0	10	9	23	3
令和4年	85	191	0	11	1	18	1
令和5年	93	156	0	11	4	24	0

(3) 発見経緯別

	がん検診・健康診断・ 人間ドック	他疾患の経過観察中 の偶然発見	剖検発見	その他	不明
令和1年	110	53	0	185	19
令和2年	90	51	0	161	18
令和3年	97	49	0	177	17
令和4年	92	56	0	152	7
令和5年	78	45	0	150	15

6. リハビリに関する指標

(1) FIM利得

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般病棟	16.75	17.15	15.55
回復期リハビリテーション病棟	29.24	26.13	22.91
地域包括ケア病棟	23.62	25.77	23.17

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
回復期リハビリテーション病棟 実績指数(施設基準35以上)	47.23	45.81	45.02

FIM利得:退院時FIM-入院時FIM

→点が高いほどリハビリやケアの効果が高いということ

(点が高いほど患者自身でできることが多くなり、介助してもらった量が少なくなったということ)

医療の質可視化プロジェクト

我が国の全病院を対象に、指標を活用して医療の質を可視化するプロジェクトです。病院の役割・規模等にかかわらず、本事業で検討した質管理に重要な指標を計測し、医療の質のさらなる向上を目指すオールジャパンの取組です。

目的

全国の医療機関との比較や自院の経年的なデータの推移から、自院の立ち位置を客観的に把握し、医療の質改善活動の契機とすることを目的としています。

対象

全国の病院

計測する指標

①転倒・転落(件数)

入院患者に発生した転倒・転落件数/入院患者延べ件数(%)

②転倒・転落(3b以上)

入院患者に発生したレベル3b以上の転倒・転落件数/入院患者延べ件数(%)

③肺塞栓の予防(リスクレベル「中」以上)

分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数/リスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(%)

④血培2セット

血液培養オーダが1日に2件以上ある日数/血液培養オーダ日数(%)

⑤広域抗菌薬使用時の細菌培養

分母のうち入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数/広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数(%)

⑥予防的抗菌薬投与

分母のうち、手術開始前1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数/手術室で行った手術件数(%)

⑦褥瘡発生(d2以上)

d2(真皮までの損傷)以上の院内新規褥瘡発生患者数/入院患者延べ数(%)

⑧入院早期の栄養ケア(65歳以上)

分母のうち、入院3日目までに栄養ケアアセスメントが行われたことがカルテに記載された患者数/65歳以上の退院患者数(%)

⑨身体拘束率

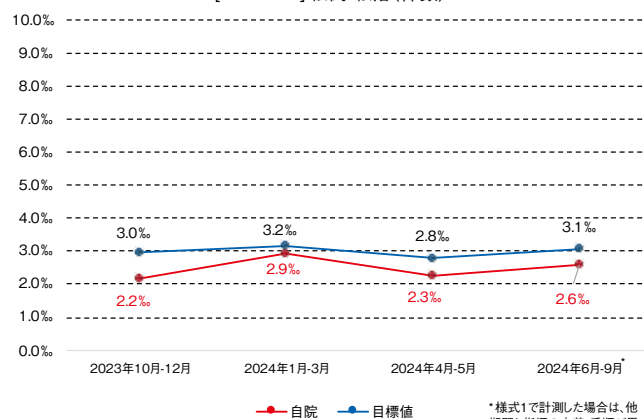
分母のうち、物理的身体拘束を実施した患者延べ数/入院患者延べ数(%)

メリット

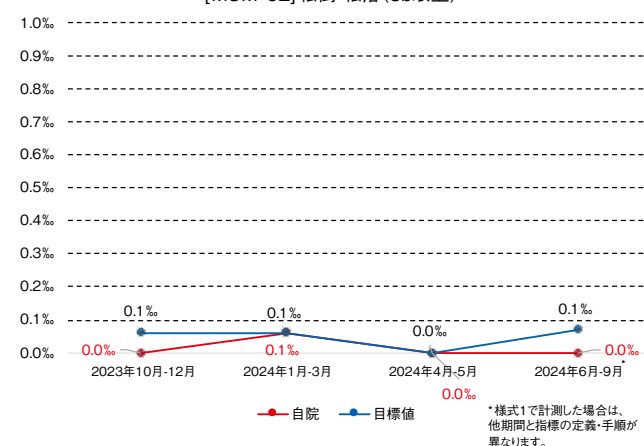
- 医療安全、感染管理、ケアに関連した代表的な指標を可視化できる
- 自院における経時的変化および他施設比較をとおして、自院の現状を客観的に把握できる

博愛病院のデータ(2023年10月~2024年9月)

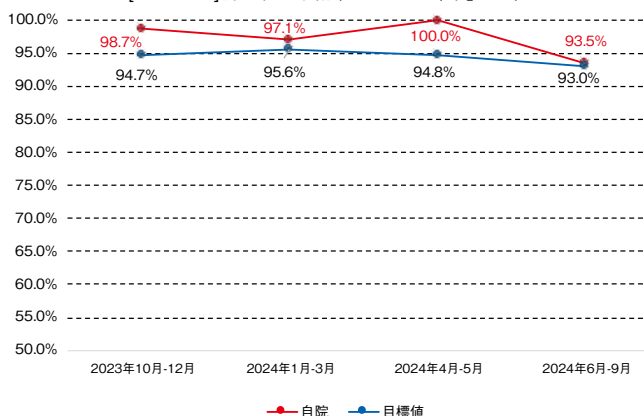
[MSM-01] 転倒・転落(件数)



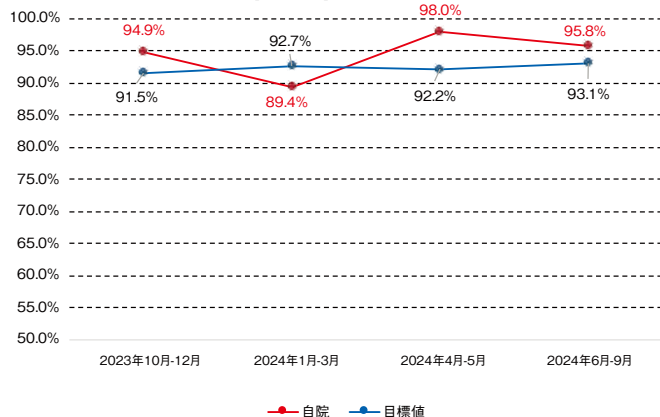
[MSM-02] 転倒・転落(3b以上)



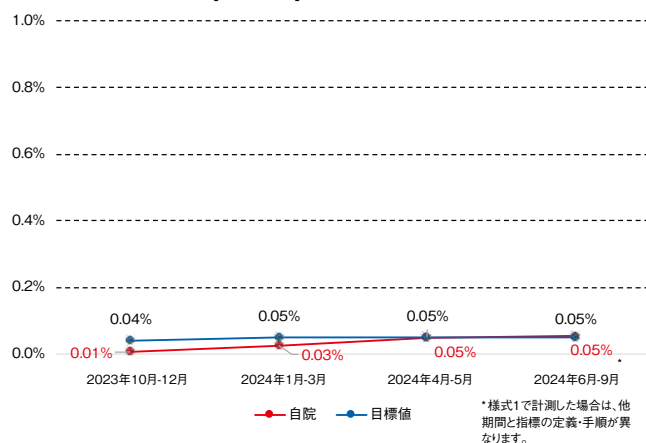
[MSM-03] 肺塞栓の予防(リスクレベル「中」以上)



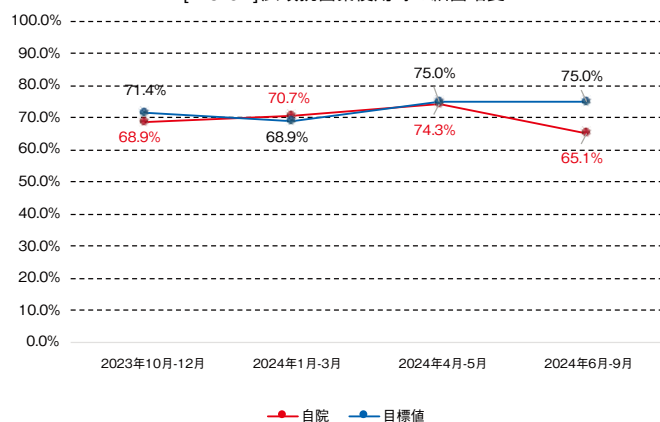
[IFC-01] 血培2セット



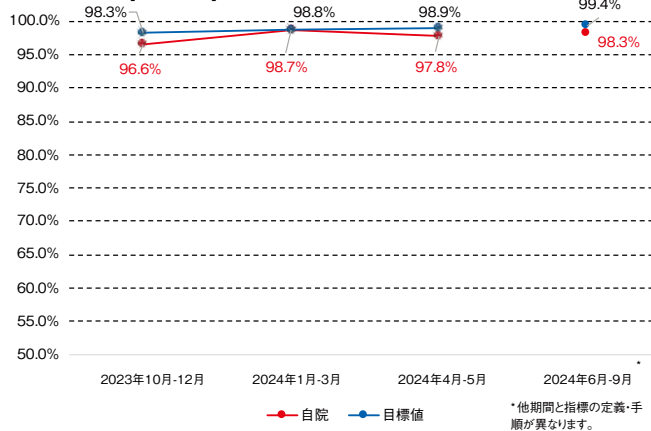
[CRM-01] 褥瘡発生(d2以上)



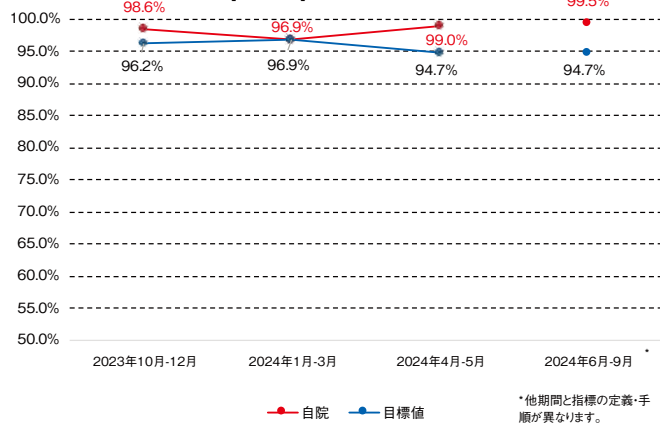
[IFC-02] 広域抗菌薬使用時の細菌培養



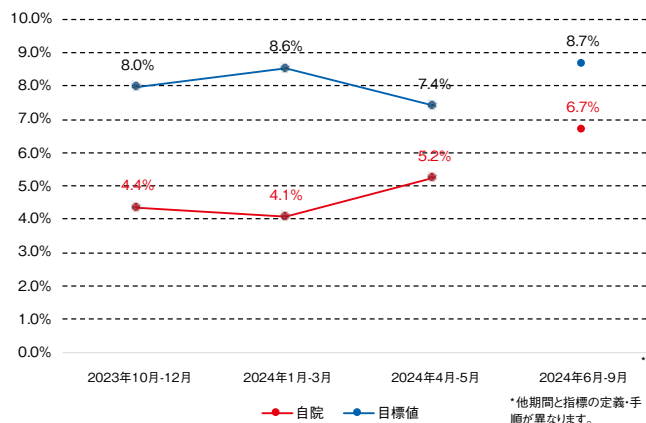
[CRM-02] 入院早期の栄養アセスメント(65歳以上)



[IFC-03] 予防的抗菌薬投与



[CRM-03] 身体的拘束



[1] 令和6年度院内研修会

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
1	医療安全対策室	R6.7.19～8.31	第1回医療安全研修会 「みんなが主役の医療安全～対話するチームづくり～」(オンライン)	山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授 荒神裕之	全職員	459
2	医療安全対策室	R7.2.17～3.15	第2回医療安全研修会 AEDの取り扱いについて(オンライン)	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	448
3	医療安全対策室	R7.2.26 2.17～3.15	第2回医療安全対策研修 テーマ:コードブルー対応、AEDの取り扱い方法	循環器内科主任部長 田中保則 脳神経内科部長 安井建一、臨床 工学技士 ICLSインストラクター	全職員	448
4	医療ガス安全管理委員会 医療安全対策室	R7.2.24～3.16	医療ガス安全管理研修(オンライン)	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	414
5	医療安全対策室	R7.2.27	コードブルー対応	脳神経内科部長 安井建一、 看護師 秦野貴子	全職員	58
6	MACT、医療安全対策室	R6.8.5～8.31	MACT研修会 テーマ:MACTの活動内容と生体情報用 モニタの適正使用について	臨床工学技士 福田智	医師、看護師、臨 床工学技士、リハ ビリテーション部、 臨床検査技師	259
7	院内感染対策委員会	R6.8.26～9.15	第1回感染対策研修 テーマ:病院内の環境整備	感染管理認定看護師 田原由紀子	全職員	609
8	院内感染対策委員会	R6.8.26～9.15	第1回AST研修 テーマ:経口抗菌薬の適正使用に関する 基礎知識①	感染制御認定薬剤師 中山卓	全職員	609
9	院内感染対策委員会	R7.2.25～3.17	第2回感染対策研修 テーマ:やはり大事な手指衛生～手指消 毒の手順を学ぼう～	感染管理認定看護師 田原由紀子	全職員	606
10	院内感染対策委員会	R7.2.25～3.17	第2回AST研修、第2回医薬品安全管 理研修 テーマ:経口抗菌薬の適正使用に関する 基礎知識②	感染制御認定薬剤師 中山卓	全職員	606
11	糖尿病療養指導委員会	R6.10.10	糖尿病療養指導委員会研修 テーマ:CGMリブレについて	糖尿病・内分泌内科主任部長 藤岡洋平 アボットジャパン 渡邊氏	メディカル スタッフ	23
12	教育委員会	R6.5.17～6.7	医療機器安全管理研修 テーマ:AED更新に伴う操作説明	臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	396
13	教育委員会	R6.6.24	接遇リーダー向け接遇研修会	医療福祉接遇上級 マナーインストラクター 藤居貴子	接遇リーダー	28
14	教育委員会 臨床倫理委員会	R6.8.9 R6.8.26～10.27	人権倫理研修(オンライン) テーマ:臨床倫理の基礎知識～臨床倫 理コンサルテーションの事例から～	愛知県厚生連安城更生病院 院長補佐 脳神経内科 医師 杉浦真	全職員	557
15	教育委員会 身体拘束最小化チーム	R6.8.29	認知症患者の看護研修 テーマ:認知症や高齢者、家族も含めた 意思決定支援・身体拘束予防	鳥取大学医学部附属病院 認知症看護認定看護師 大櫃恵子	全看護職員	44
16	教育委員会	R6.11.29	院内履修報告会 テーマ:振り返ろう!伝えよう!共有しよう! 「学び」	脳神経内科主任部長 足立晶子 臨床検査技師 松重智大 臨床工学技士主任 田儀匡史	全職員	26
17	教育委員会	R7.1.14～2.16	メンタルヘルス研修 テーマ:早く気づけるストレスケア	横浜労災病院勤労者メンタルヘル スセンター長 山本晴義	全職員	462
18	教育委員会	R7.1.22～2.16	個人情報保護研修 テーマ:個人情報保護・サイバーセキュリ ティについて	情報システム管理室 室長補佐 医療情報技師 矢倉征道	全職員	448
19	教育委員会	R7.2.17～3.16	働き方改革研修 テーマ:医師・看護師・医療職が実践すべ き、病院における真の働き方改革	Youtubeチャンネル 現役病院経営 者T	全職員	438
20	虐待防止対策委員会	R7.2.20 R7.2.28～3.31	高齢者虐待防止研修(オンライン) テーマ:高齢者分野における虐待防止対 策への取り組みについて	社会福祉法人博愛会 地域福祉部 部長 竹下篤史	全職員	491
21	コンプライアンス委員会	R6.10.15～11.5	コンプライアンス研修 テーマ:コンプライアンスとは(オンライン)	山田総合法律事務所 山田弁護士	全職員	541
22	診療放射線部 運営委員会	R6.8.13～9.30	診療用放射線に係わるスタッフの安全管 理研修「診療用放射線の安全利用」 (オンライン)	公益社団法人 日本医師会公式 チャンネル 「診療用放射線の安全利用の研 修」動画	全職員	226
23	NST委員会	R6.9.27	NST研修会 テーマ:GLIM基準について	アボットジャパン 齋藤哲也	メディカル スタッフ	41
24	看護部教育委員会	R6.4.3	看護部新人オリエンテーション	看護師主任 荒濱敬信	新人看護師	10
25	看護部教育委員会	R6.4.16	電子カルテの使用方法	看護師副主任 細田めぐみ	新人看護師	11
26	看護部教育委員会	R6.4.17	看護記録	2F病棟師長 藤居貴子	新人看護師	11
27	看護部教育委員会	R6.4.17	感染研修(標準予防策と感染経路別予防策)	感染管理認定看護師 田原由紀子	新人看護師	11

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
28	看護部教育委員会	R6.4.18	①点滴・採血・吸引・バルン・導尿	看護師主任 佐近みどり、看護師副主任 矢倉綾子、細田めぐみ、和泉真弓、田守良子、藤景彩	新人看護師	11
29	看護部教育委員会	R6.4.22	十二誘導心電図、心電図モニターについて	臨床検査技師 副主任 塚田康弘、中村政則、松本侑樹	新人看護師	11
30	看護部教育委員会	R6.4.22	臨床検査部の構造と役割～検体提出・輸血・その他～	臨床検査技師 副主任 塚田康弘、中村政則、松本侑樹	新人看護師	11
31	看護部教育委員会	R6.4.23	SBAR 深部静脈血栓症	鳥取大学医学部附属病院 ティーチングナース	新人看護師	11
32	看護部教育委員会	R6.4.24	診療放射線部での注意点について～MRI室・その他～	診療放射線技師 技師長 池嶋道夫、副主任 白石蒼之、上野裕介、山澤学志	新人看護師	11
33	看護部教育委員会	R6.4.25	栄養管理について NSTの役割・栄養アセスメント方法・栄養評価	4B病棟師長 加藤美樹	新人看護師	11
34	看護部教育委員会	R6.5.7	タクティール研修	看護師 立平晴夏、内田由香	新人看護師	11
35	看護部教育委員会	R6.5.10	糖尿病看護について	看護師 柿元明美	新人看護師	11
36	看護部教育委員会	R6.5.10	ローテーション業務について説明	看護師 小島こころ	新人看護師	11
37	看護部教育委員会	R6.5.13、16、20	ダブルバック製剤の調剤見学・実施	薬剤師主任 中山卓	新人看護師	11
38	看護部教育委員会	R6.5.23	呼吸・循環フィジカルアセスメント	鳥取大学医学部附属病院 認定看護師	新人看護師	11
39	看護部教育委員会	R6.5.24	ストレスコントロールをしてレジリエンスを高めよう!	鳥取県看護協会(WEB研修)	新人看護師	11
40	看護部教育委員会	R6.5.29、30、31	腹部フィジカルアセスメント 脳神経系フィジカルアセスメント	鳥取大学医学部附属病院 認定看護師	新人看護師	11
41	看護部教育委員会	R6.6.3	内視鏡検査・治療	看護師副主任 坂田和美	新人看護師	10
42	看護部教育委員会	R6.6.5、19	看護補助者研修 看護補助業務の役割とは	2F病棟師長 藤居貴子	看護助手、 介護福祉士	28
43	看護部教育委員会	R6.6.6	医療機器の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図の取り扱い	臨床工学技士主任 田儀匡史 副主任 物部智也	新人看護師	10
44	看護部教育委員会	R6.6.7	医療機器の取り扱い 人工呼吸器の取り扱い	臨床工学技士主任 田儀匡史 副主任 物部智也	新人看護師	10
45	看護部教育委員会	R6.6.7	褥瘡講義	鳥取大学医学部附属病院 認定看護師	新人看護師	10
46	看護部教育委員会	R6.6.10	摂食嚥下	鳥取大学医学部附属病院 認定看護師	新人看護師	10
47	看護部教育委員会	R6.6.11	退院調整パス～退院支援・退院調整～	看護師主任 川内由理 大森真希子、中原恵美子	新人看護師	10
48	看護部教育委員会	R6.6.11	自分たちの思う看護師像(1年後の自分へ)	看護師 小島こころ	新人看護師	10
49	看護部教育委員会	R6.6.13	ハイリスク薬(麻薬・毒薬)の取り扱い 抗がん剤の取り扱い、緩和ケアについて	薬剤師主任 中山卓 薬剤師 加藤淳一	新人看護師	10
50	看護部教育委員会	R6.6.27、28	褥瘡・ポジショニング・基本動作介助・移乗介助(講義、演習)	鳥取大学医学部附属病院 認定看護師	新人看護師	10
51	看護部教育委員会	R6.7.9	リーダーシップ研修	看護師主任 三島真弓	ラダーⅢ申請者	10
52	看護部教育委員会	R6.7.11	心不全研修	循環器内科主任部長 田中保則 心臓リハビリテーションチーム	全看護職員	65
53	看護部教育委員会	R6.7.17	看護診断(基礎編)看護診断について学ぼう(全体研修参加)	鳥取大学医学部保健学科 野口佳美	新人看護師	10
54	看護部教育委員会	R6.7.26	メンバーシップ研修	看護師副主任 西村大樹	ラダーⅡ申請者	12
55	看護部教育委員会	R6.7～8月頃	訪問看護研修	博愛病院訪問看護ステーション	ラダーⅢ申請者	
56	看護部教育委員会	R6.8.20	医療安全	看護師長(GRM) 山崎博美	新人看護師	9
57	看護部教育委員会	R6.8.20	死後のケア	緩和ケア認定看護師 佐野晴美	新人看護師	9
58	看護部教育委員会	R6.8.20	新人体験学習について説明	看護師 小島こころ	新人看護師	9
59	看護部教育委員会	R6.9.25	前期学びの会	看護師副主任 田中靖子、高橋優菜、松本愛渚、福田智子、矢田貝汀、林田らら、川戸恵里子	全看護職員	33
60	看護部教育委員会	R6.11.20、21	事例学習報告会	発表者14名	ラダーⅡ申請者	92
61	看護部教育委員会	R6.12.17	管理者研修	経営企画室室長 岩井洋	師長、主任、副主任、ラダーⅢ申請者	28
62	看護部教育委員会	R6.12.19	口腔ケア・経口摂取研修会	言語聴覚士副主任 濱田由香理 言語聴覚士 矢野加奈	全看護職員	22
63	看護部教育委員会	R7.1.29、30	新人体験学習発表会	新人看護師	新人看護師	9
64	看護部教育委員会	R7.2.3	訪問看護研修	訪問看護ステーション博愛 師長 渡部明代	新人看護師	10
65	看護部教育委員会	R7.2.18	後期学びの会	看護師 石原賢、生田さやか、山本優子	全看護職員	39
66	薬剤部	R6.8.28 9.1～9.30	第1回医薬品安全管理研修 テーマ:薬剤禁忌登録の登録方法～禁忌登録の質を担保する～	薬剤師 加藤淳一	全職員	142

No.	主催者名	年月日	題 目	講 師	対 象	参加人数
67	リハビリテーション部	R6.7.24	コミュニケーションスキルを磨こう①	法人本部 戦略推進室 係長 本多千鶴	リハビリテーション部職員	40
68	リハビリテーション部	R6.9.2	コミュニケーションスキルを磨こう②	法人本部 戦略推進室 係長 本多千鶴	リハビリテーション部職員	36
69	臨床工学室	R6.4.2	2024年度 BLS研修会	臨床工学技士主任 田儀匡史、 臨床工学技士 二野宮一郎、福田智	新入職員、 中途採用者	
70	臨床工学室	R6.6.28	生体情報用モニタ勉強会	臨床工学技士 福田智	4階B病棟	
71	臨床工学室	R6.7.4、16 8.1、6、9.3	2024年度 BLS研修(コメディカル対象)	臨床工学技士	看護師以外	80
72	臨床工学室	R6.8.5、26、 9.2	2024年度 BLS研修(看護師・准看護師対象)	循環器内科主任部長 田中保則 脳神経内科部長 安井建一、臨床 工学技士	看護師	75
73	臨床工学室	R6.8.5	ビデオ喉頭鏡 ACE SCOPE 操作説明	臨床工学技士主任 田儀匡史	医師、看護師、 臨床工学技士	
74	臨床工学室	R6.8.5	2024年度 MACT研修会	臨床工学技士 福田智	医師、看護師、臨 床工学技士、リハ ビリテーション部、 臨床検査技師	
75	臨床工学室	R6.11.13	NPPV勉強会	臨床工学技士副主任 物部智也	4階B病棟	
76	臨床工学室	R7.1.6	人工呼吸器 NKV330 説明会	臨床工学技士副主任 物部智也	病棟看護師	
77	整形外科チーム	R7.3.6～3.31	骨粗鬆症研修 テーマ:骨粗鬆症に対する知識の共有と FLSの意義について	山陰労災病院 院長 萩野浩	メディカル スタッフ	304
78	緩和ケアチーム	R7.3.6	緩和ケア研修 テーマ:オピオイド鎮痛薬について、痛み の評価とオピオイド治療	薬剤師 大野史織 緩和ケア認定看護師 佐野晴美	メディカル スタッフ	38
79	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.4.3	こどもクリニック全体会:処遇改善・組織 開発について	院長 玉崎章子	クリニック全 職員	
80	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.4.3	こどもクリニック全体会:児童発達支援 ガイドライン	看護師副主任 津村知恵	クリニック全 職員	
81	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.4.18	緊急時対応研修会	看護師 瀬川千春	クリニック看 護師、保育 士、セラピスト	
82	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.5.14	予防接種講習①	看護師 木田さくら	クリニック全 職員看護師	
83	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.6.4	装具の装着注意点や実際の当て方等	理学療法士主任 石原亜紀子	クリニック看護師、 保育士、セラピスト	
84	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.6.13	予防接種講習②	看護師 木田さくら	クリニック全 職員看護師	
85	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.7.2	児童発達支援事業所情報交換会伝達 講習①	保育士 齋藤睦、理学療法士 檜山 耕平	クリニック保育 士、セラピスト	
86	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.9.2	こどもクリニック全体会:生産性向上への 取り組みについて	院長 玉崎章子	クリニック全 職員	
87	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.9.27	ADHDの特性について	作業療法士 杉原典子	クリニック保育 士、セラピスト	
88	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.10.1	児童発達支援事業所情報交換会伝達 講習②	保育士 山崎亜希	クリニック保育 士、セラピスト	
89	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R6.11.12	定型発達について知ろう	院長 玉崎章子	クリニック全 職員	
90	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	R7.1.8	こどもクリニック全体会:自分たちの事業 所を客観的に見てみよう!～事業所の強 みと弱みについて考える～	院長 玉崎章子	クリニック全 職員	

【2】論文紙上发表

No.	著者	共著者	タイトル	誌名	巻	号	始頁～終頁	年	担当部署
4月掲載	杉谷篤	桂川修一、山崎翔太	ステロイドによる精神症状をもつ患者	サイコネフロロジー 診療ガイド (メディカ出版)	2024		90-94		診療部 (腎臓外科)
7月掲載	杉谷篤	柿元明美、西川厚子	腎移植後、透析再導入となったが免疫抑制 療法を継続した2例	中国腎不全研究会誌		32	39-40	2024	診療部 (腎臓外科)
7月掲載	杉谷篤	—	上腕のシャント瘤を切除後、自己静脈で血行再建 できた1例	中国腎不全研究会誌		32	163- 164	2024	診療部 (腎臓外科)
7月掲載	平岡紀代美	杉谷篤、他	ICT/AST活動に関する国立病院機構 19施設におけるアンケート調査報告	医療	78	1	49-53	2024	診療部 (腎臓外科)
12月掲載	小宮山大輔	小泉宇弘、西塚弘一、 山崎厚志、小幡博人	ステロイドの全身投与が著効した小児の急性 涙囊炎の1例	臨床眼科	78	5	599- 602	2024	診療部 (眼科)

No.	著者	共著者	タイトル	誌名	巻	号	始頁~終頁	年	担当部署
12月掲載	Yamasaki Atsushi	Hoshi Futoshi, Yamada Fusae, Tamaru Jun-ichi, Tokuhira Michihide, Obata Hiroto	Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorder with Intraocular Involvement Improved with Intravitreal Methotrexate and Chemotherapy: A Case Report	Case Reports in Ophthalmology	15		807-814	2024	診療部 (眼科)
12月掲載	山崎厚志	—	網膜硝子体疾患に対する硝子体手術と抗VEGF療法	鳥取県西部医師会報		221	56-58	2024	診療部 (眼科)
11月掲載	木村修	—	私のシネマ:お終活 人生、百年時代の過ごし方 熱春!(第1作)、再春!(第2作)	鳥取県医師会報	832		71	2024	ドック健診センター
10月掲載	中村真由美	—	ポジティブマネジメントを実践するために活用した社会学・心理学の考え方	ナースマネジャー	26	7	23-28	2024	看護部 (管理)

[3] 研究会・学会発表 (院外)

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
1	安井翔	山本宗平、松本栄二、堀立明、浜本哲郎、岸本幸廣、鶴原一郎、磯本一	小腸カプセル内視鏡が発見の契機となり急速な進行をきたした小腸平滑筋肉腫の1例	第121回日本消化器病学会中国支部例会	米子市	R6.6.8	診療部 (消化器内科)
2	八島一夫	浜本哲郎、謝花典子、岡田克夫、磯本一	鳥取県大腸がん検診実績の年次推移	第55回日本消化器がん検診学会中国四国地方会	広島市	R6.11.10	診療部 (消化器内科)
3	八島一夫	浜本哲郎、池淵雄一郎、河口剛一郎、磯本一	鳥取県大腸がん検診における精密検査結果の推移	第21回日本消化管学会総会	東京	R7.2.21~22	診療部 (消化器内科)
4	石田智子	足立正、吉田健太郎、竹内裕彦、鈴木有紀、佐桑真悠子、安井建一、花島律子	筋萎縮性側索硬化症とアルツハイマー病に伴うTDP43蓄積が併存したと考えられた86歳 剖検例	第65回日本神経病理学会総会	下関市	R6.5.16~18	診療部 (脳神経内科)
5	足立晶子	安井建一、細田友加、田中靖子、中原朋美	多職種連携でのバイシエントジャーニーマップ作成による患者経験価値(PX)向上への取り組み	第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	福岡市	R6.8.31	診療部 (脳神経内科)、回復期リハビリテーション病棟
6	安井建一	—	2024年度神経難病緩和ケア研修	難病緩和ケア研究会	web開催	R7.2.24、R7.3.2	診療部 (脳神経内科)
7	角賢一	近藤亮、工藤浩史	血性乳頭分泌と微小石灰化のみで腫瘍を形成しない男性非浸潤性乳管癌の一例	第32回日本乳癌学会総会	仙台市	R6.7.11~13	診療部 (外科)
8	角賢一	安宅正幸、竹本大樹、近藤亮、杉谷篤、工藤浩史	乳癌検診にて発見された両側DCISの一例	令和6年度西部地区乳がん症例検討会	米子市	R7.2.19	診療部 (外科)
9	杉谷篤	—	口演:PTA、血栓除去を繰り返したのち、グラフト間置で良好なシャント再建ができた1例	第69回日本透析医学会	パシフィコ横浜	R6.6.6~9	診療部 (腎臓外科)
10	杉谷篤	中村希代志	口演:外科と放射線科で協力して改善できたシャント閉塞の1例	第69回日本透析医学会	パシフィコ横浜	R6.6.6~9	診療部 (腎臓外科)
11	杉谷篤	—	会長:「原点回帰:腎移植の臨床と病理のクロストーク」	移植腎病理研究会 第27回学術集会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	R6.7.20	診療部 (腎臓外科)
12	杉谷篤	—	座長:特別講演「腎臓保存の新知見と虚血再灌流障害の病理所見」	第27回移植腎病理研究会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	R6.7.20	診療部 (腎臓外科)
13	杉谷篤	—	口演:バスキュラーアクセス(VA)困難な血液透析(HD)患者の腹膜透析(PD)導入を経験して	令和6年鳥取医学会	倉吉体育文化会館	R6.7.28	診療部 (腎臓外科)
14	杉谷篤	—	口演:当院における透析アクセス関連手術の概要	令和6年鳥取医学会	倉吉体育文化会館	R6.7.28	診療部 (腎臓外科)
15	杉谷篤	—	座長:腎移植専門医第27回集中プログラム	日本臨床腎移植学会 学術教育委員会	web開催	R6.8.4	診療部 (腎臓外科)
16	杉谷篤	—	講演:透析アミロイド症と腎性貧血について	扶桑薬品 社内研修会	米子コンベンションセンター	R6.8.22	診療部 (腎臓外科)
17	杉谷篤	—	口演:本邦初の脳死下腎同時移植 (SPK) から24年経過したレシピエントの現状	第41回中国四国臨床臓器移植研究会	米子コンベンションセンター	R6.8.24	診療部 (腎臓外科)
18	杉谷篤	—	口演:鳥取県内で発生した心停止ドナーから2例同時献腎移植後、7年9か月経過した患者の現状	第41回中国四国臨床臓器移植研究会	米子コンベンションセンター	R6.8.24	診療部 (腎臓外科)
19	木村修	工藤浩史、鶴原一郎	ドック受診者における夫婦間のHelikobacter pylori感染に関する検討	第65回日本人間ドック・予防医療学会学術大会	パシフィコ横浜 会議センター	R6.9.6	ドック健診センター
20	大谷聡子	—	当院での糖尿病患者の化学療法時のマネジメントについて	鳥取県西部糖尿病療養指導研究会	米子市	R6.6.8	薬剤部
21	本村映人	安井建一、中山卓、大谷聡子、加藤淳一、砂川貴、植上真聖、大野史織、福富阿子、森近李加子、足立晶子	ホスレボドバ/ホスカルビドバ配合持続皮下注導入時の薬剤師の関わり	第29回鳥取県医療薬学セミナー	米子コンベンションセンター 第7会議室	R6.12.8	薬剤部
22	福富阿子	加藤淳一、近藤亮、櫻井晶子、中山卓	トラスツマブ・ヘルツマブ点滴製剤から皮下注製剤への切り替えによる輸液制限がQOL改善に貢献した一症例	第33回鳥取県乳腺疾患研究会	鳥取県立倉吉体育文化会館	R7.3.1	薬剤部
23	加藤淳一	中山卓、大野史織、矢倉征道、佐野晴美、渡部明代	ビジネスチャットアプリLINE WORKSを利用した在宅利用連携の取り組み	第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコロジ学会総会合同学術大会	神戸コンベンションセンター	R6.6.14~15	薬剤部、情報システム管理室、訪問看護ステーション、緩和ケアチーム

No.	演者	共同発表者	タイトル	学会名	場所	年月日	担当部署
24	田中靖子	佐近みどり、中原恵美子、細田友加、 往西優、中尾浩之、岩本朋美、 越野美晴、足立晶子	多職種連携による患者経験価値(PX)向上の取 り組みーベシエントジャーニーマップを利用してー	第20回日本医療マネジメント 学会鳥取県支部学術集会	とりぎん 文化会館	R6.9.7	看護部
25	松重智大	ー	バスキュラーアクセス管理についての臨床検査技師 の役割	大韓臨床病理士総合学術 大会 国際カンファレンス	仁川ソンド コンベンシア	R6.8.31	臨床検査部
26	松重智大	岡本みゆき、杉村香奈、 松本侑樹、福井雪乃、乗 本菜奈子、先瀬浩功	VAIVTにおけるエコー補助の取り組み	令和6年度日臨技中四国 支部医学検査学会(第57 回)	とりぎん 文化会館	R6.11.3	臨床検査部
27	杉村香奈	岡本みゆき、杉村香奈、 松本侑樹、福井雪乃、乗 本菜奈子、先瀬浩功	超音波検査にて観察し得たユーイング肉腫の 一例	令和6年度日臨技中四国支 部医学検査学会(第57回)	とりぎん 文化会館	R6.11.3	臨床検査部
28	松本侑樹	岡本みゆき、杉村香奈、松 本侑樹、福井雪乃、乗本菜 奈子、先瀬浩功、杉谷篤	腎臓移植後の尿管ステント遺残の一例	令和6年度日臨技中四国支 部医学検査学会(第57回)	とりぎん 文化会館	R6.11.3	臨床検査部
29	大太好恵	ー	臨床検査技師としての isCGM使用患者との関わり方	第41回鳥取県西部糖尿病 療養指導研究会	ふれあいの 里	R6.12.14	臨床検査部
30	池嶋道夫	矢倉征道	線量管理ソフトによる 診断透視線量管理の実際	日本放射線技術学会 中国・四 国支部 第25回夏季学術大会	岡山大学 鹿田キャンパス	R6.7.7	診療放射線部
31	白石誉之	ー	MR enterographyについて	第21回Tottori BIRT Meeting	鳥取県立厚 生病院&Web	R6.8.17	診療放射線部
32	矢倉征道 (座長)	ー	放射線管理(被ばく)	第20回中四国放射線医療技術 フォーラム	岡山コンベン ションセンター ママカ リフォーラム	R6.10.19	診療放射線部
33	山澤学志	ー	当院の手術支援画像について	第7回山陰なかよし勉強会	博愛病院	R6.10.5	診療放射線部
34	菊池浩二	ー	当院の施設紹介	第30回山陰アンギオ研究会	鳥取大学医学 部附属病院	R6.10.12	診療放射線部
35	矢倉征道	ー	講演:ヘルスケアプラットフォームを活用した画 像連携の在り方	第14回山陰文化圏医療情報 技術研究会	鳥取大学医学 部附属病院	R6.12.21	診療放射線部・情 報システム管理室
36	矢倉征道	ー	一般演題 座長	第14回山陰文化圏医療情報 技術研究会	鳥取大学医学 部附属病院	R6.12.21	診療放射線部・情 報システム管理室
37	山澤学志	ー	無痛性胸部大動脈解離に合併した早期脳梗 塞の一例	鳥取県診療放射線技師会 令和6年度 第1回東中西部 合同地区研修会	web開催	R7.3.6	診療放射線部
38	白石誉之 (座長)	ー	整形領域のCT・MRI検査	第22回 Tottori BIRT Meeting	web開催	R7.2.20	診療放射線部
39	矢倉征道 (座長)	ー	一般演題	第35回日本医療情報学会 中国・四国支部セミナー (併催:第15回山陰文化圏医療情報技術研究会)	鳥取大学医学 部附属病院	R7.3.8	診療放射線部・情 報システム管理室
40	中河真吾	酒井寧々	学校保健分野における鳥取県理学療法士会の取り組 みー児童に対する投動作トレーニング効果の検証ー	第37回中国ブロック理学療法士 学会	米子コンベン ションセンター	R6.9.7~8	リハビリテー ション部
41	往西優、門 脇彩	足立晶子(座長)、廣江理 沙(座長)、宮崎美穂子、 荒本成那	経口摂取への移行と移乗動作の改善で自宅 退院が可能となった重症視床出血の1例	第33回鳥取県西部脳卒中 シームレス会議	鳥取大学 医学部	R7.2.19	回復期リハビリテ ーション病棟、訪問リハ ビリテーション博愛
42	岩本朋美、 内田貴基	ー	KTバランスチャートを活用した摂食嚥下障害へ のアプローチ	第33回鳥取県西部脳卒中 シームレス会議	鳥取大学 医学部	R7.2.19	リハビリテーション部 回復期リハビリテ ーション病棟
43	門脇彩	荒本成那	経口摂取への移行と移乗動作の改善で自宅 退院が可能となった重症視床出血の1例	第33回鳥取県西部脳卒中 シームレス会議	鳥取大学 医学部	R7.2.19	訪問リハビリ テーション博愛
44	本多千鶴	ー	患者に寄り添う医療とは何か? ー精神科のない病院にできることー	第37回日本総合病院精神医学会総会 ランチョンセミナー	熊本城 ホール	R6.11.30	法人本部経営統 括部戦略推進室

[4] 講演会実績(院外からの委託分)

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
1	浜本哲郎	鳥取県福祉保健部健康 医療局健康対策課	大腸がん検診の現況～精検未受診者の 問題を中心に～	R6.12.19	診療部(消化器内科)	鳥取県内各市町村及び保健所の担当者等を対象とし た、肝臓がん及び大腸がん対策に関する研修会
2	浜本哲郎	鳥取県西部医師会消化 管研究会	大腸がん検診の精検受診率向上を 目指して	R7.3.25	診療部(消化器内科)	
3	藤岡洋平	安来医師会	サクビトリル/バルサルタンを使用した 2型糖尿病を合併した高血圧の一例	R6.4.18	診療部(糖尿病内科)	
4	藤岡洋平	興和株式会社	2型糖尿病と高中性脂肪血症・ペマ フィブラート徐放錠の臨床成績・	R6.7.5	診療部(糖尿病内科)	
5	藤岡洋平	道後医師会	高中性脂肪血症と脂肪肝	R6.7.23	診療部(糖尿病内科)	
6	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	2型糖尿病における早期からの治 療強化の有用性	R6.9.3	診療部(糖尿病内科)	
7	藤岡洋平	大塚製薬株式会社	血圧管理で繋がるMulti Medical Expert Seminar	R6.10.22	診療部(糖尿病内科)	
8	藤岡洋平	住友ファーマ株式会社	2型糖尿病における早期からの治 療強化の有効性	R6.11.15	診療部(糖尿病内科)	

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
9	藤岡洋平	鳥取県医師会	鳥取県糖尿病療養指導士受験資格取得のための講習会	R6.11.24	診療部(糖尿病内科)	
10	藤岡洋平	鳥取県西部糖尿病療養指導研究会	糖尿病診療に役立つ豆知識	R6.12.14	診療部(糖尿病内科)	
11	藤岡洋平	日本イーライリリー株式会社	進化した2型糖尿病治療GIP・GLP1受容体作動薬治療の実践	R7.2.14	診療部(糖尿病内科)	
12	藤岡洋平	鳥取県東部医師会	2型糖尿病と高中性脂肪血症	R7.3.6	診療部(糖尿病内科)	
13	藤岡洋平	日本イーライリリー株式会社	進化した2型糖尿病治療GIP・GLP1受容体作動薬治療の実践	R7.3.7	診療部(糖尿病内科)	
14	安井建一 (パネリスト)	アッヴィ合同会社	DAT診療 Update Seminar in 鳥取 ディスカッション「個々の症例に適切なDAT療法を考える」	R6.6.14	診療部(脳神経内科)	ANAクラウンプラザホテル米子
15	安井建一 (パネリスト)	興和株式会社	認知症フォーラム in 米子 ディスカッション「認知症治療の新たな選択肢を考える～新規添付剤の使い方～」	R6.8.30	診療部(脳神経内科)	ANAクラウンプラザホテル米子
16	安井建一 (座長)	米子市市民公開講座	外科医からみたパーキンソン病とは～パーキンソン病の治療法と治療後について～	R6.9.28	診療部(脳神経内科)	米子市福祉保健総合センター
17	足立晶子、 安井建一	米子医療センター附属看護学校	疾病論Ⅳ 脳神経(計7回)	足立R6.9.24、10.1、 10.8、10.15 安井R6.10.22、 10.29、11.5	診療部(脳神経内科)	
18	安井建一	鳥取大学医学部医学科	臨床神経学講義 パーキンソン病	R6.12.23	診療部(脳神経内科)	鳥取大学医学部医学科3年
19	安井建一	鳥取県薬剤師会	アドバンスケアプランニング(ACP)に関わるために	R7.2.13	診療部(脳神経内科)	令和6年度鳥取県薬剤師会在宅医療介護勉強会
20	杉谷篤	鳥居薬品研修会	腎移植、移植後F/Uと薬剤、腎性貧血	R6.6.18	診療部(腎臓外科)	米子市・国際ファミリープラザ
21	杉谷篤	第10回腎臓病患者の交流研修会	講演:元気に透析生活をおくるために～高齢化に向けて～	R6.11.10	診療部(腎臓外科)	鳥取県腎友会(ふれあいの里)
22	小松恵子	鳥取県西部医師会	一般公開健康講座 「身近な目の病気～緑内障について～」	R6.7.18	診療部(眼科)	米子市文化ホール
23	中山卓	鳥取県薬剤師会・鳥取県病院薬剤師会	令和6年能登地震 派遣薬剤師報告会	R6.5.9	薬剤部	
24	中山卓	鳥取県薬剤師会 公衆衛生委員会	AMR対策における経口抗菌薬の適正使用について	R7.2.20	薬剤部	
25	矢倉綾子、 荒濱敬信	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」	R6.7.14	看護部(4A、2F)	実技研修講師
26	大太好恵	NPO法人中海エリア糖尿病療養研究会機構	糖尿病治療支援の知識と実践 臨床検査技師の立場から	R6.7.11	臨床検査部	
27	先瀬浩功 (司会)	令和6年度日臨技中四国支部医学検査学会(第57回)	ラインケアに生かす働き方の5つのタイプとその見分け方	R6.11.3	臨床検査部	島根大学 人間科学部 人間科学科 教授 高橋悟
28	吾郷秀吉	鳥取県西部医師会 西部地区心不全地域連携バス推進委員会	令和6年度心不全地域連携バス研修会 「心不全の運動療法-フレイル予防の視点から-」	R6.11.15	リハビリテーション部	
29	田原由紀子	介護老人保健施設 やわらぎ	今日から行う感染対策 ～介護老人保健施設やわらぎにおける感染対策～	R6.6.17	感染対策室	
30	田原由紀子	介護老人保健施設 ゆうとぴあ	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る実地指導	R6.7.18	感染対策室	実地指導
31	田原由紀子	医療法人・社会福祉法人 真誠会	今日から行う感染対策 ～介護施設等における感染対策～	R6.8.26	感染対策室	
32	田原由紀子	養護老人ホーム 皆生エスポワール	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る実地指導	R6.9.11	感染対策室	実地指導
33	田原由紀子	介護老人保健施設 弓浜ゆうとぴあ	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る実地指導	R6.10.3	感染対策室	実地指導
34	田原由紀子	特別養護老人ホーム ピースポート	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る実地指導	R6.10.21	感染対策室	実地指導
35	田原由紀子	介護老人保健施設 やわらぎ	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る実地指導	R7.1.7、2.20	感染対策室	実地指導
36	田原由紀子	鳥取県薬剤師会	調剤薬局における感染症患者への感染対策について	R7.2.20	感染対策室	令和6年度感染対策研修会
37	田原由紀子	やすぎ博愛クリニック	やはり大事な手指衛生～手指消毒の手順を学ぼう～	R7.3.18	感染対策室	
38	門脇智尋 (パネリスト)	鳥取大学医学部附属病院 在宅医療推進支援室	第14回T-HOC特別セミナー	R6.9.28	訪問看護ステーション博愛	
39	石橋佐智子	鳥取県看護協会 在宅支援センター	小児訪問看護	R6.12.18	訪問看護ステーション博愛	訪問看護師養成研修 講師
40	石橋佐智子	鳥取大学医学部附属病院	在宅における報酬体系	R7.1.30	訪問看護ステーション博愛	T-HOC 講師
41	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養研究会機構	患者の訴えを引き出す栄養相談	R6.8.8	法人本部経営統括部 戦略推進室	令和6年度糖尿病治療支援勉強会
42	本多千鶴	鳥取県医師会	糖尿病の食事療法	R6.9.8	法人本部経営統括部 戦略推進室	鳥取県糖尿病療養指導士試験受験資格取得のための講習会

No.	講師	主催者名	題目	年月日	部署	備考
43	本多千鶴	NPO法人中海エリア糖尿病療養機構	結果▲希望○につなげる治療支援を目指して	R7.3.2	法人本部経営統括部 戦略推進室	第18回臨床糖尿病セミナーミニレクチャー
44	玉崎章子	フクダライフテック中国	愛媛県在宅人工呼吸セミナー「こどもの暮らしの中での呼吸管理」	R6.5.18	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	
45	玉崎章子	鳥取県看護協会	[インテンブコース]乳幼児期の在宅支援	R6.5.26	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	
46	玉崎章子	鳥取県看護協会	インテンブコース(就学時の支援と学校での医療的ケア・ 日中の活動の場と身体合併症の管理について考える)	R6.6.23	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	
47	玉崎章子	大塚製薬	こどもの地域生活支援	R6.6.28	博愛こども発達・在宅 支援クリニック	
48	鬼木徳子	鳥取県作業療法士会	令和6年度第2回生活行為向上 マネジメント研修会 基礎研修会	R6.9.1	やわらぎリハビリ テーション部	概論の講師を担当
49	鬼木徳子	鳥取県作業療法士会	令和6年度現職者選択研修会 「地域生活を支援する」	R6.12.14	やわらぎリハビリ テーション部	講師を担当

[5]メディア掲載実績

No.	氏名	分類	主催者名	タイトル	日時	担当部署
1	小松恵子	TV出演	中海テレビ放送	健康ぶらざ「緑内障」	R6.7.27	診療部(眼科)
2	吾郷秀吉	新聞掲載、メディア	日本海新聞、中海テレビ	鳥取県立境港総合技術高等学校 社会人講師 「リハビリテーションの実践について」	R6.10.31	リハビリテーション部
3	本多千鶴	鳥取県臨床心理士会 ニュースレター	鳥取県臨床心理士会	それぞれの現場から	2025年 3月号	法人本部経営統括部 戦略推進室

[6]地域貢献の実績

おしかけ出前講座実績

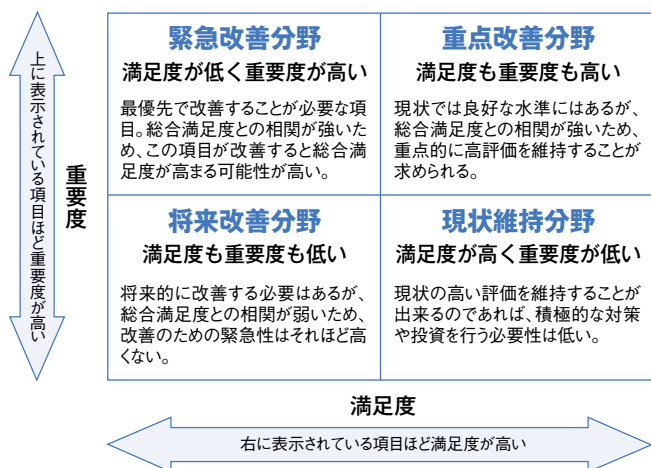
No.	講座開催日	注文先	講座タイトル	部署	職種	講師名	人数名
1	R6.4.4	ふくよね博愛クリニック	血管の老化(動脈硬化)の予防 ～運動を習慣化しよう!～	リハビリテーション部	リハビリテーション部技師長 理学療法士	吾郷秀吉	8
2	R6.6.24	河崎公民館	気になる認知症の話	脳神経内科	副院長 脳神経内科主任部長	足立晶子	26
3	R6.6.27	ふくよね博愛クリニック	知っておきたい「くすり」の話 ～大切な薬と上手に付き合うために～	薬剤部	薬剤師主任	中山 卓	5
4	R6.7.18	福米西公民館	嚥下機能について	リハビリテーション部	言語聴覚士	矢野加奈、 本田大輝	29
5	R6.9.27	ふくよね博愛クリニック	自宅でもできる肩こり対策	リハビリテーション部	理学療法士	桑村龍司	9
6	R6.10.15	福生東公民館	嚥下機能について	リハビリテーション部	言語聴覚士	本田大輝、 矢野加奈	32
7	R6.10.17	はまだんカフェ浜河崎自治会館	がんになりやすい人、なりにくい人	ドック健診センター	ドック健診センター長 外科部長	木村 修	19
8	R7.1.20	加茂地区保健推進委員	高齢者のメンタルヘルス	法人本部戦略推進室	戦略推進室係長 臨床心理師	本多千鶴	16
9	R7.2.17	米子瓦斯株式会社	血管の老化(動脈硬化)の予防 ～運動を習慣化しよう!～	リハビリテーション部	リハビリテーション部技師長 理学療法士	吾郷秀吉	17

満足度調査集計方法

ポートフォリオ分析

(患者満足度調査・開業医満足度調査・職員満足度調査)

項目別満足度と総合満足度から、重点改善項目を抽出する分析法。総合評価満足度と項目別満足度との相関係数を縦軸、項目別満足度を横軸にとり、各項目をプロットして重点的に改善すべき項目を明らかにする。



外来・入院・透析患者満足度調査実施報告

【実施期間】

【外来】令和6年11月11日～11月15日(月～金の午前中 5日間)

333件

【入院】令和6年11月5日～12月25日 110件

【透析】令和6年11月5日～11月30日 25件

【実施方法】

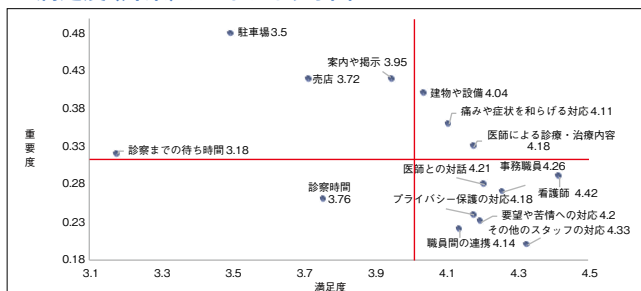
バインダーにアンケート用紙を挟み、外来・入院および透析中の患者さんに、アンケートの主旨と記入要項等を説明し、無記名方式で回答していただいた。

【目的】

患者さんの声を分析し、今後のより良い病院運営と診療サービスの充実に努めるため

患者満足度アンケート＜外来＞

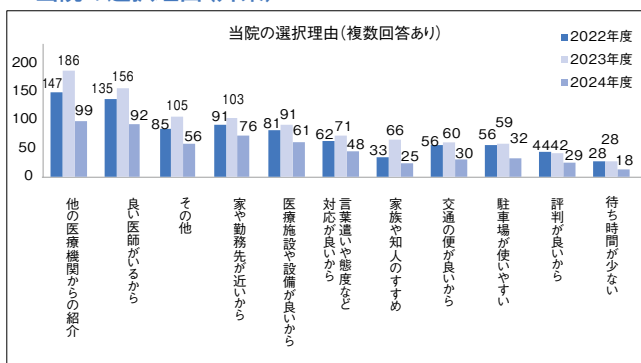
1.満足度(外来)ポートフォリオ図



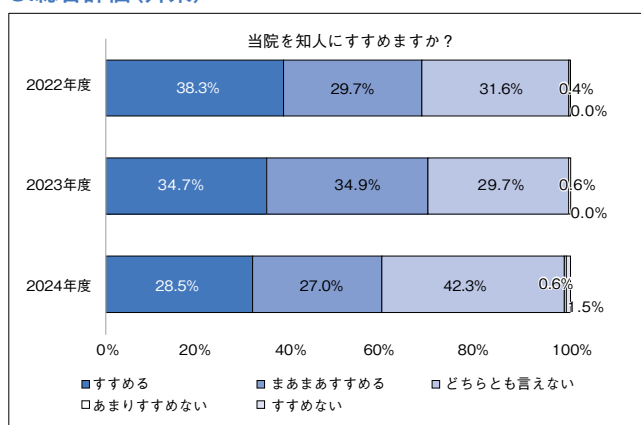
【結果】

平均値より高評価の上位は2023年度と同じく「看護師」「その他スタッフの対応」「事務職員」の3項目でした。低評価の項目もほぼ同じく「診療までの待ち時間」「駐車場」「売店」「診察時間」となりました。また2024年度大幅にアップした項目は特になく、それぞれが微増の傾向となりました。ポートフォリオ分析から緊急改善分野として「診療までの待ち時間」「駐車場」「売店」「案内や掲示」があがり、将来改善分野に「診察時間」があがりました。右上「建物や設備」は重点維持分野にあげましたが、重要度が高く満足度はやや低いため、改善の必要があります。

2.当院の選択理由(外来)

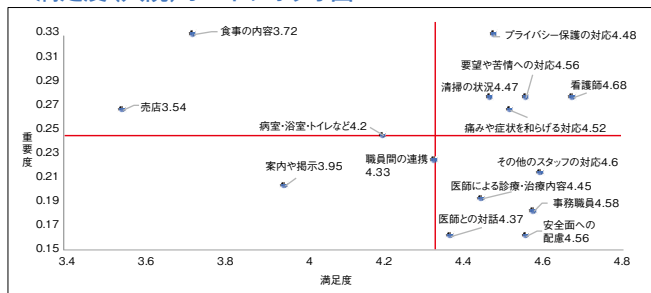


3.総合評価(外来)



患者満足度アンケート<入院>

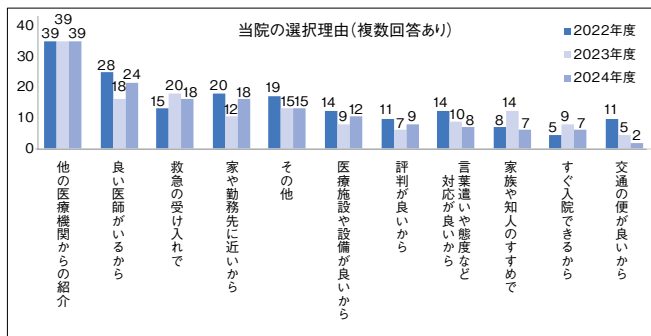
1.満足度(入院)ポートフォリオ図



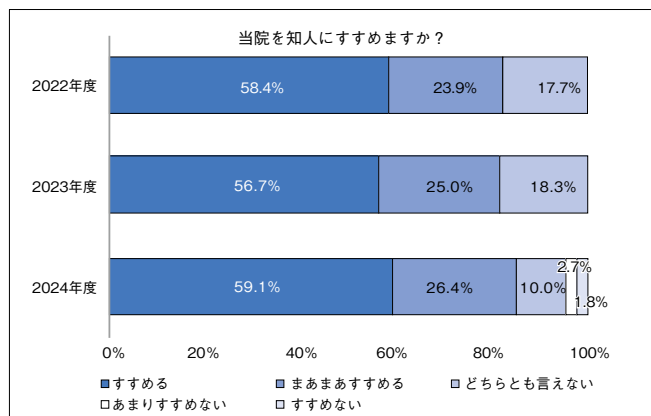
【結果】

高評価が多く、満足度は、「看護師」「その他スタッフの対応」「事務職員」「安全面の配慮」「要望や苦情への対応」順で高かった。反対に満足度が低かった項目は、「売店」「食事の内容」「案内や掲示」の順となった。緊急改善分野の優先度が一番高い項目は、「売店」で、次に「食事の内容」「病室・浴室・トイレなど」の順となった。将来改善分野に「案内や掲示」があり、その他の項目は満足度平均も高く、重点維持分野、現状維持分野に属する結果となった。

2.当院の選択理由(入院)

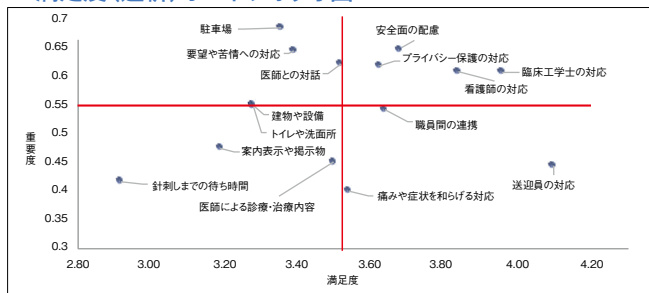


3.総合評価(入院)



患者満足度アンケート<透析>

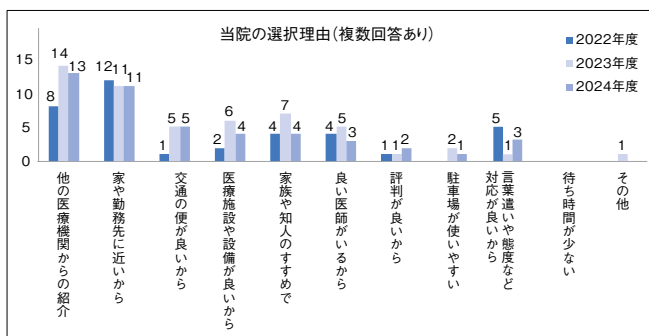
1.満足度(透析)ポートフォリオ図



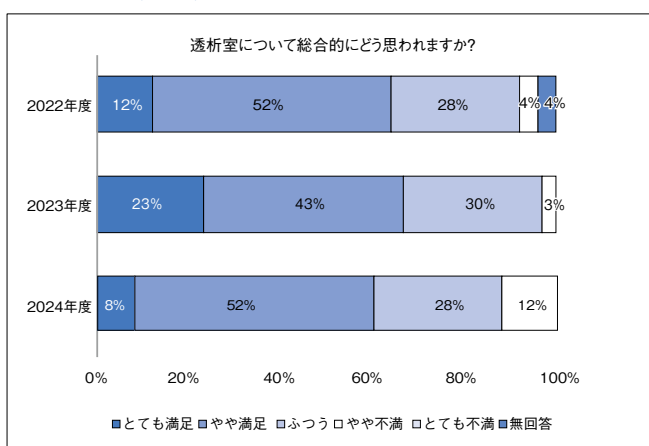
【結果】

満足度は、「送迎員の対応」が一番高く、「臨床工学技士の対応」「看護師の対応」の順で満足度が高かった。緊急改善分野は「駐車場」「要望や苦情への対応」「医師との対話」の項目があがった。将来改善分野は「針刺しまでの待ち時間」「案内表示や掲示物」「医師による診療・治療内容」の3項目と緊急改善分野と将来改善分野の間に「建物や設備」「トイレや洗面所」の項目があがった。2024年度総合評価の満足度割合は例年に対し60%とあまり差はなかったが、不満割合が12%となり増加したことで全体的に評価を下げた。

2.当院の選択理由(透析)



3.総合評価(透析)



2025年度 開業医満足度調査結果報

【実施期間】

令和7年5月中旬～6月中旬

【対象者】

西部地区開業医

【実施方法】

アンケート用紙を郵送し、返信用封筒にて返信、またはWEBフォームで回答

【目的】

開業医の皆様から率直なご意見をいただき、地域の先生方と患者さんに満足して頂ける病院となるために、今後のより良い病診連携につなげる。

【配布枚数】

185枚

【回収枚数(回収率)】

102枚(55%)

【設問内容】

①博愛病院の広報内容(年誌博愛便・季刊free magazine博愛すまいるん・ホームページ等)は、情報源として活用しやすいと思いますか?

思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

以下設問(②～⑨)は、博愛病院にご紹介等の経験がある方のみ、お答えください。

②博愛病院は患者さんを紹介しやすいと思いますか?

思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

③救急時・時間外の受け入れ体制はいかがですか?

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

④職員の電話対応はいかがですか?

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑤地域連携室の対応はいかがですか?

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑥紹介された患者さんへの診療内容はいかがですか?

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑦返書や診療情報提供書(検査結果等の添付資料を含む)の内容はいかがですか?

満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑧博愛病院を受診された患者さんの反応はいかがですか?

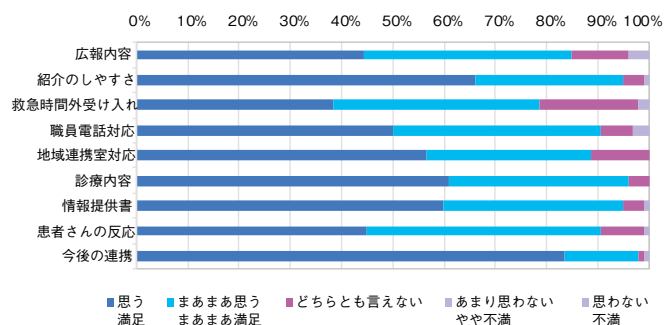
満足・まあまあ満足・どちらとも言えない・やや不満・不満
(ご意見:)

⑨博愛病院との連携を続けたいと思いますか?

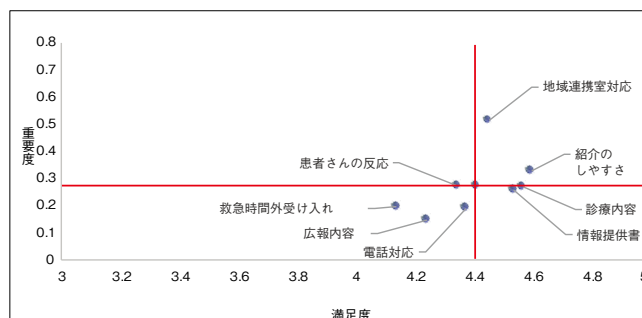
思う・まあまあ思う・どちらとも言えない・あまり思わない・思わない
(ご意見:)

⑩博愛病院に希望されることを記載してください。

【結果①】満足度



【結果②】ポートフォリオ分析



【結果③】フリーコメント内訳

項目	良いところ	良くないところ
広報内容	0	0
紹介しやすさ	0	1
救急時間外の受け入れ	2	2
電話対応	0	3
地域連携室対応	3	0
診療内容	1	2
診療情報提供書	1	4
患者さんの反応	2	2
今後の連携・その他	7	0

開業医の皆様より、貴重なご意見をいただきました。病院執行部会が中心となり、関係部署とともに改善に努めてまいります。

2024年度 職員満足度調査実施報告

【実施期間】

令和6年10月1日(火)～11月10日(日)

【対象者】

令和6年10月1日時点で同愛会に就業している全職員
(正規職員・嘱託職員・短時間職員)
(長期欠勤者・派遣・出向職員・外部委託業者は除く)

【実施方法】

日本医療機能評価機構 病院機能評価事業支援システムの利用

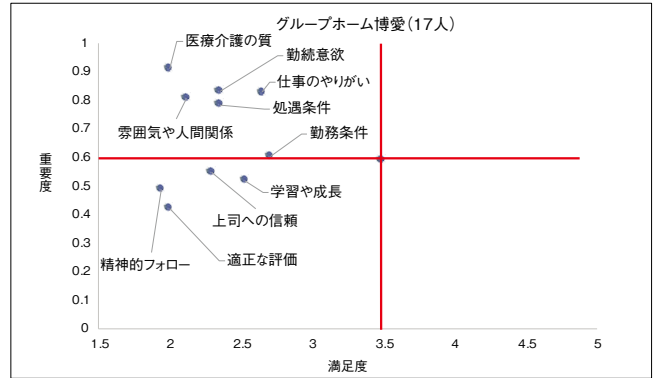
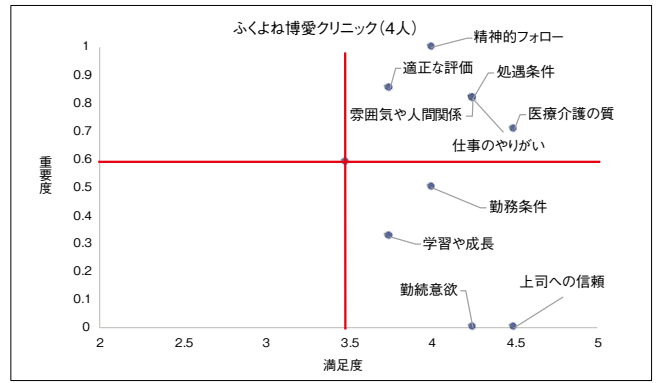
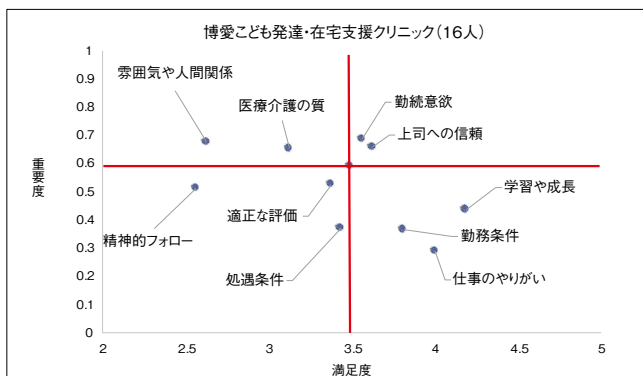
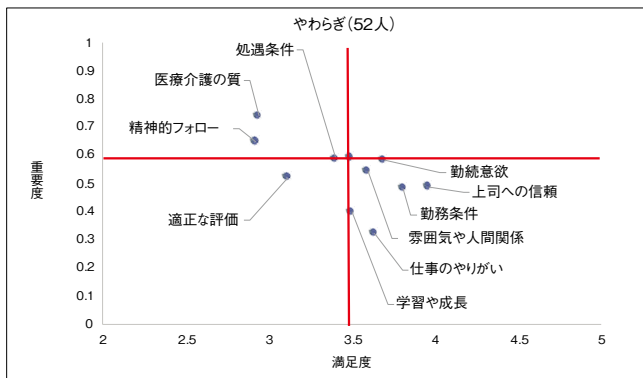
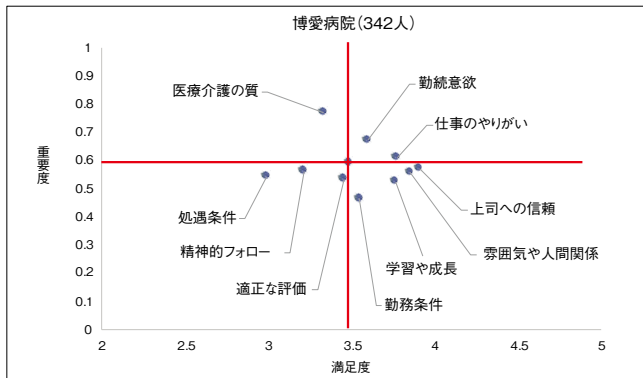
【目的】

組織の強みと弱み、職員のモチベーションの状況を可視化するほか、職員の声(自由記述の内容)を分析することで、提供される医療の質を高める糸口となり、今後のより良い組織づくりにつなげるため

【回答数(回答率)】

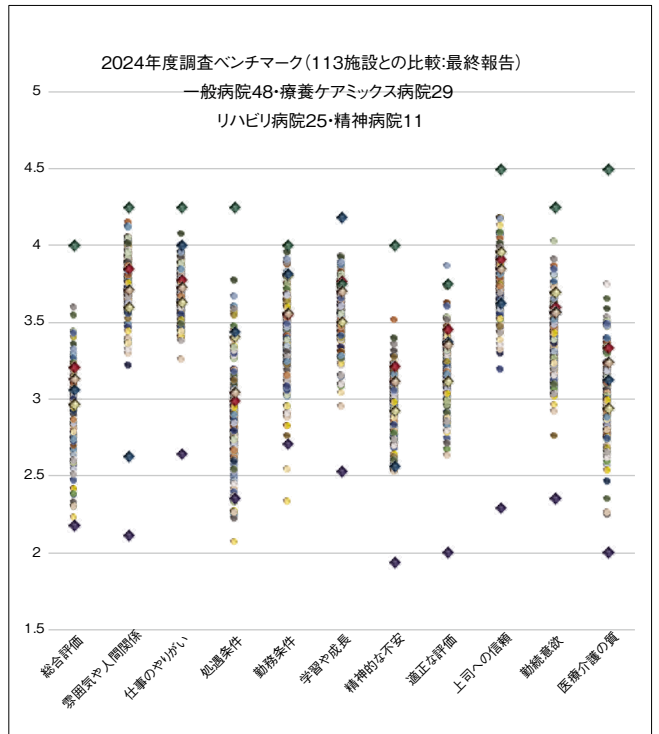
431人(79%)

【施設別ポートフォリオ分析】



【日本医療機能評価機構ベンチマーク比較】

◆ 博愛病院 ◆ やわらぎ ◆ 博愛こども ◆ ふくよね博愛 ◆ 同愛会



2024年度	総合評価	雰囲気や人間関係	仕事のやりがい	処遇条件	勤務条件	学習や成長	精神的な不安	適正な評価	上司への信頼	勤務意欲	医療介護の質
博愛病院	3.20	3.85	3.77	2.99	3.55	3.77	3.22	3.46	3.91	3.60	3.33
やわらぎ	2.96	3.60	3.63	3.40	3.81	3.50	2.92	3.12	3.96	3.69	2.94
こどもクリニック	3.06	2.63	4.00	3.44	3.81	4.19	2.56	3.38	3.63	3.56	3.13
ふくよね博愛クリニック	4.00	4.25	4.25	4.25	4.00	3.75	4.00	3.75	4.50	4.25	4.50
グループホーム	2.18	2.12	2.65	2.35	2.71	2.53	1.94	2.00	2.29	2.35	2.00
同愛会	3.13	3.71	3.73	3.04	3.56	3.70	3.11	3.36	3.85	3.57	3.24

広報物紹介

WEB 随時情報を更新しています

社会医療法人同愛会

<https://www.doaikai.jp/>



HP

ふくよね博愛クリニック

<https://fukuyone.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック

介護老人保健施設やわらぎ

<https://yawaragi.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック



インスタグラム



X

博愛病院

<https://hakuai.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック

博愛こども発達・在宅支援クリニック

<https://kodomo.doaikai.jp/>



HP



フェイスブック



インスタグラム

医療支援型グループホーム博愛

<https://g-home-h.doaikai.jp/>

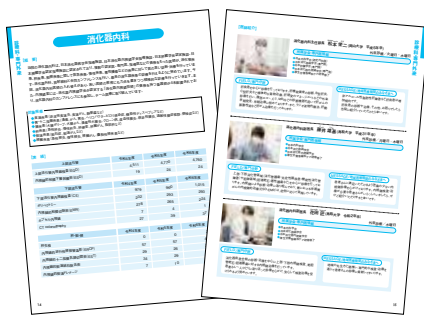


HP

広報誌等

社会医療法人同愛会

年誌 博愛便



発行: 年1回発行
発行部数: 650部
対象: 医療・福祉・行政等

博愛病院



院外広報誌 博愛すまいるん



院内広報誌 博愛かるがもニュース

介護老人保健施設やわらぎ



広報誌 しおかぜだより

発行: 年4回(春号、夏号、秋号、新年号)
発行部数: 3,500部/回
対象: 地域のみなさま

発行: 毎月定期発行
対象: 院内職員

発行: 年4回
(春号、夏号、秋号、冬号)
発行部数: 500部/回

財務概況

同愛会貸借対照表（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

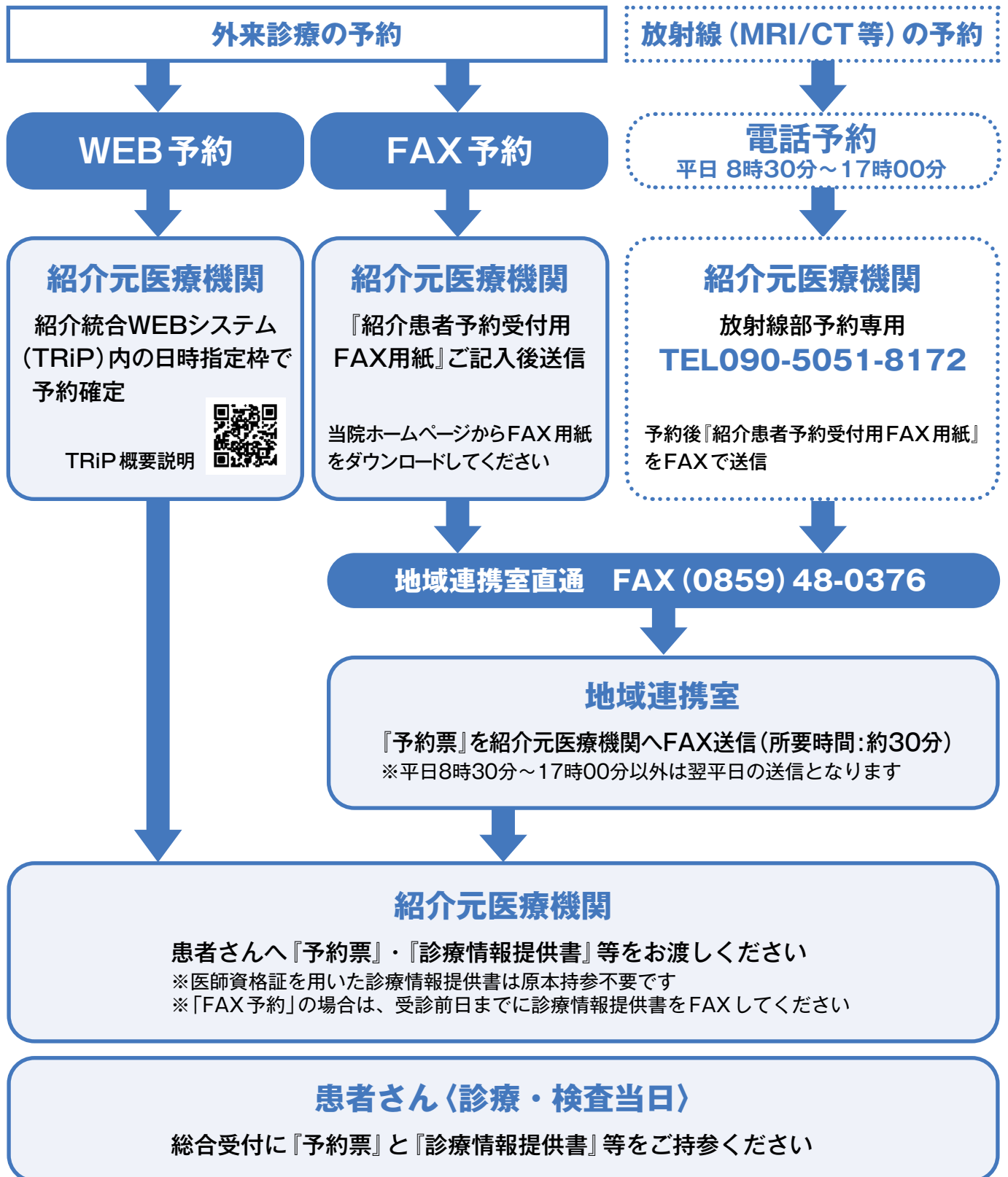
資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流 動 資 産	1,009,111	I 流 動 負 債	1,374,850
現金及び預金	114,516	買 掛 金	159,240
事業未収金	856,891	短期借入金	700,000
たな卸資産	17,048	1年内返済長期借入金	218,662
前払費用	24,943	未 払 金	77,544
その他の流動資産	1,353	未 払 費 用	58,868
貸倒引当金	△ 5,643	未払い法人税等	165
II 固 定 資 産	3,202,392	預 り 金	46,212
1 有形固定資産	3,093,172	賞与引当金	106,481
建 物	2,094,514	その他の流動負債	7,675
構 築 物	62,031	II 固 定 負 債	2,774,650
医療用器械備品	289,507	長期借入金	1,979,651
その他の器械備品	47,309	預り保証金	69,360
車両及び船舶	1,890	退職給付引当金	715,989
土 地	587,880	役員退職慰労引当金	9,650
その他の有形固定資産	10,038		
2 無形固定資産	96,943		
ソフトウェア	95,366	負 債 合 計	4,149,501
その他の無形固定資産	1,576	純 資 産 の 部	
3 その他の資産	12,277	科 目	金 額
出 資 金	21	I 積 立 金	62,001
敷金及び保証金	2,779	設立等積立金	1,000,000
長期前払費用	8,913	圧縮積立金	93,529
長期貸付金	10,445	繰越利益積立金	△ 1,031,527
返還免除引当金	△ 9,881	純 資 産 合 計	62,001
資 産 合 計	4,211,503	負 債 ・ 純 資 産 合 計	4,211,503

同愛会 損益計算書（令和4年度から令和6年度）

（単位：千円）

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医業収益	5,451,568	5,068,466	5,199,368
病院収益	4,618,970	4,177,021	4,244,619
施設運営事業収益	832,598	891,444	954,749
医業費用	5,283,031	5,388,157	5,512,294
人件費	2,993,781	3,146,429	3,224,949
材料費	925,568	867,876	882,206
経費	1,005,854	1,001,078	1,021,397
研究研修費	9,272	11,103	11,131
減価償却費	348,398	361,836	370,925
その他	158	△ 165	1,687
医業利益	168,537	△ 319,691	△ 312,926
医業外収益	92,697	169,405	149,874
受取利息配当金	3	48	80
その他	92,694	169,357	149,793
医業外費用	35,247	28,311	38,466
支払利息	29,585	27,017	36,179
その他	5,662	1,294	2,287
経常利益	225,987	△ 178,597	△ 201,518
特別利益	—	—	—
固定資産売却益	—	—	—
特別損失	113,948	52,287	93,675
退職給与引当金繰入	43,400	43,400	43,400
固定資産除却損	51,297	8,886	48,655
その他	19,250	—	1,619
税引前当期純利益	112,039	△ 230,884	△ 295,193
法人税及住民税	3,294	601	165
当期純利益	108,746	△ 231,485	△ 295,358

予約について[外来診療・放射線科検査]



セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオン外来は、完全予約制のため、地域連携室にご連絡ください

お問い合わせ／患者支援部 地域連携室：TEL (0859) 48-0377

博愛病院 外来診療担当医師 一覧表

令和7年7月1日現在

診療科目			月	火	水	木	金
内 科	午 前	1 診 (循環器内科)	ペースメーカー外来 田中 保則	田中 保則	井川 剛	田中 保則	井川 剛
		2 診 (消化器内科)	藤井 雄基	浜本 哲郎	花田 匠	藤井 雄基	浜本 哲郎
		3 診 (脳神経内科)	足立 晶子	●鳥取大学医師 (診療:9時~)	足立 晶子	安井 建一	安井 建一
		4 診 (肝臓内科)		松本 栄二	堀 立明	松本 栄二	堀 立明
		5 診 (糖尿病内科・内分泌内科)	藤岡 洋平	竹内 龍男	藤岡 洋平	竹内 龍男	藤岡 洋平
		6 診 (呼吸器内科)	山本 司生	●鳥取大学医師 (診療:9時~)	西井 静香	山本 司生	西井 静香
		7 診	富田 桂公 (アレルギー疾患内科)		重白 啓司 (総合診療内科)	富田 桂公 (アレルギー疾患内科)	重白 啓司 (総合診療内科)
		8 診	岸本 幸廣 (消化器内科)			●鳥取大学医師 (総合診療内科・血液内科) (第1・第3・第5) (診療:9時~)	岸本 幸廣 (消化器内科)
		禁 煙	重白/山本/西井 交 代 (診療:14時~)				
	午 後		予約再来				
外 科	午 前	1 診	竹本 大樹	安宅 正幸	近藤/竹本/安宅 交代	竹本 大樹	安宅 正幸
		3 診	近藤 亮	角 賢一	【アミノインデックス外来】 木村 修	近藤 亮	角 賢一
	午 後		予約再来				
	乳 腺 ※午後(予約制) (14時~15時30分)	午前 午後	廣岡 保明	角 賢一	角 賢一 (新患のみ) 廣岡 保明/ 角 賢一 (新患のみ)		角 賢一 (新患のみ)
腎臓外科	午前/午後		杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤
整形外科	午 前	1 診	根津 明菜	岸 隆広	根津 明菜	中村 達彦	岸 隆広
		2 診		中村 達彦	●鳥取大学医師 (診療:9時~)		●奥野 誠 (第1、第3、第5)
		3 診	●岸本 英彰 (診療:9時~)			三木 純	
		人工関節	●岸本 英彰 (診療:9時~)				
		骨粗鬆症	●岸本 英彰 (診療:9時~)	中村 達彦		中村 達彦	
	午 後		三木 純 (診療:14時~)	三木 純 (診療:13時~)		三木 純 (診療:14時~)	三木 純 (診療:14時~)
リハビリテーション科	午 後			岸 隆広			岸 隆広
産婦人科	午 前		片桐 千恵子	下雅意 るり	下雅意 るり	片桐 千恵子	石原 幸一
	午 後		片桐 千恵子(第1、第3、第5) 石原 幸一(第2、第4)	片桐 千恵子	石原 幸一	下雅意 るり	
	女性内分泌・思春期 (14時~16時)						片桐 千恵子 (予約制)
泌尿器科	午 前 (受付:11時まで)		●鳥取大学医師 (診療:9時~)			●鳥取大学医師 (診療:9時30分~)	●宮川 征男
眼 科	午 前		小松 恵子 (予約外:~11時まで)	山崎 厚志 (予約外:~10時まで)	小松 恵子 (予約外:~11時まで)	山崎 厚志 (予約外:~10時まで)	小松 恵子 (予約外:~11時まで)
	午 後		山崎 厚志 (予約外:~15時30分まで)		山崎 厚志 (予約外:~15時30分まで)		
放射線科	午前・午後		中村 希代志	中村 希代志/ ●鳥取大学医師	中村 希代志	中村 希代志	中村 希代志
皮膚科	午 後 (受付:13時30分~16時まで)					●鳥取大学医師 (診療:14時~)	
ドック健診センター		1 診	鶴原 一郎		鶴原 一郎		鶴原 一郎
		2 診		工藤 浩史	工藤 浩史	工藤 浩史	
		3 診	木村 修	木村 修		木村 修	木村 修

※内科、外科、整形外科の午後は原則、予約再来ですが、救急、紹介患者さんにつきましては従来通り対応しています。
 ※●は非常勤医師です。
 ※各診療科とも緊急手術等のため休診となる場合もあります。



100年後の未来のために
私達が出来ること
医療の現場からSDGs



受付・診療時間	午 前	午 後	お問い合わせ
受付時間	8時00分~12時00分まで	14時30分~16時00分まで※	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地
診療時間	8時30分より	15時00分より	TEL(0859)29-1100(代)

※予約はこの限りではありません

社会医療法人同愛会年誌

「博愛便2025」HAKUAI information

発行日 令和7年7月

発 行 社会医療法人同愛会

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1880番地

TEL (0859) 29-1100(代)

FAX (0859) 29-6322

印 刷 東京印刷株式会社



社会医療法人同愛会 事業所連絡先

博愛病院

〔代 表〕	TEL(0859)29-1100	FAX(0859)29-6322
〔地 域 連 携 室〕	TEL(0859)48-0377	FAX(0859)48-0376
〔診療放射線部(共同利用)〕	TEL(0859)48-0418	FAX(0859)48-0376
〔ドック健診センター〕	TEL(0859)48-0880	FAX(0859)48-0881
〔訪問看護ステーション博愛〕	TEL(0859)24-8119	FAX(0859)24-8120
〔訪問リハビリテーション博愛〕	TEL(0859)29-1136	FAX(0859)24-8120
〔サービスプラン博愛〕	TEL(0859)48-0366	FAX(0859)48-0367
〔ヘルパーステーション博愛〕	TEL(0859)29-2322	FAX(0859)48-0367

博愛こども発達・在宅支援クリニック

TEL(0859)29-8010 FAX(0859)29-8020

ふくよね博愛クリニック

TEL(0859)21-0171 FAX(0859)34-5676

介護老人保健施設やわらぎ

TEL(0859)31-1000 FAX(0859)31-1003

医療支援型グループホーム博愛

TEL(0859)30-3318 FAX(0859)30-3319

